

大和田遺跡群

かわ はら ばた

川原端遺跡

長野県佐久市大字鳴瀬字川原端遺跡発掘調査報告書  
(弥生時代中期~古墳時代後期集落)

2001.3

佐久市土地開発公社  
長野県佐久市教育委員会

大和田遺跡群

かわ はら ばた

川原端遺跡

長野県佐久市大字鳴瀬字川原端遺跡発掘調査報告書  
(弥生時代中期~古墳時代後期集落)

2001.3

佐久市土地開発公社  
長野県佐久市教育委員会



川原端遺跡航空写真（○が川原端遺跡、北を望む）



川原端道路航空写真（西を望む）



川原端遺跡航空写真



川原遺跡航空写真



作業風景



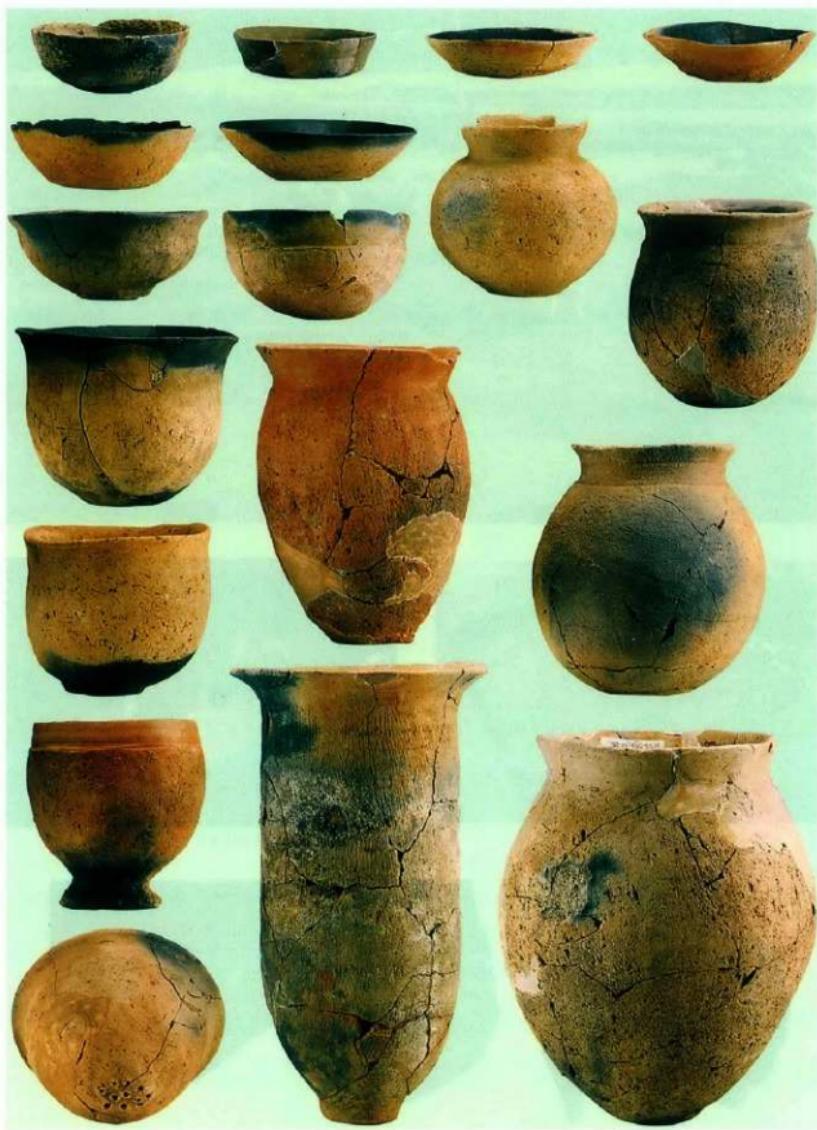
H 21号住居址（北西より）



H 21号住居址カマド（西より）



H 52号住居址出土剥片石器



H 54 号住居址出土遺物

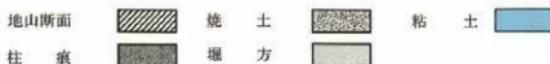
## 例　言

- 本書は平成8年度の佐久市土地開発公社による宅地造成工事に伴う発掘調査の報告書である。
- 発掘調査は佐久市土地開発公社の委託を受け、佐久市教育委員会埋蔵文化財課、文化財課（平成11年に変更）が担当した。
- 本書に掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1：25,000）、佐久市発行の基本図（1：2,500）を使用した。
- 発掘調査は佐々木宗昭・須藤隆司・小林真寿・森泉かよ子が主に担当し、本書の編集は堀益子・森泉、執筆は森泉が行った。
- 航空写真・全測図は共同測量社に委託し、それを使用している。
- 自然科学分析・鑑定関係は次の方々に依頼した。  
獸骨鑑定　群馬県立大間々高校教諭　宮崎重雄氏  
樹種鑑定　パリノ・サーヴェイ株式会社
- 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

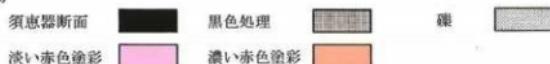
## 凡　例

- 遺構の略号は次の通りである。  
H—竪穴住居址、D—土坑、P—単独ピット、M—溝址
- 遺構番号は発掘調査時の番号を変更しないでそのまま使用しているため欠番がある。
- 挿図中の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は図中に明記してある。
- 挿図中の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は図中に明記してある。
- 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

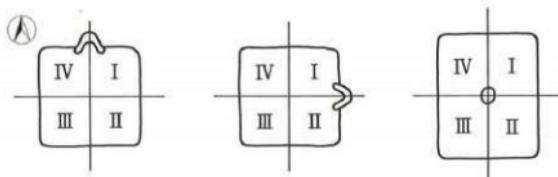
遺構



遺物



- 遺物の出土土地点は下図の住居址分割によるものである。



- 青色の線は掘方で検出された遺構を示す。

## 目 次

### 卷頭図版

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の概要.....	1
第1節 調査の経緯.....	1
第2節 調査体制.....	2
第3節 調査日誌.....	3
第4節 検出遺構・遺物の概要.....	4
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境.....	4
第Ⅲ章 基本層序.....	6
第Ⅳ章 遺構と遺物.....	7
第1節 坪穴住居址.....	9
第2節 掘立柱建物址.....	119
第3節 土坑.....	130
第4節 清址.....	136
第5節 グリット・検出面・表採遺物.....	139
第6節 単独ピット.....	147
第5章 総括.....	148
引用参考文献.....	160
付表 遺構一覧表.....	161
付録	
川原端遺跡から出土した炭化材・炭化物の同定 パリノ・サーヴェイ.....	168
川原端遺跡出土の獸骨 宮崎 重雄.....	171

### 写真図版

## 挿図目次

第1図 川原端遺跡位置図	1	第46図 H29号住居址	61
第2図 川原端遺跡遺構配置図	4	第47図 H29号住居址	62
第3図 周辺遺跡分布図	5	第48図 H30号住居址	62
第4図 基本層序模式図	6	第49図 H31号住居址	63
第5図 川原端遺跡全剖面図	8	第50図 H32号住居址	64
第6図 H 1号住居址	10	第51図 H33号住居址	65
第7図 H 2号住居址	11	第52図 H34号住居址	66
第8図 H 2号住居址	12	第53図 H35号住居址	67
第9図 H 3号住居址	14	第54図 H36号住居址	68
第10図 H 4・5号住居址	15	第55図 H38号住居址	69
第11図 H 6号住居址	17	第56図 H38号住居址	70
第12図 H 7号住居址	18	第57図 H38号住居址	71
第13図 H 7号住居址	19	第58図 H40・42号住居址	74
第14図 H 8号住居址	117	第59図 H43号住居址	76
第15図 H 9号住居址	21	第60図 H43号住居址	77
第16図 H 10号住居址	23	第61図 H49号住居址	78
第17図 H 10号住居址	24	第62図 H54号住居址	80
第18図 H 10号住居址	25	第63図 H54号住居址	81
第19図 H 10号住居址	26	第64図 H54号住居址	82
第20図 H 11号住居址	28	第65図 H55号住居址	84
第21図 H 12号住居址	29	第66図 H55号住居址	85
第22図 H 13号住居址	29	第67図 H56号住居址	86
第23図 H 14号住居址	31	第68図 H58号住居址	87
第24図 H 14号住居址	32	第69図 H61号住居址	89
第25図 H 15号住居址	33	第70図 H62号住居址	90
第26図 H 16号住居址	35	第71図 H17号住居址	91
第27図 H 16号住居址	36	第72図 H37号住居址	92
第28図 H 18号住居址	38	第73図 H44号住居址	94
第29図 H 19号住居址	39	第74図 H44号住居址	95
第30図 H 20号住居址	40	第75図 H45号住居址	96
第31図 H 21号住居址	41	第76図 H45号住居址	97
第32図 H 21号住居址	42	第77図 H46号住居址	99
第33図 H 21号住居址	43	第78図 H46号住居址	100
第34図 H 21号住居址	44	第79図 H46号住居址	101
第35図 H 22号住居址	46	第80図 H47号住居址	102
第36図 H 23号住居址	47	第81図 H48号住居址	104
第37図 H 24号住居址	48	第82図 H48号住居址	105
第38図 H 25号住居址	49	第83図 H50号住居址	107
第39図 H 26号住居址	51	第84図 H50号住居址	108
第40図 H 26号住居址	52	第85図 H51号住居址	109
第41図 H 27号住居址	54	第86図 H52号住居址	111
第42図 H 27号住居址	55	第87図 H52号住居址	112
第43図 H 27号住居址	56	第88図 H53号住居址	113
第44図 H 27号住居址	57	第89図 H53号住居址	114
第45図 H 28号住居址	60	第90図 H57号住居址	115

第91図	H59号住居址	116
第92図	H39号住居址	118
第93図	H60号住居址	118
第94図	F1・F2号掘立柱建物址	119
第95図	F3号掘立柱建物址	120
第96図	F4号掘立柱建物址	121
第97図	F5・6号掘立柱建物址	122
第98図	F7・F8・F9号掘立柱建物址	125
第99図	F10・F11・F12号掘立柱建物址	126
第100図	F13・F14号掘立柱建物址	127
第101図	F15・F16・F17号掘立柱建物址	128
第102図	F18・F19・F20号掘立柱建物址	129
第103図	古墳時代の土坑(D3・D6・D7・D10・D1)	130
第104図	古墳時代の土坑(D12・D15・D17・D21)・ 弥生時代の土坑(D5)	131
第105図	弥生時代の土坑(D8・D9・D18)	132
第106図	弥生時代の土坑(D19・D20・D22・D23)	133
第107図	弥生時代の土坑(D25)・時代不詳の土坑 (D13・D14・D24)	134
第108図	時代不詳の土坑(D26)	135
第109図	M1号溝址	137
第110図	M2号溝址	138
第111図	M3号溝址	139
第112図	M4号溝址	139
第113図	グリット・検出・表探遺物	140
第114図	グリット・検出・表探遺物	141
第115図	グリット・検出・表探遺物	142
第116図	グリット・検出・表探遺物	143
第117図	川原端遺跡土坑・単独ピット全体図	146
第118図	単独ピット出土遺物	147
第119図	古墳時代後期杯分類図	150
第120図	古墳時代後期土器編年図(1)	151
第121図	古墳時代後期土器編年図(2)	152
第122図	古墳時代後期土器編年図(3)	153
第123図	古墳時代後期土器編年図(4)	154
第124図	古墳時代住居址変遷図	156
第125図	弥生時代住居址変遷図	157
第126図	弥生時代土器編年図(1)	158
第127図	弥生時代土器編年図(2)	159

# 第Ⅰ章 発掘調査の概要

## 第1節 調査の経緯

川原端遺跡は佐久市鳴瀬地区にあり、蛇行し西流する湯川右岸の河岸段丘上にある。西に1kmほど流れて千曲川と合流する。佐久でも有数の遺跡である一本郷遺跡群は2kmほど上流にある。標高646~648mを測る。本遺跡は湯川の第一の河岸段丘上にあたり、大和田遺跡群として周知の遺跡であった。今回、佐久市土地開発公社により住宅団地造成事業が行われる事になり、試掘調査をしたところ、遺構・遺物が検出された。開発により、これらの遺構・遺物の破壊が余儀なく、発掘調査をする運びとなり、佐久市教育委員会が調査を実施した。

遺 蹟 名 大和田遺跡群川原端（かわはらばた）遺跡（略号 NOK）

所 在 地 佐久市大字鳴瀬字川原端1670他

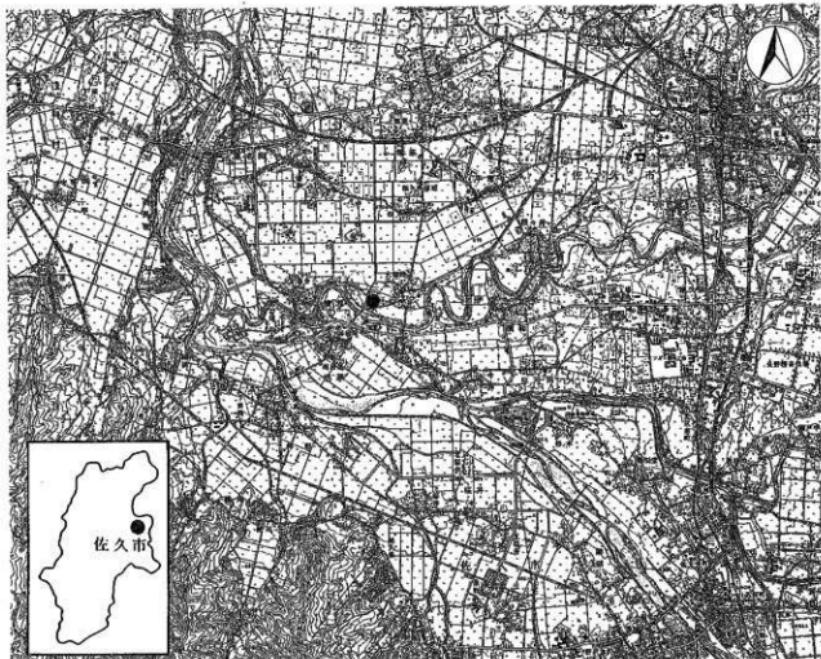
調 査 委 託 者 佐久市土地開発公社

開 発 事 業 宅地造成工事

発掘調査期間 平成8年8月29日~10月31日

整理調査期間 平成8年11月~平成13年3月

調査面積 5,000m<sup>2</sup> (開発対象面積13,804m<sup>2</sup>)



第1図 大和田遺跡群川原端遺跡位置図 (1:50,000)

## 第2節 調査体制

### 調査受託者

教育長 依田 美夫

### 事務局

(平成11年度より)『埋蔵文化財課』から『文化財課』に変更)

教育次長 市川 源(平成8・9年度) 北沢 福(平成10年度) 小林 宏造(平成11・12年度)

文化財課長 北沢 元平(平成8年度) 須江 仁胤(平成9・10年度) 草間 芳行(平成11・12年度)

管理係長 堀澤 慶子(平成8・9年度)

管理係 田村 和広(平成8・9年度)

文化財係長 大塚 達夫(平成8・9年度) 萩原 一馬(平成10・11・12年度)

文化財係 林 幸彦 三石 宗一(平成8・9・10年度) 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也

富沢 一明 上原 学 山本 秀典(平成11・12年度) 出澤 力(平成11・12年度)

調査主任 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

調査副主任 塙 益子

調査担当者 須藤 隆司 小林 真寿 三石 宗一 佐々木 宗昭 森泉 かよ子

### 調査員

(平成8年)

井上 行雄 並木ことみ 倉見 渡 和久井義男 成沢 富子 堀籠みさと 堀籠 淑子 金森 治代

磯貝 ハナ 柏原 松枝 神津さよ子 神津登久子 佐藤けい子 井出徳四郎 中島フクジ 渡辺久美子

浅沼ノブ江 細萱ミスズ 木内 明美 江原 富子 小林 幸子 宮川百合子 上原 幸子 小田川 栄

堀籠 因 篠崎 清一 依田 みち 横田 培枝 花里香代子 阿部 和人 増野 深志 山浦 豊子

柳澤千賀子 小松三喜枝 碓永 健 山口 丑男 角田すづ子 角田トミエ 東城 友子 神津ツネヨ

新津 幸雄 花里八重子 萩原 宮子 市川チイ子 岩下 吉代 岩下とも子 岩下 文子 工藤しづ子

武田まつ子 武田 千里 堀籠 成子 大井みつる 田中 章雄 水間 雅義 小幡 弘子 飯沢つや子

小林 立江 茂木とよ子 林 美智子 花里四之助 花里三佐子 佐藤 愛子 中條 悅子 高瀬 武雄

小金澤たけみ 関口 正 相沢今朝義 小須田サクエ 山崎 直 桃井もとめ 白井おくに 德田 代助

(平成9年)

柳澤千賀子 小金澤たけみ 小林 立江 佐藤 愛子 水間 雅義 林 美智子 小幡 弘子 上原 幸子

宮川百合子 小田川 栄 並木ことみ

(平成10年度)

柳澤千賀子 小田川 栄 小金澤たけみ 小林 立江 佐藤 愛子 林 美智子 水間 雅義 小幡 弘子

(平成11・12年度)

柳澤千賀子 小田川 栄 小金澤たけみ 小林百合子 小山 功 佐藤 愛子 中條 悅子 中島フクジ

林 美智子 花里四之助 花里三佐子 細谷 秀子 水間 雅義 山浦 豊子



### 第3節 調査日誌

(平成8年度)

平成8年8月29日～9月20日

重機により、トレーナーを入れ遺構検出をする。

重機で遺構検出地点の表土削平。

1班体制で調査区東側より検出作業に入る。

9月24日・25日

調査期間がなく2班体制で調査員増員。

遺構検出作業。遺構の掘り下げに入る。

9月26日～10月15日

4班体制で調査員を増員し総計40人となる。

10月16日～10月29日

さらに増員され77名体制となる。

10月30日

全体清掃。

10月31日・11月1日

機材の搬出。現場での調査終了。

11月4日

セスナによる航空測量。

1月27日～3月21日

土器洗浄、注記、図面修正、写真整理作業。

(平成9年度)

平成9年11月26日～平成10年3月9日

土器接合、石膏復元、拓本、図面修正作業。

(平成10年度)

平成10年4月1日～6月25日

土器接合、石膏復元、拓本、遺構図トレース作業。

9月26日～11月20日

石膏復元、土器実測、遺構図トレース作業。

(平成11年度)

平成11年11月26日～1月14日

石膏復元、土器・石器実測、遺構・遺物図の

トレース作業。

(平成12年度)

平成12年4月～平成13年3月

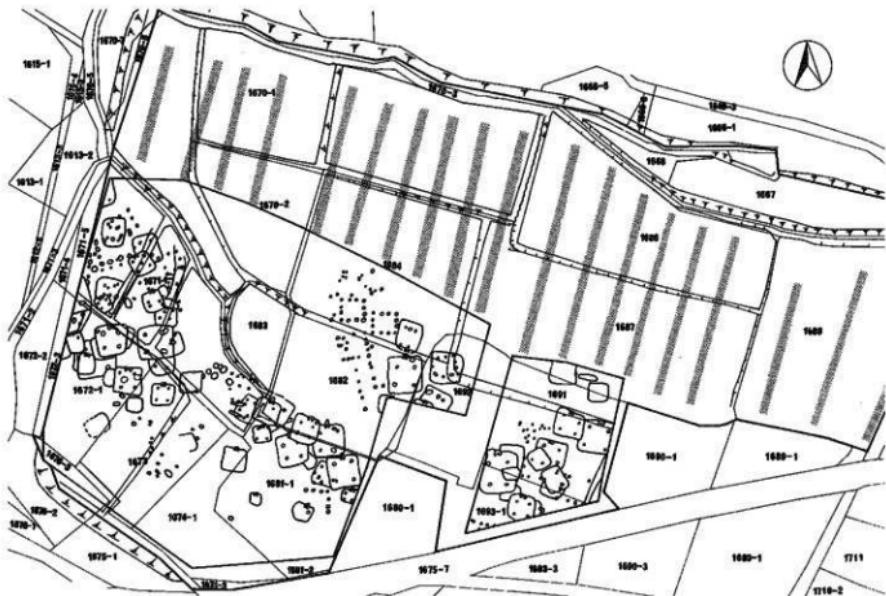
遺構・遺物図のトレース、図版作成、原稿執筆、

編集を行い、報告書を刊行する。



#### 第4節 検出遺構・遺物の概要

遺構	遺物	石器	金属器
堅穴住居址 62棟	土器	打製石器 剥片石器 磨製石器	鉄製刀子 鉄製釘 鉄製鎌 金環
弥生時代 13棟	弥生式土器		獸骨 ニホンシカ ノウサギ
古墳時代 49棟	土師器		
掘立柱建物址 20棟	須恵器		
単独ピット 123個			
土 坑 22基			
溝 址 4本			



第2図 川原端遺跡遺構配置図 (1:1,000)

#### 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

大和田遺跡群川原端遺跡は佐久市の北西にあり、湯川と千曲川が1.5km 西で合流するが、遺跡は西流する湯川右岸の河岸段丘上にあたる。標高646~648mを測り、湯川の河床に向かって段をなして標高が下がっている。湯川の氾濫原で、遺跡の基盤層は砂・砂礫層である。しかし、開発対象区の北東は第2回にみるように低く、自然堤防の後背邊

地となって、湧水が激しい。遺構のみられるるの自然堤防上の高い地点である。

周辺の遺跡についてみると（第4図）蛇行する湯川の左右両岸に遺跡が濃厚に分布していることがわかる。まず、右岸では河岸段丘上に3. 横々井居屋敷遺跡があり、平安時代の集落が試掘調査により確認されている。また県史跡の横々井館跡が同地にあり、平安時代から中世にかけて活躍した佐久党の武士団横々井氏の居館と推定されている。同じ湯川右岸の4. 鳴沢遺跡群・5. 北西久保遺跡・6. 一本柳遺跡遺跡群は弥生時代～中世にかけてほぼ連続と集落と墓域が展開した佐久でも有数の遺跡群である。遺構の密集度が高く、ことに注目される遺物を出土している。五里田遺跡では弥生時代の鉄劍、鉄鋼、銅鏡、北西久保遺跡では多量の形象埴輪、一本柳遺跡群では金箔の施された青銅製馬銅馬などがある。7. 中西の久保遺跡・左岸の8. 仲田遺跡などはその下の河岸段丘上の遺跡で、古墳～平安時代を中心とした集落である。仲田遺跡からは奈良時代の八花鏡が出土している。9. 小畠遺跡群では绳文時代創早期の爪形文土器と石器を出土している。12. 宮の上遺跡群では根々井芝宮遺跡が発掘調査され、弥生時代中期、古墳時代後期、平安時代の集落が確認されている。ここでは弥生時代中期の焼失家屋から壺に入った黒曜石の原石が出土している。15. 今井西原遺跡では古墳時代前期の集落が確認されている。

殊に弥生時代中期の集落は、南流から西流に方向を変え蛇行する湯川の左右両岸に、多くみられる。弥生時代中期の遺跡が上段の台地を中心として展開しており、佐久市域ではこの一番が弥生文化発祥の地といえるようである。また古墳初頭から前期の集落も分布し、弥生文化と同様古墳時代の墓あけもこの湯川沿いが注目される。



第3図 周辺遺跡分布図

川原端遺跡は弥生時代中期と古墳時代後期を中心とする集落址である。この低い段丘で、このように規模の大きい集落が検出されたことは、遺跡の広がりについて再認識され、今後の調査に貴重な資料提供となるであろう。

第1表 周辺遺跡一覧表

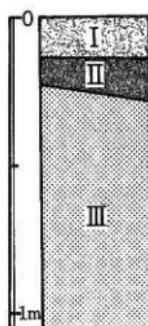
No	遺跡名	所在地	立地	時代	備考
1	大和田遺跡群	鳴瀬字川原端	段丘	弥・古	本報告書
2	大和田脇敷遺跡群	鳴瀬字脇敷・ついじ	段丘	弥・古	
3	根ヶ井居屋敷	根ヶ井字居屋敷	段丘	弥・中世	祭祀根ヶ井跡あり
4	鳴瀬遺跡群	根ヶ井字鳴瀬・五里田地	台地	弥・中	平成9年度発掘調査
5	北西久保遺跡	岩村田字北西久保	舌状台地	弥・中	昭和57・60年度発掘調査
6	一本森遺跡群	岩村田字一本森・西一本森	台地	弥・中	平成3～12年度発掘調査
7	中西の久保遺跡群	岩村田字中西の久保	段丘	弥・平	平成4～10年度発掘調査
8	仲田遺跡	根ヶ井字仲田	段丘	古～平	平成7年度発掘調査
9	寺畠遺跡群	根ヶ井字寺畠・山下塚	台地	弥～平	平成6・7年度発掘調査
10	源助分遺跡群	根ヶ井字源助分・北源助分	段丘	弥～平	
11	赤石河原	根ヶ井字赤石河原	段丘	弥・平	
12	宮の上遺跡群	根和字宮の上・一本松	台地	弥～平	昭和62・63年度宮の上I・II遺跡 平成4年度根ヶ井芝宮遺跡
13	三河町大堀	三河町大堀414-5	台地	古	
14	北久保遺跡	根和字北久保	段丘	古～中	
15	今井西原遺跡	今井字丸反田地	台地	古～平	昭和49年度発掘
16	寺塚遺跡群	根和字寺塚	台地	弥～中	新規古墳あり
17	鐵心田遺跡	根和字鐵心田	段丘	弥～平	
18	白山遺跡群	鳴瀬字白山地	台地	弥～平	
19	鳴瀬中原敷遺跡群	鳴瀬字中原敷・殿中	段丘	弥・平・中	
20	鳴瀬宮の前遺跡	鳴瀬字宮の前	台地	弥～平	
21	岩尾城跡	鳴瀬字城跡	台地	中	
22	F北古原遺跡	鳴瀬字下北古原	台地	半・中	
23	落合活塙遺跡群	鳴瀬字活塙	段丘	弥～平	
24	上の平遺跡群	鳴瀬字上の平	台地	弥～平	

### 第三章 基本層序

大和田遺跡群川原端遺跡は湯川の右岸の河岸段丘上にあって、湯川の氾濫原を基盤層としている。標高は645～648m前後を測り、低い地点は現在の湯川の河原とほぼ同じ標高となっている。

湯川沿いの氾濫原の土壤は表面に浅い水田層があり、その下に疊層または砂疊層となっている。土の色は灰色を呈している。これらは水性の堆積である。

透構確認面は第II・第III層上であり、構築面も同様である。所によってシルト層、砂疊層と堆積がことなることがある。



第4図 基本層序模式図

第I層 褐灰色土層 (10Y R 4/1)

水田層

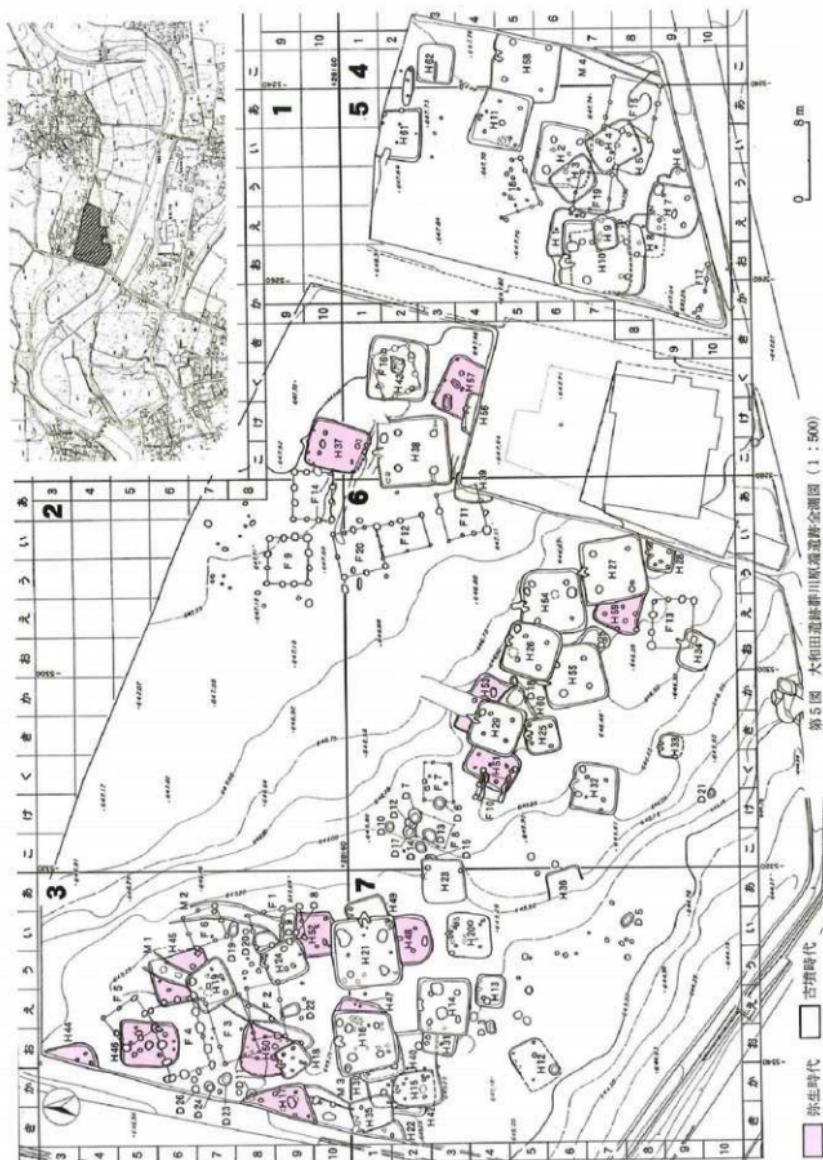
第II層 にぶい黄褐色土 (10Y R 6/4)

シルト質土。

第III層 灰黃褐色土 (10Y R 4/2)

砂・砂疊層

## 第IV章 遺構と遺物



## 第1節 積穴住居址

### 1. 古墳時代

#### 1) H 1号住居址（第6図、第2表、図版一・三十八）

調査区東側、5え6グリットにあり、古墳時代後期のH 9・H 10号住居址に切られる。東西474cmを測り、南北に長い形態であるが、重複して南北の長さはわからない。長軸方位はN-9°-Wを指し、カマド等火穴は検出されていない。ピットは西壁下中程に小ピット3個、北に1個あるが主柱穴は検出されていない。

掲載遺物には：土器部有段口縁壺（1）、S字壺（2・3）、壺（4・5）、小型丸底（11）、長胴壺（8）、丸胴壺（9）、瓶（10）、杯（6・7）、スリ石（13-15）がある。出土遺物は2時期に大別され、古墳時代前期と後期である。後期の土器群としては、丸胴壺で口縁部より胴部が張り最大径を持つ8の壺がある。口縁の外反も緩やかで、器内もやや薄手である。6・7の杯は須恵器杯蓋の模倣杯で、口縁部横ナデ、外面底部はヘラケズリ、内面はナデ調整されている。6C後半の土器群であろう。また前期の上器としては、1~5・11のハケ日残す壺・壺・有段口縁壺・S字口縁壺（S字壺は東海のものではない。）がある。これらは混入品で3C後半から4C前半の土器群である。

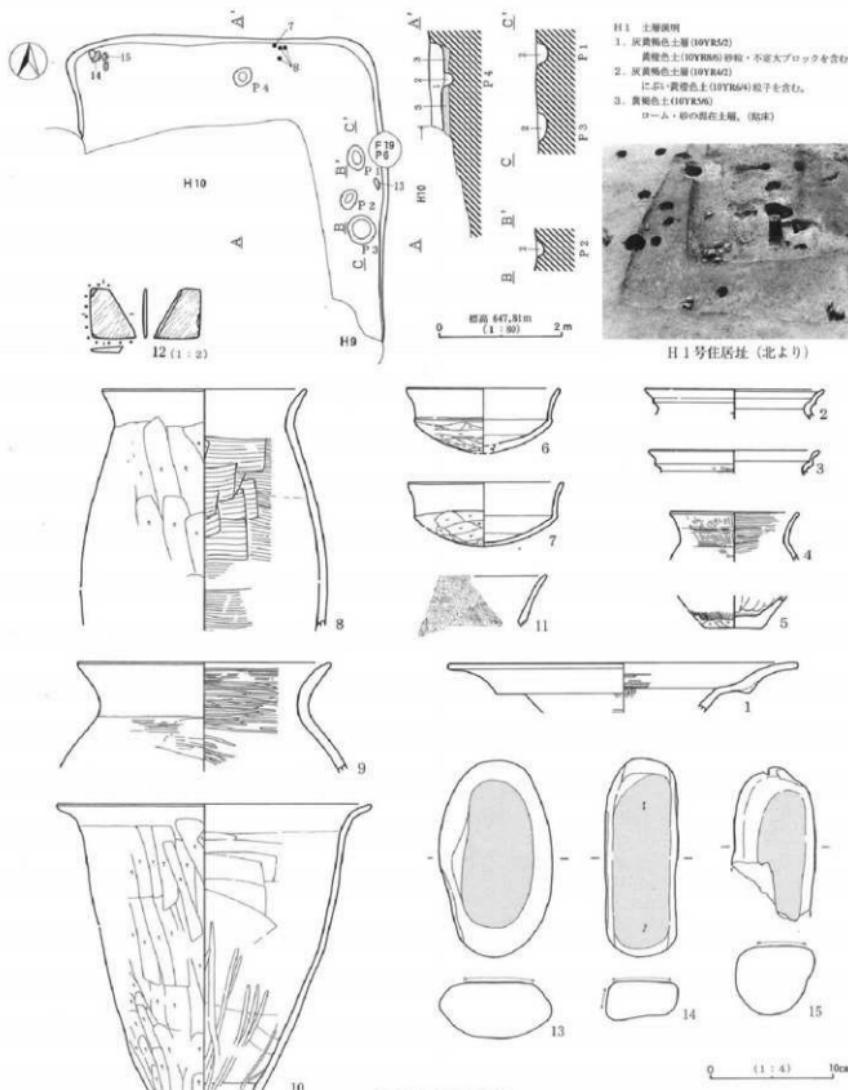
第2表 H 1号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法番	底 形・調 整	残 量・色 調	胎 土・特 徴	出土位置
1	土師器 壺	(28.6) - <4.0>	内 口縁部横位ミガキ・縫部縦位ミガキ 外 ミガキ	口縁部1.6残存 内 10Y R4/1(褐色) 外 10Y R5/2(灰褐色)	砂質。1mm以下の白色粒子 を多量、1mmの赤色粒子を 少量含む。有段口縁。	I区検出
2	土師器 壺 (S字壺)	(14.6) - <2.4>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・縫部ハケメ	口縁部1.6残存 内 10Y R6/2(灰褐色) 外 10Y R5/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	
3	土師器 壺 (S字壺)	(14.0) - <2.0>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・ハケメ	口縁部1.0残存 内 7.5Y R8/3(浅青緑) 外 10Y R5/1(褐色)	鐵質。1mm以下の白色粒子 を少量含む。	
4	土師器 小型壺	(10.5) - <3.9>	内 口縁部ハケ状工具使用の横ナデ・縫部ハ ケメ 外 口縁部ハケメ→横ナデ・縫部縦位ハケメ	口縁部1.2残存 10Y R7/4(にい黄緑)	きめ細かい。1mm以下の白 色粒子含む。	検出
5	土師器 壺	(4.6) - <2.6>	内 ヘラナデ 外 縫部縦位ハケメ・縫部ヘラケズリ	縫部完形(断面あり) 内 10Y R5/3(にい黄緑) 外 5Y R5/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子を多く 含む。	
6	土師器 杯	(12.5) - <5.2>	内 みこみ縦ナデ→口縁部横ナデ 底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ	口縁部1.4残存 内 5Y B7/6(黒) 外 2.5Y R7/6(黒)	鐵質。1mmの小石少量含む。	検出
7	土師器 杯	(12.7) - 5.2	内 みこみ縦ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部3.4残存 7.5Y R7/4(にい黄緑)	鐵質。4mm以下の小石を含 む。	検出
8	土師器 壺	(16.6) - <19.3>	内 口縁部横ナデ→縫部縦位ハケメ 外 口縁部横ナデ→縫部縦位ハケズリ	口縁部3.4残存 内 10Y R5/2(灰褐色) 外 7.5Y R7/6(黒) 10Y R5/3(にい黄緑)	1mm以下の黒色粒子・砂粒 を少量含む。	1層
9	土師器 壺	(20.6) - <6.8>	内 口縁部横ナデ・縫部ナデ横位ミガキ 外 縫部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1.8残存 内 5Y R3/1(黒) 外 7.5Y R6/2(灰褐色)	鐵質。白色粒子を少量含む。	1層
10	土師器 瓶	(25.6) 8.4 23.5	内 口縁部横ナデ・縫部縦位ヘナナデ→削 下半部に微細ミガキ 外 口縁部横ナデ→縫部縦位ヘラケズリ	底部は完全形・口縁1.3残存 内 10Y R7/3(にい黄緑) 外 10Y R7/2(にい黄緑)	1mm以下の白色粒子、1mm 前後の砂粒を含む。	I区・II区 検出

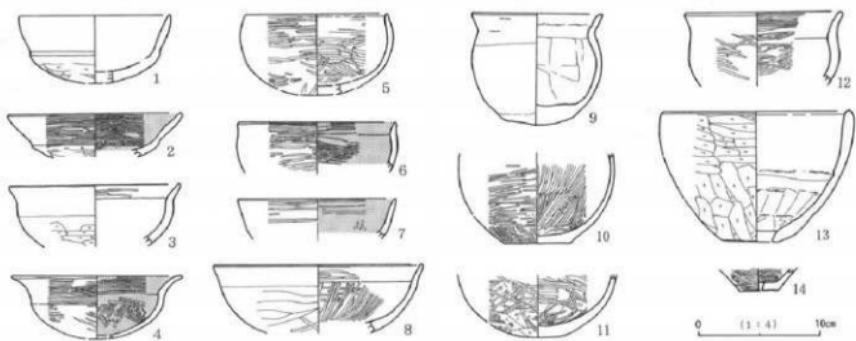
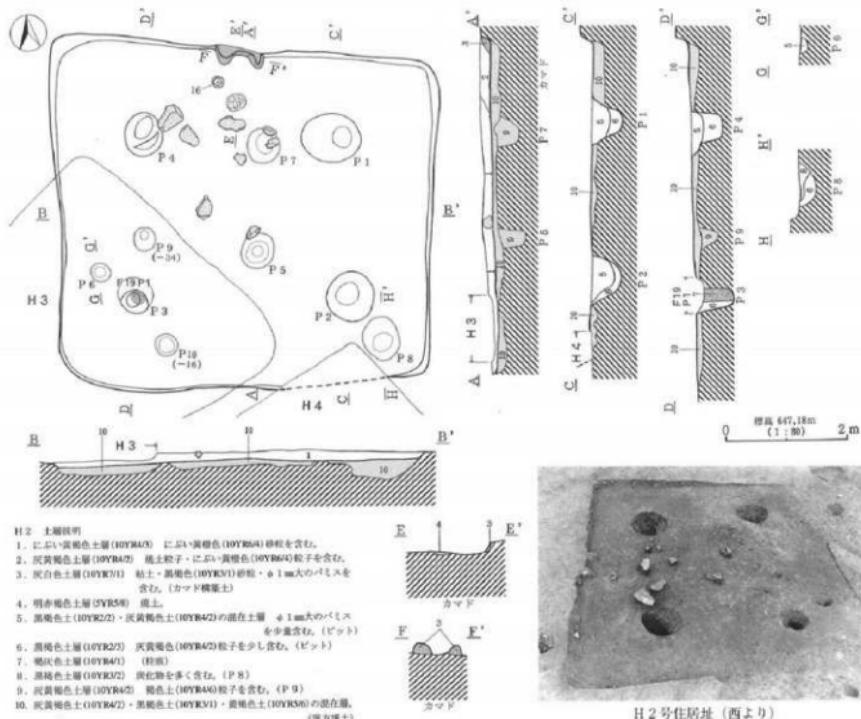
#### 2) H 2号住居址（第7・8図、第3表、図版一・二・三十六・三十九）

調査区東側、5い6グリットにあり、H 1号住居址の東にある。南北538cm、東西596cmと東西にやや長い方形の住居址である。古墳時代後期のH 3・H 4、F19に切られる。壁は北側は残るが南側はほとんどない。カマドは北壁中央に、わずかに粘土と焼土範囲が残った。主軸方位はN-10°-Eである。主柱穴はP 1~P 4で円形を呈し、径60~100cm深さ48~60cmと堀方は大きく深い。P 3で柱痕が確認された。中央のP 5・P 7は床下から検出された。

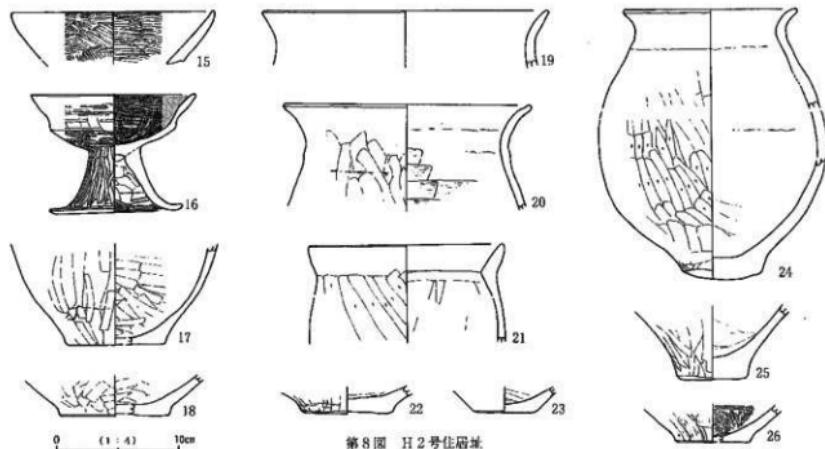
掲載遺物には上器部杯（1~8）、鉢（10~12）、壺（13~14）、高杯（15~16）、小型壺（9）、壺（17~26）がある。1の杯は器高が深く、丸い底部から外縁を持って屈曲し、口縁部がやや長く外傾する。また4は内縁をもつて口縁が強く外反する。素口縁で口縁全体が内湾する5、全体に内湾し縫部がわずかに外反する6などの杯がある。1は内面が磨耗しており、ナデ調整がとみるがはっきりしない。高杯は杯底部から外縁を持って屈曲し、口縁部が外反するもので杯内面はミガキ黒色処理される。2の杯も高杯の杯部である。瓶は鉢形の単孔である。24の壺はあまり膨脹化せず、胴部に最大径を持ち、厚い底部である。これらより、古墳時代後期の住居址の中では古い土器群であろう。



第6図 H1号住居址



第7図 H 2号住居址



第8図 H2号住居址出土遺物一覧表

第3表 H2号住居址出土遺物一覧表

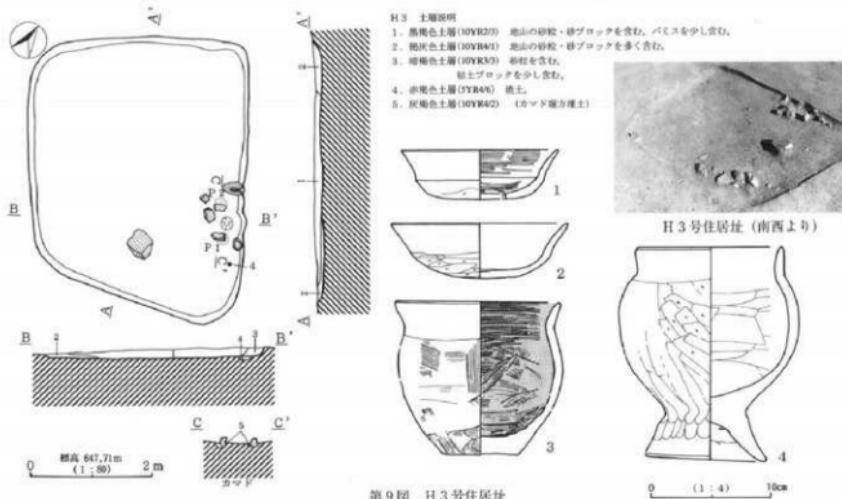
番号	器種	法規	底形・調整	残存量・色調	粘土・特徴	出土位置
1	土器器 杯	(12.4) — 外 -5.5	内 横ナデ? 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 内 10Y R 6/4(にぶい透) 外 10Y R 6/3(にぶい透)	緻密。1mmの赤色粒子を多く含む。	P1・II区
2	土器器 杯	(14.3) — 外 -3.5	内 みこみ部放射状・口縁部横ミガキ→黒色處理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/3残存 内 黒色 外 10Y R 6/3(にぶい黄透)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	IV区
3	土器器 杯	(14.0) — 外 -5.0	内 口縁部横ナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・体部横位ヘラケズリ	口縁部1/6残存(附錠) 内 5Y R 5/6(透) 外 5Y R 5/6(透)	緻密。1mm以下の白色粒子を少く含む。	P4
4	土器器 杯	(14.0) 5.1	内 ミガキ→黒色處理 ミガキ	口縁部1/6残存 内 黒色 外 10Y R 7/3(にぶい黄透)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	IV区
5	土器器 杯	(11.8) 6.5	内 ナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・体部ナデ→横位ミガキ	口縁部1/0残存 内 10Y R 5/6(附赤褐) 外 2.5Y R 0/6(透)	緻密。	P4
6	土器器 杯	(13.2) — 外 -4.1	内 横ナデ→横位ミガキ・黒色處理 外 口縁部横ナデ→横ミガキ	口縁部1/4残存 内 10Y R 3/1(黒褐色化) 外 10Y R 3/1(黒褐色)	緻密。1mm以下の白色粒子含む。	IV区
7	土器器 杯	(13.0) — 外 -3.3	内 横ナデ→ミガキ→黒色處理 横ナデ→横ミガキ	口縁部1/4残存(内面剥離) 内 2.5Y R 5/6(附赤褐) 外 2.5Y R 6/6(透)	緻密。	IV区
8	土器器 杯	(17.2) — 外 -5.5	内 横ナデ→口縁部横位ミガキ・体部放射状 ミガキ 外 口縁部横ナデ・ヘラケズリ→体部部分的 にナデ	口縁部1/6残存 内 7.5Y R 6/6(透) 外 7.5Y R 6/6(透)	緻密。白色粒子を少く含む。	IV区
9	土器器 小型甌	10.8 5.8 9	内 口縁部横ナデ→脚部横位ヘラナデ 脚部ナデ→口縁部横ナデ	口縁部~底部2/3残存 内 5Y R 7/6(透) 外 5Y R 7/6(透)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・砂粒を少く含む。 口縁に砂粒痕残る。	III区
10	土器器 甌	— 5.5 -7.3	内 横位ミガキ 横位ハケナデ→横位ミガキ	底部定形 内 7.5Y R 6/6(透) 外 7.5Y R 5/4(にぶい透)	小砂粒を少し含む。 薄手。	IV区

11	土師器 鉢	— - - <5.1>	内 外 横位ヘラナデ→ミガキ ヘラケシリ→ミガキ	底部完形 内 5Y R 6/6(橙) 外 5Y R 6/4(にぶい橙)	緻密。4mm以下の赤色粒子を多く含む。	IV区
12	土師器 鉢	(12.0) — - <6.0>	内 外 横位ミガキ 横ナデ→横位ミガキをまばらに施す。	口縁部1/4残存 内 5Y R 6/6(橙) 外 5Y R 5/4(にぶい赤褐)	1mmの赤色粒子を少し、1mm以下の石英を少量含む。	IV区
13	土師器 底	15.8 — 4.6 10.6	内 外 胸中央～下部横位ヘラナデ→口唇～ 胸中央部横ナデ 口唇部横ナデ・胸中央～胸下部横位ヘ ラケシリ→口縁～胸中央部横位ヘラケ シリ	口縁部2/3残存、底部完形 内 2.5Y R 5/6(明赤褐) 外 2.5Y R 6/6(橙)	1mmの赤色粒子・白色粒子・ 砂粒を含む。 平凹。	I区・II区
14	土師器 瓶	(3.2) — - <1.5>	内 外 ミガキ ミガキ	底部1/2残存 内 5Y R 6/4(褐灰) 外 10Y R 4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子含む。	II区
15	土師器 高杯	(16.6) — <4.2>	内 外 横位ミガキ 横位～斜位ミガキ	口縁部1/6残存 内 7.5Y R 7/4(にぶい橙) 外 5Y R 7/4(にぶい橙)	緻密。1mmの赤色粒子を含 む。	棱出
16	土師器 高杯	13.5 10.8 9.7	内 外 杯部ミガキ→黒色処理 脚部柱棒横位ヘラナデ 脚部横位ヘラナデ 杯部(ヘラナデ)横位ミガキ 脚部横位ヘラケシリ→横位ミガキ	完形 内 仟盛N15/0(黑) 仟盛R7.5Y R 6/4(にぶい橙) 外 10Y R 7/3(にぶい黄棕)	緻密。	
17	土師器 甕	(7.0) — - <8.5>	内 外 横位ヘラナデ 縦位ナデ	底部1/4残存 内 10Y R 7/4(にぶい黄棕) 外 7.5Y R 6/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・石英・砂粒 を少量含む。 瓶下部短曲。	IV区
18	土師器 甕	(6.0) — <3.5>	内 外 ヘラナデ 縦位ヘラナデ	底部1/4残存 内 5Y R 6/4(にぶい赤褐) 外 2.5Y R 5/6(橙)	砂粒を含む。	I区
19	土師器 甕	(23.6) — <4.5>	内 外 横ナデ 横ナデ	口縁部約1/2残存 内 10Y R 7/4(にぶい黄棕) 外 10Y R 7/4(にぶい黄棕)	砂粒を含む。	I区
20	土師器 甕	(20.4) — <8.6>	内 外 口縁部横ナデ・脚部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・脚部横位ヘラナデ	口縁部1/3残存 内 10Y R 4/1(褐灰) 外 7.5Y R 7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子含む。	III区
21	土師器 甕	(16.0) — <8.0>	内 外 口縁部横ナデ・脚部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・脚部横位ヘラケシリ	口縁部1/2残存 内 7.5Y R 6/4(にぶい橙) 外 2.5Y R 6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・砂粒を 含む。	P4
22	土師器 甕	(7.5) — <2.5>	内 外 ナデ 縦位ヘラナデ	底部1/3残存 内 10Y R 7/3(にぶい黄棕) 外 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	白色粒子・赤色粒子を含む。	IV区
23	土師器 甕	5.0 — <2.2>	内 外 ナデ 底底著しく判別できない。	底部1/2残存 内 10Y R 7/4(にぶい黄棕) 外 7.5Y R 7/4(にぶい橙)	1mm以下の黑色粒子含む。 砂粒を少量含む。	棱出
24	土師器 甕	(14.2) 6.5 22.2	内 外 口縁部横ナデ・胸～底部ナデ 口縁部横ナデ・脚部横位ヘラケシリ	口縁部1/2、底部完形 内 5Y R 5/0(にぶい赤褐) 外 5.5Y R 6/4(にぶい橙) 2.5Y R 5/4(にぶい赤褐)	赤色粒子・砂粒・小石含む。 底部台状に突出。	III区・IV区
25	土師器 甕	(5.8) — <6.1>	内 外 横位ナデ 縦位ヘラケシリ	底部1/4残存 内 7.5Y R 4/1(褐灰) 外 7.5Y R 4/1(褐灰)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。 底部台状に突出。	
26	土師器 甕	(6.2) — <3.1>	内 外 ハケナデ ミガキ・底部ヘラケシリ	底部1/4残存 内 7.5Y R 7/4(にぶい橙) 外 5Y R 6/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	IV区

## 3) H 3 号住居址 (第9図、第4表、図版二・三十九)

5×6グリットにあり、古墳時代後期のH 2を切る。F 19に切られる。H 2の上面で重複し、明確なプランの検出はできなかった。カマドは北壁にカマド袖の芯材石と粘土・焼土が検出された。主軸方位はN-57°-Eである。南北410cm、東西342cmの隅丸長方形を呈している。主柱穴は検出されていない。周溝は検出されていない。

掲載遺物には土師器杯(1・2)、鉢(3)、台付甕(4)がある。1の杯は比較的浅い底部から外縁があって、口縁が外反する。内面はミガキ調整される。2は外縁が明確ではなく、口縁部の横ナデによる境である。内面はナデ調整である。3は甕形の鉢で、内面はナデ調整を残し、雜にミガキ黒色処理される。H 2の破片と接合し大半がH 3の出土であるが、H 2に伴うものであろうか。台付甕は口縁部が直立し、丸い胴部に最大径を持つものである。2の杯などからはH 2号住居址より新しく、古墳時代後期の土器群であろう。



第9図 H 3号住居址

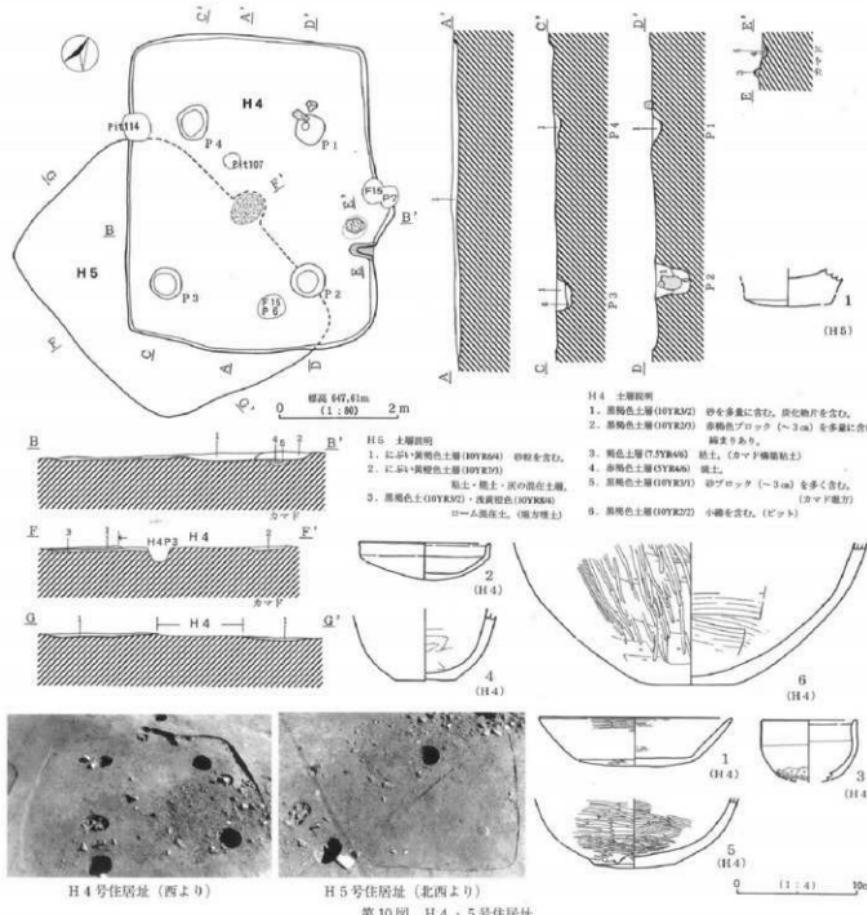
第4表 H 3号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(13.0) <4.05x	内 横ナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ハラケズリ	口縁部内残存 内 10YR 6/4(にせい黄橙) 外 7.5YR 6/4(にせい橙)	細密、1mm以下の赤色粒子 ・黒色粒子を含む。 外縁明確。	H2・III区
2	土師器 杯	14.6 4.9 4.5	内 みごみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ・体部→底部ハラケズリ	完形 内 7.5YR 7/3(にせい橙) 外 5YR 6/4(にせい橙) 5YR 6/4(にせい橙) 5YR 7/4(にせい橙)	1mm以下の白色粒子、1mm の黒色粒子含む。 外縁不明確。	検出
3	土師器 鉢	13.8 6.3 12.4	内 口縁部横ナデ→胴部ハケナデ→口縁部横 位ミガキ・胴下半→底部横位ミガキ(?) →黒色處理 外 胴部→底部ハケナデ→ハラケズリ→口縫 部横ナデ	口縫・胴部完形(胴部一部欠損) 内 N2/0(黒) 外 2.5YR 5/4(にせい赤褐)	1mm以下の白色粒子含む。	H2 II区・III区 H3 I区
4	土師器 台付甕	12.3 10.0 17.5	内 杆縫底部ナデ→口縫部横ナデ・胴部横位 ミガキ・台部ナデ・横ナデ 外 口縫部横ナデ→胴部ハラケズリ・わずか にミガキ→口縫部横ナデ	口縫部はばく完形、底部完形 内 5YR 7/4・5YR 5/2(にせい 白褐) 外 2.5YR 5/6(明赤褐)	1mmの白色粒子、赤色粒子、 黒色粒子・砂粒を含む。	

## 4) H4号住居址 (第10図、第5表、図版三・三十九)

5い7グリットにあり、H2を切り、H5に切られる。南北512cm、東西400cm 長方形を呈する。すでに生活面が削平され、堤方でプラン確認された。壁残高は最も残るところで8cmと浅い。カマドは西壁のやや南寄りにあり、わずかに粘土と焼土が残存した。主柱穴はP1～P4であり、円形を呈し径52～60cm、深さ18～58cmを測る。周溝は検出されていない。

掲載遺物は土師器杯(1～3)、鉢(5)、小型壺(4)、丸胴窓(6)がある。1の杯は底部が浅く、口縁が外斜をなして長く外傾している。内外面ミガキ調整される。2は須恵器模倣杯で丸底から緩やかな外斜を持って口縁が短



第10図 H4・5号住居址

く内傾し、端部がわずかに外反する。外面はナデ調整である。3は小型で口径に比して、器高の深い器形の鉢である。内面はナデ調整のみである。5は口縁と胴上部が欠損してわからないが、丸胴壺か鉢であろう。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第5表 H 4号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(17.5) (10.4) 3.3	内 ミガキ(唐突著しく単位の判別できない) 外 ミガキ(唐突著しく単位の判別できない)	口縁部1.8残存(底成)内 7.5Y R6/4(にぶい緑)外 5Y R6/6(底)	微密。 1mmの砂粒含む。	II区
2	土師器 杯	(11.0) 3.1	内 みこみ壁ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ(摩耗著しく判断できない)	口縁部1.4残存(外側削除)内 5Y R7/4(にぶい緑)外 5Y R6/3(にぶい緑)	微密。 歪んだ壺形。摩耗著しい。	I区
3	土師器 小瓶	(8.0) - 4.5-1.2	内 体面ナデ→口縁部横ナデ 外 体面ナデ→口縁横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1.2残存 内 10Y R5/4(にぶい黄緑)外 10Y R7/4(にぶい黄緑)	小砂粒を少量含む。 歪みあり。	I区・検出
4	土師器 小型壺	- 5.0 5.9	内 橫位ヘラナデ	底部1.4残存 内 7.5Y R6/4(にぶい緑)外 2.5Y R5/3(にぶい赤緑)	砂粒を含む。	P1
5	土師器 鉢	- 6.8 5.7	内 縞模ミガキ→黒色処理か? 外 縞模ミガキ	底部完形。 内 5Y R5/6-N30(接・暗灰)外 5Y R6/4-N2/0(にぶい緑・風)	1mm以下の白色粒子・砂粒を少量含む。	II区・検出 能方 H5扇方
6	土師器 丸胴壺	- 7.6 <11.6>	内 ヘラナデ 外 剣→横位ヘラケズリ→縦位ミガキ	底部完形 内 7.5Y R6/4(にぶい緑)外 7.5Y R3/2(黒褐)	砂粒含む。	I区・検出

## 5) H 5号住居址 (第10図、第6表、図版三・三十九)

5い8グリットにあり、H 4を切っている。F 15に切られている。北壁中央に焼土範囲がみられ、南北354cm、東西437cmの隅丸長方形プランを呈す。しかし主柱穴もなく、壁の残りもなくプランも明確ではない。

掲載遺物は土師器長胴壺の厚い台状の底部があるのみである。H 4号住居址より新しいとこの底部は混入品と考えられることから本住居址の時期を明確にする遺物はない。しかしカマドの存在や重複関係から古墳時代後期があてられる。

第6表 H 5号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 壺	二 <3.1>	内 ナデ 外 ナデ	底部ほぼ完形 内 5Y R5/4(にぶい赤緑) 外 5Y R5/4(にぶい赤緑)	小砂粒を含む。	検出

## 6) H 6号住居址 (第11図、第7表、図版四・三十九)

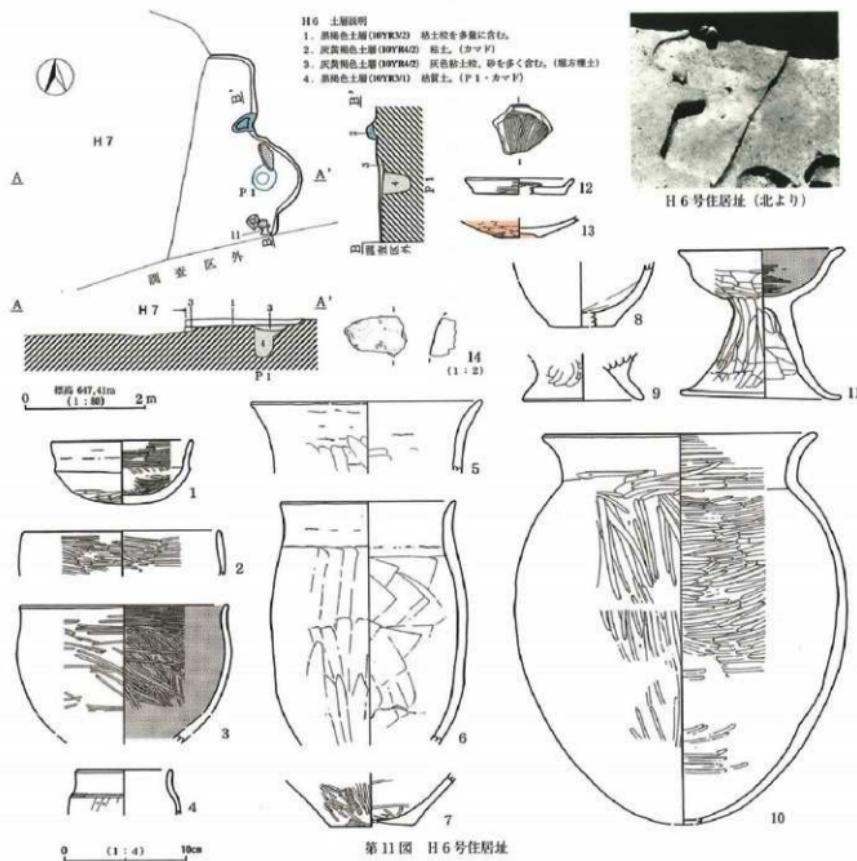
調査区の東にあり、南側が調査区域外にかかる5う9グリットにある。また西側は古墳時代後期のH 7に切られるため住居址の北東隅のみ調査した。住居址の規模はわからない。カマドは東壁にあり主軸方位はN-90°-Eである。

カマド付近には粘土がある。カマドの下面から掘方でピットが検出された。主柱穴・周溝は検出されていない。

掲載遺物には土師器杯(1)、鉢(2・3)、高杯(11)、器台(12)、瓶(7)、小型壺(4・8)、台付甕(9)、長胴壺(5・6)、丸胴壺(10)、壺(13)、不明鉄製品(14)がある。土師器杯は口径の割に器高が深く、中位で丸底から口縁が外縁を持って外反する。内面はミガキ調整される。高杯は杯底部と口縁部に明確な稜を持たず、口縁部の横ナデによって作り出された緩慢な稜線である。脚は太くラッパ状に開く。甕形土器は口縁部がわずかに外反し最大径が胴部にある。胴部の調整もヘラナデで丁寧である。10の丸胴壺は内外面ミガキ調整がなされる。これらは古墳時代後期の土器群であろう。12の器台、13の外面赤色塗装された壺は混入品であろう。

第7表 H 6号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	11.8 5.2	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1.2残存、底部完形。 内 5Y R6/5(底) 外 7.5Y R7/4(にぶい緑)	1mm以下の赤色粒子・黒色粒子を少量含む。	検出
2	土師器 鉢	(16.4) - <3.7>	内 橫位ナデ→横位ミガキ 外 橫位ナデ→横位ミガキ	口縁部1.4残存 内 5Y R7/4(にぶい緑) 外 5Y R6/6-5Y R6/4(接・にぶい緑)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。 歪み大きい。	Z・検出



第7表 H 6号住居址出土遺物一覧表(2)

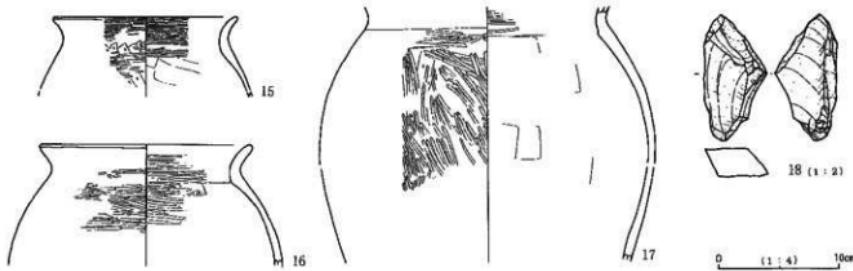
3	土器 鉢	(17.2) — <11.2>	内 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ→乱雜な ミガキ 外	口縁部1/4残存 内 N20(黒色) 外 7.5Y R6/4(にいむき)	1mm~3mmの赤色粒子、1 mmの白色粒子・黒色粒子を 含む。	カマド
4	土器 鉢	(8.0) — <3.6>	内 横ナデ 側部横位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 5Y R7/4(にいむき) 外 5Y R7/6(橙)	粉末質の細かい粘土。	検出
5	土器 鉢	(19.0) — <5.8>	内 口縁部横ナデ・側部横位ナデ 外 側部横位ナデ・側部横位ナデ	口縁部1/4残存 内 7.5Y R7/4(にいむき) 外 7.5Y R7/3(にいむき)	白色粒子・ウンモ粒子・赤色 粒子含む。	II区・検出 H7
6	土器 鉢	(14.5) — <19.8>	内 口縁部横ナデ→側部横・斜位ヘラナデ 外 側部横位ナデ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存。 内 2.5Y R 5/6-6/6(明赤褐 色) 外 2.5Y R6/6(橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子を含む。	カマド

7	土師器 瓶	— (7.0) 外 内 ナデ→部分的に疊なミガキ ナデ→乳状なミガキ	底部14残存 内 5Y R64(にぶい橙) 外 5Y R64(にほい橙)	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	カマド
8	土師器 小皿蓋	— 5.3 外 内 横位ヘラナデ ナデ	底部は位定形 内 7.5Y R4/2(灰褐) 外 5Y R5/3(にほい赤褐)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	
9	土師器 古付蓋 (台部のみ)	— (3.8) 外 内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ→側部ヘラケズリ→側部 縫位ミガキ・瓶部縫位ミガキ	底部14残存 内 2.5Y R5/4(にぶい赤褐) 外 10R 6/6(赤褐)	1mmの白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。1mmの砂粒を含む。	検出
10	土師器 丸刷毛蓋	(22.6) — (32.1)>	口縁部1/2残存(壁部) 内 7.5Y R7/2(青赤褐) 外 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1~2mmの赤色粒子・黒色粒子・白色粒子を含む。	
11	土師器 高杯	13.8 13.3 12.4	内 杯部 口縁部横ナデ・みこみ縫位ナデ・みこ み縫位・ミガキ・灰褐色 内 瓶部 滴垂横ナデ→瓶部ナデ 外 瓶部 口縫部横ナデ・底縫位ヘラケズリ 外 瓶部 滴垂横ナデ・瓶部縫位ヘラケズリ	ほぼ定形 内 杯部 N20(黒) 内 瓶部 2.5Y R6/8(橙) 外 2.5Y R6/6(橙)	赤色粒子含む。
12	土師器 器合	(7.4) (6.0) 1.3	口縫部横ナデ・みこみ縫放射後のミガキ 横位ミガキ	底部14残存 内 7.5Y R7/4(にぶい橙) 外 5Y R7/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。II区
13	土師器 蓋	— (4.0) 外 内 ナデ ハケナデ→部分的にミガキ=赤色塗彩	底部12残存 内 7.5Y R8/4 - 7.5Y R5/1 (黄褐葉・褐灰) 外 赤色塗彩	1mm以下の白色粒子を含む。	検出

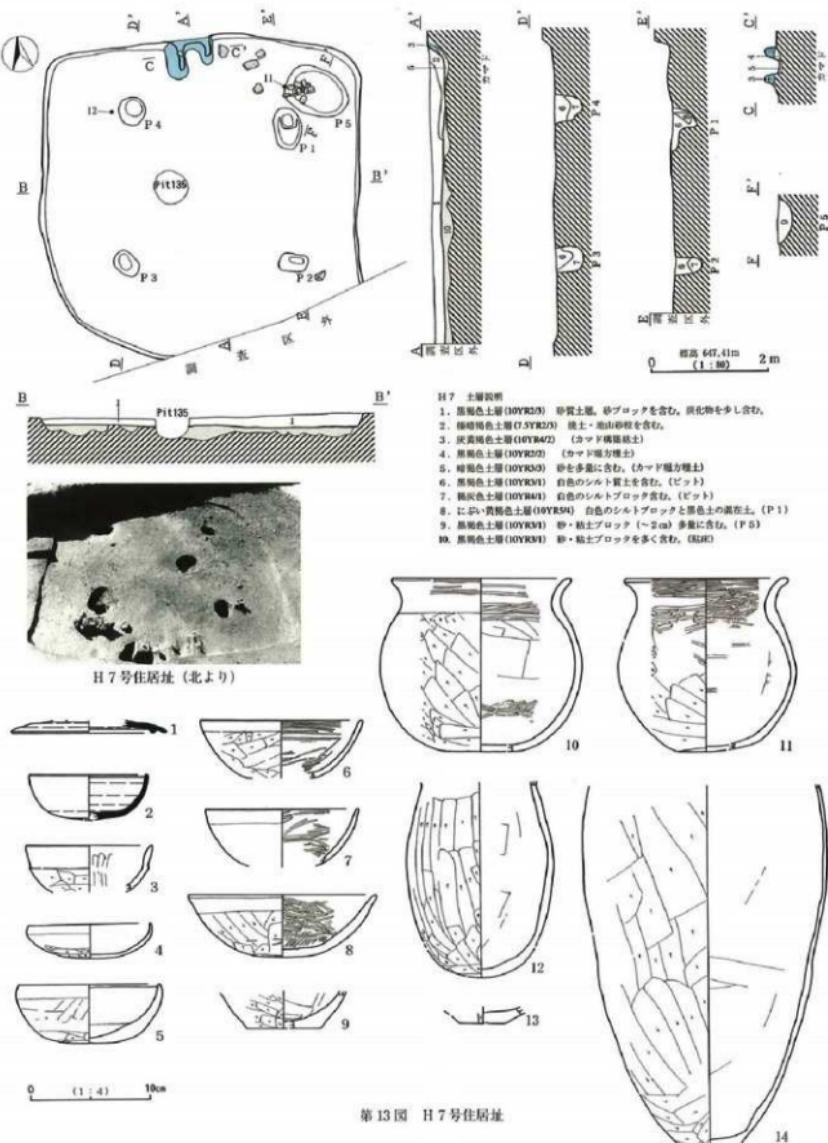
## 7) H 7号住居址 (第12・13図、第8表、図版四・四十)

5う9グリットにあり、H 6・H 8を切る。単独ピットP136に切られる。南北508cm、東西518cmを測る隅丸方形を呈する。カマドは北壁中央にあり、粘土の袖が残っていた。主軸方位はN-7°-Eを測る。主柱穴はP 1～P 4である。円形・椭円形・隅丸長方形を呈し、短径で32~48cm、深さは48cmを測る。P 5は北東隅にあり、椭円形で長径112cm、短径80cm、深さ24cmを測る。上面より10の鉢が出土している。

掲載遺物には須恵器杯蓋（1）・杯（2）、土師器杯（3~8）・鉢（10・11・16）・甕（9・12~14）・丸刷毛蓋（15・17）、黒羅石の剥片（18）がある。1の須恵器杯蓋は扁平でかえりが付く。2の杯は小型で底部回転ヘラ切り調整のままである。土師器杯は4が橙色を呈し、粉末質の胎土で器肉が薄い。浅い器形で、底部はヘラケズリし、口縁部は短く横ナデして内傾している。内面ナデ調整である。5~8の杯は素口縁で底部から口縁まで全体に内溝して外傾する器形である。内面はミガキ調整される。10・11・16は鉢で丸崩壊の器形である。長胴甕は12の胴部縫位ヘラケズリされる厚手の古墳時代の甕と、14の薄手で斜位にヘラケズリされる武藏甕とがある。これらより、古墳時代後期の新しいところの土器群であろう。



第12図 H 7号住居址



第8表 H7号住居跡出土遺物一覧表

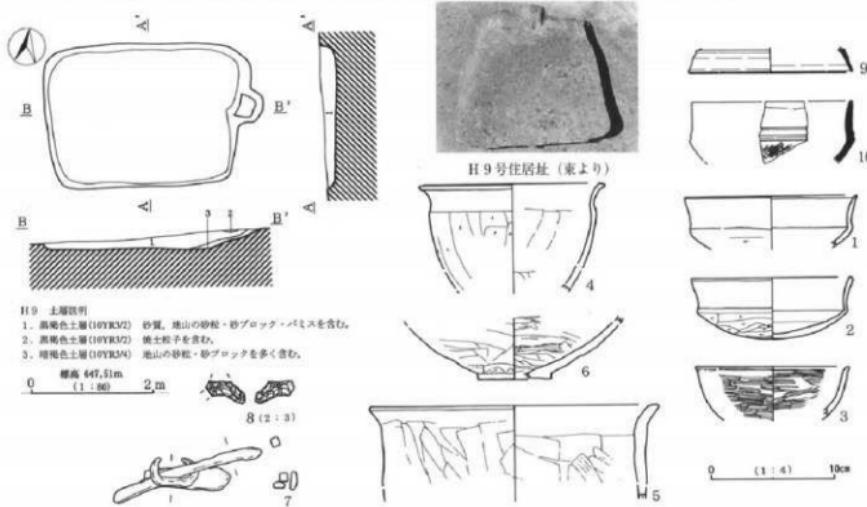
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 甕	— (13.0) 外 -1.1>	内 ロクロナダー→舟部回転ヘラケズリ	底部1/5残存 内 N60(灰) 外 N50(灰)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 かえりが付く。	
2	須恵器 杯	(10.0) — 3.8	内 ロクロナダ ロクロナダ→底部回転ヘラギリ	口縁部1/4残存 内 N60(灰) 外 N60(灰)	よく精選されている。	
3	土器器 杯	(10.6) — -2.9>	内 横ナダ→部分的にナダ 外 口縁部模倣データー部模倣ヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 5 YR 7/6(橙) 外 5 YR 5/6(にいの紫)	1mmの赤色粒子、1mm以下の黒色粒子・白色粒子を含む。	
4	土器器 杯	10.3 — 2.9	内 みこみ部ハケナダ→口縁部模倣ナダ 外 口縁部模倣ナダ→底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 2.5 YR 6/4(にいの橙) 外 2.5 YR 6/6(橙)	無記 無記質の胎土に小砂粒を少々含む。	
5	土器器 杯	(J1.8) (4.8) — 4.8	内 みこみ部ナダ、ミガキ→口縁部模倣ナダ 底部ヘラケズリ・ナダ→口縁部模倣ナダ	口縁→底部1/4残存 内 7.5 YR 8/3(浅黄褐) 外 7.5 YR 5/3(褐色)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。 底筋に本無痕あり。	
6	土器器 杯	(13.6) — 外 -1.8>	内 横位ミガキ 口縁部模倣ナダ→底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 10 Y R 4/1(褐色) 外 10 Y R 4/1(浅黄褐)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子・黑色粒子を含む。	
7	土器器 杯	(13.0) — -1.7>	内 横位ミガキ 底部ヘラケズリ・口縁部模倣ナダ→口縁部 模倣ミガキ	口縁部1/4残存 内 10 Y R 7/3(にいの青褐) 外 10 Y R 7/3(にいの青褐)	1mm以下の白色粒子を含む。	
8	土器器 杯	(15.8) — 5.2	内 横位ミガキ 版位ヘラケズリ・口縁部模倣ナダ	口縁→底部1/4残存 内 5 Y R 7/4(にいの橙) 外 5 Y R 7/4(にいの橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黑色粒子・小砂粒を含む。	
9	土器器 甕	(6.3) — -1.1>	内 ヘラナダ ヘラケズリ	底部1/6残存 内 10 Y R 6/3(にいの黄褐) 外 N30(灰褐色)	1mm以下の白色粒子・砂粒を含む。	
10	土器器 鉢	(15.0) (7.2) — 14.3	内 口縁部模倣ナダ・胴部模倣ヘラナダ→横位 ミガキ 外 胴部ヘラケズリ→横位ヘラケズリ→口縁部 模倣ナダ→口縁部模倣ミガキ	口縁部1/6残存 内 5 Y R 7/2(明褐色) 外 5 Y R 6/6(橙)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む。口縁部面取。	
11	土器器 鉢	(13.9) — 6.2 14.3	内 口縁部模倣ナダ・胴部模倣ヘラナダ→横位 ミガキ 外 口縁部模倣ナダ・胴部ヘラケズリ→横位ミ ガキ	口縁部3/4残存、底部は光形 内 7.5 Y R 5/3(にいの紫) 外 7.5 Y R 6/3(にいの紫)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子・2mm以下の赤色粒子を含む。	H6検出
12	土器器 甕	— 6.9 -16.1>	内 横位ヘラナダ 底部模倣ナダ・胴部模倣ヘラケズリ→底部 ヘラケズリ	底部3/4残存 内 10 Y R 6/1(褐色) 外 7.5 Y R 7/6(にいの橙)	1~3mmの黒色粒子を多く含む。	検出
13	土器器 甕	— 4.0 -1.4>	内 ナダ 胴下部ハケメ・底部ヘラケズリ	底部2/6残存 内 2.5 Y R 6/5(にいの橙) 外 5 Y R 5/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を少々含む。	
14	土器器 甕	— 4.4 -30.2>	内 横位ヘラナダ 胴部模倣ヘラケズリ→底部外周模倣ヘ ラケズリ	底部半形 内 7.5 Y R 3/1(黒褐色) 外 7.5 Y R 6/4(にいの橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。 武藏系。	
15	土器器 甕	(15.2) — -6.5>	内 胴部斜位ヘナダ→口縁部模倣ミガキ 口縁部模倣ナダ・胴部模倣ヘラケズリ→横 位ミガキ	口縁部1/6残存 内 5 Y R 8/2(灰褐色) 外 5 Y R 7/4-7.5 Y R 5/2 (にいの橙・灰褐色)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黑色粒子を含む。	
16	土器器 鉢	(17.5) — -9.9>	内 口縁部模倣ナダ・胴部模倣ヘラナダ→横位 ミガキ 口縁部模倣ナダ・胴部ヘラケズリ→横位ミ ガキ	口縁部1/2残存 内 7.5 Y R 7/4(にいの橙) 外 7.5 Y R 6/5(浅黄褐)	1mm以下の赤色粒子を含む。	検出
17	土器器 丸瓶	— -20.7>	内 口縁部模倣ナダ・胴部模倣ヘラナダ→口 縁部模倣ミガキ 口縁部模倣ナダ・胴部模倣ヘラケズリ→胴 部模倣ヘラケズリ	胴部1/6残存 内 10 Y R 8/4(浅黄褐) 外 10 Y R 7/4(にいの黄褐) 5 Y R 6/6(橙)	2mm以下の赤色粒子・1mm以下の黒色粒子・白色粒子を含む。	H6検出

## 8) H 9号住居址 (第15図、第9表、図版五・六・四十)

5え7グリットにあり、H 1・H 10と重複している。南北215cm、東西282cmの隅丸長方形を呈す。東壁中央に焼土がありカマドの痕跡があった。主軸方位はN-82°-Eを指す。しかし、住居址プランは重複していたこともある、つかみ切れていない可能性もある。柱穴等は検出されていない。

掲載遺物には須恵器杯蓋(9)・高杯(10)、土師器杯(1~3)・甕(4・5)・壺(6)、鉄製品(7)、黒曜石製石針がある。1・2の杯は須恵器模倣杯で、丸底から外縁をもち、わずかに屈曲して、口縁部が直立気味に外反する。3は内外面ミガキ調整、内湾外縁の口縁部が口縁端部で短く外反する。4は甕または壺であるかもしれない。5の甕は大型の長胴甕で口縁部は短く外反する。6は底部がベタ底になり、胎土は白い。9・10の須恵器杯と高杯は小破片で、器形は明確でないが、9の杯蓋は天井部と口縁の境に短く凸線が残っている。高杯は無蓋の高杯で杯底部に波状文が施される。

これらの遺物はH 1号住居址の遺物と時間的差がなく、従ってこの住居址に伴う遺物は明確でない。



第15図 H 9号住居址

第9表 H 9号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	或形・調査	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(14.0) 内 <4.2>	横ナデ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部約14残存 内 5Y R 6/6(橙) 外 5Y R 6/5(橙)	織密。	H区
2	土師器杯	(13.2) 4.9	みこみ混ナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ・底部横ナデヘラケズリ	口縁部約12残存 内 2.5Y R 6/6(橙) 外 2.5Y R 6/4(にせい橙)	織密。1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少量含む。	H区・ H10 1区 場所
3	土師器杯	(12.6) <4.3>	ナデ→横位ミガキ ナデ→横位ミガキ	口縁部約10残存 内 10Y R 7/3(にせい黄橙) 外 10Y R 7/3(にせい黄橙)	1mm以下の白色粒子・母粒少 量含む。	H区
4	土師器甕	(15.0) — <8.7>	口縁部横ナデ→胴上半部横位ヘラナデ 胴下半部斜位ヘラナデ 底部横位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部約14残存 内 2.5Y R 6/6(橙) 外 5Y R 6/4(にせい橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子を含む。 口縁端部内面	H区・カマド
5	土師器甕	(23.5) <7.6>	口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラケズリ	口縁部約12残存 内 5Y R 7/6(橙) 外 10Y R 5/4(にせい赤)	1mmの赤色粒子。1mm以 下の砂粒を少量含む。	H区
6	土師器甕	(6.0) <1.9>	横位ヘラナデ 横位ヘラケズリ	底部約4残存 内 2.5Y R 3/3(淡黄) 外 10Y R 8/5(浅黄橙) 新 10Y R 5/1(灰)	小砂粒を含む。 赤みあり。底部ベタ底。	I区

## 9) H 10 号住居址 (第16・17・18・19図、第10表、図版六・四十一・四十二)

調査区東側の5え6グリットにある。H 9に切られ、H 1を切る。住居址の規模は南北832cm、東西700cmを測り、南北に長い長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-0°で北を指す。主柱穴はP 1-P 4の4本で円形または楕円形を呈し、規従で52-76cm測り、深さ36-56cmを測る。P 1とP 3は径26-24cmの柱痕が確認された。P 1のすぐ南にも柱痕を持つP 6がある。これも主柱穴であろうか。またカマドの東脇に方形で底面が平らな掘り込みがあった。

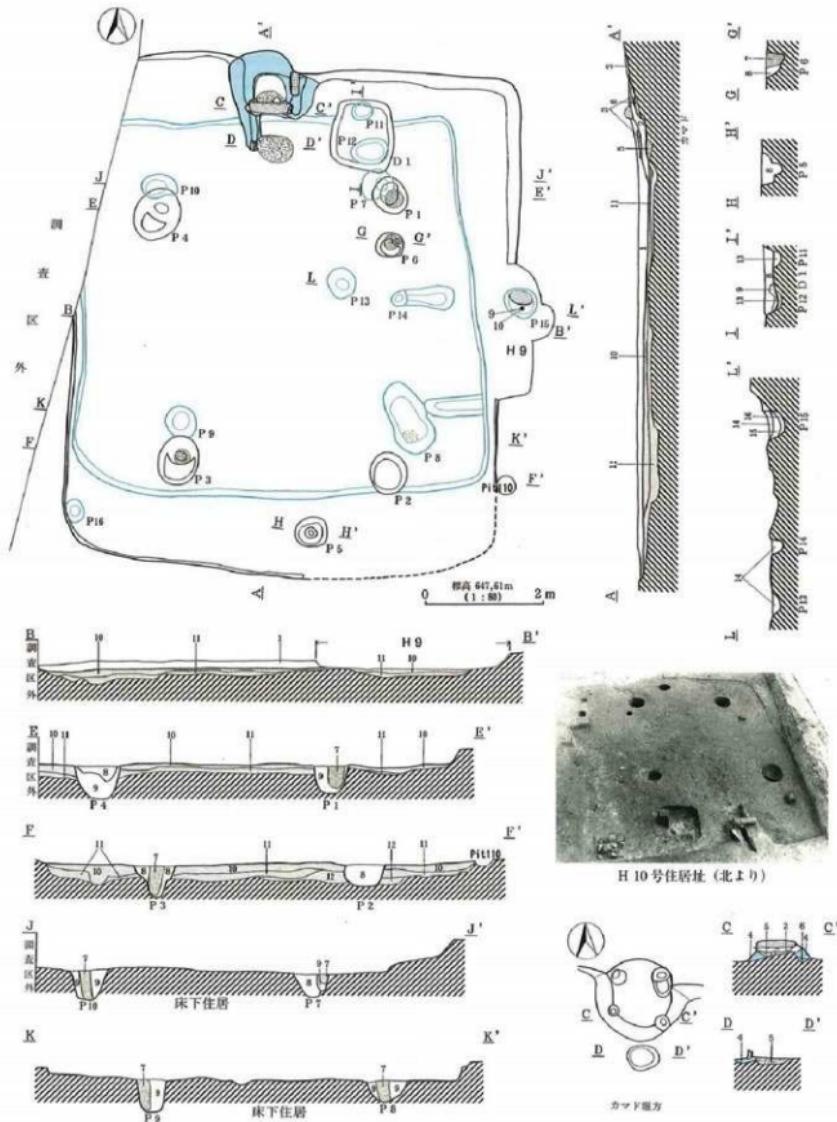
場所では内周するプランの南北610cm、東西640cmを測る方形の床下住居址が検出された。床下住居の主柱穴はP 7-P 10である。P 15はH 9に伴うピットであるかもしれない。

掲載遺物は土師器は杯(1~8)・高杯(12)・小型壺(9~10)・丸胴甕(19・20)・長胴甕(17・21・23~27・34~40)・瓶(28)・鉄製品(46・47)・剥片石器(44)・黒曜石の剥片(45)が出土している。13~15・33・41の土器群は古墳時代前期の3C後半~4C前半の壺・壺である。

土師器杯は3・5の須恵器模倣の杯と、1・6・7などの内面ミガキ黒色処理のものとがある。8はわずかに外縁を持ち、全体は肉厚で内溝する。素縁で杯蓋の模倣であろうか。9・10の小型壺は、住居址のプランからはみ出しており、重複するH 1の遺物であろう。長胴甕は13個体あり、38は胴部外面にハケ目を残してヘラケズリされる。最大径は大きく外反する口縁を持っている。29は下部がないので明らかでないが瓶であろうか。また37の壺はやや薄手になり、胴上部が横方向にヘラケズリされ、口縁部「く」の字形態の武藏型壺である。21はH 1の混入品と思われる。これらは古墳時代後期の新しい方の土器群であろうか。

第10表 H 10号住居址出土遺物一覧表(1)

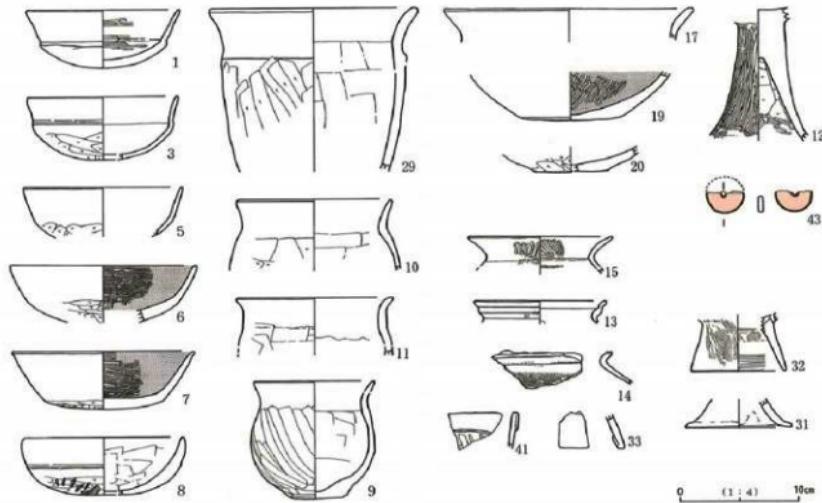
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(12.8) 4.8	内 横位ミガキ(黒色処理色変か?) 外 口縁部模ナデ・底部ヘラケズリ(摩耗)	口縁部1/6残存(摩耗) 10Y R 6/3(浅黄緑)	微細。	
2	矢番	-	-	-	-	
3	土師器 杯	(12.6) 5.2	内 橫ナデ 外 口縁部模ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R 7/6(緑)	微細。 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	I区
4	矢番	-	-	-	-	
5	土師器 杯	(13.2) - (4.1)	内 橫ナデ 外 口縁部模ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 2.5Y R 6/6(緑)	微細。	I区
6	土師器 高杯?	(15.6) - 4.7	内 ミガキ+黒色処理 外 口縁部模ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 内 N 20(黒) 外 5Y R 6/4(にぶい緑)	1mmの白色粒子・2mmの 赤色粒子を含む。	I区
7	土師器 杯	(15.2) (9.8) - 4.8	内 橫位ミガキ+黒色処理 外 口縁部模ナデ・底部ヘラケズリ	底部1/2、口縁部一部残存 内 N 20(黒) 外 10Y R 7/3(にぶい黄緑)	白色粒子・1~2mmの小石 を少く含む。	検出
8	土師器 杯	(13.6) (6.0) 4.7	内 口縁部模ナデ・体部模様ヘラナナデ 外 口縁部模ナデ・体部模様ヘラケズリ	口縁部1/4残存 7.5Y R 6/3(にぶい緑)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	カマド
9	土師器 小型壺	(10.2) 4.2 9.7	内 脚+底部模様ヘラナナデ→口縁部模ナデ 外 口縁部模ナデ・脚部模様ヘラケズリ・底 部ナナデ	口縁部1/2、底部2/3残存 2.5Y R 6/6(緑)	1mmの砂粒を含む。	P15 H9田区
10	土師器 小型壺	(13.2) - (5.8)	内 口縁部模ナデ・底部模様ヘラナナデ 外 口縁部模ナデ・脚部模様ヘラケズリ	口縁部1/5残存 5Y R 6/6(緑)	1mmの白色粒子・黒色粒子 を含む。	P15
11	土師器 小型壺	(13.2) - (4.8)	内 橫ナデ 外 口縁部模ナデ・脚部模様ヘラナナデ	口縁部1/4残存 5Y R 6/4(にぶい緑)	0.2mm以下の白色粒子含む。	D1
12	土師器 高杯	- - (11.0) <11.0>	内 脚部模様ヘラケズリ→底部ミガキ 杯部ミガキ+黒色処理 外 脚部模様3ミガキ+底部模様ミガキ	脚部のみ残存 内 N 20(黒) 外 7.5Y R 8/4(浅黄緑)	1mmの赤色粒子・1mm以 下の白色粒子を含む。	I区
13	土師器 壺	(11.2) - (3.0)	内 橫ナデ 外 橫縫ナデ	口縁部1/4残存 7.5Y R 6/2(灰緑)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。 S字形口縫。	
14	土師器 壺	- (2.8)	内 口縁部模ナデ・脚部ナデ 外 ハケナナデ	脚部破片 5Y R 4/2(灰褐)	微細。 金イシモ含む。 S字形口縫。	検出
15	土師器 小型壺	(10.5) <2.9>	内 ミガキ 外 ハケナナデ+ミガキ	口縁部1/6残存 7.5Y R 6/3(にぶい緑)	微細。 2mm以下の白色粒子含む。	II区・屋方
16	矢番	-	-	-	-	



第16図 H 10号住居址

## 1. 古墳時代

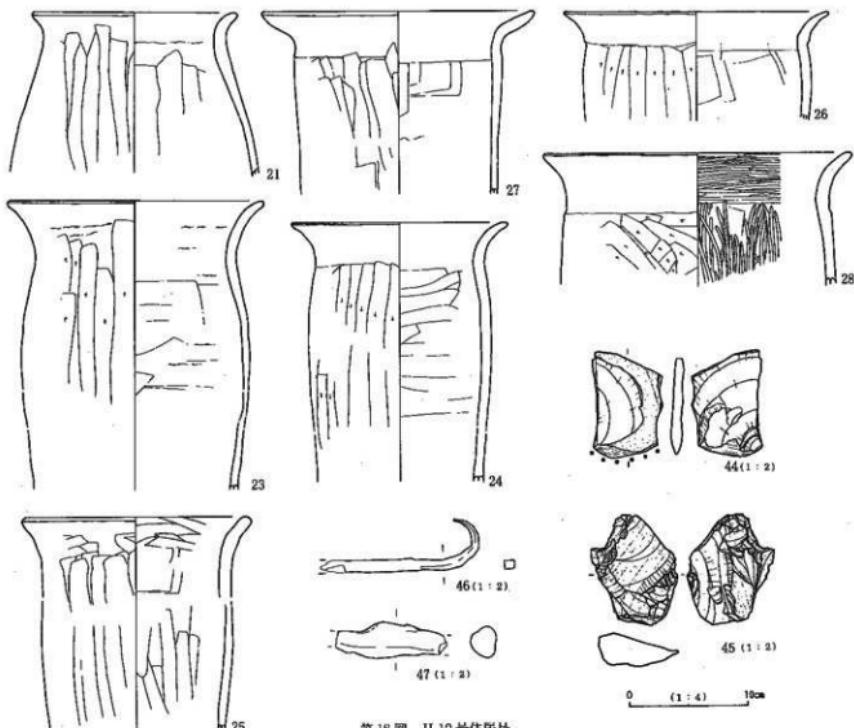
- H10 上層地層
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂ブロック (>2mm)・炭化物片を含む。
  2. 茶褐色土層 (10YR2/2) 茶褐色土ブロック (>1cm)・セメント多く含む。
  3. 白色土層 (2.5YR6/0) 粘土土と粘土。
  4. 水黄褐色土層 (10YR4/2) (カマド硝化粘土)
  5. 黄褐色土層 (5YR5/0) 粘土。
  6. 黑褐色土層 (10YR5/0) (粘土)
  7. 黑褐色土層 (10YR3/2) (粘土)
  8. 水黄褐色土層 (10YR5/2) に古い褐色土層 (10YR6/0) 颗子を含む。(ビット状粘土)
  9. 黄褐色土層 (10YR5/0) 黑褐色土 (10YR4/0) 颗子・不定形ブロックを少し含む。(ビット状粘土)
10. 塗装色土層 (10YR3/3) 黑褐色土 (10YR3/0) に、褐色土 (10YR4/0) ブロックが混じる。粘土を含む。(漆跡)
11. 褐色土層 (10YR4/2) 塗装色土層 (10YR3/0) ブロックを含む。(漆跡底土)
12. 黄褐色土層 (10YR4/4) 黄褐色土層。(粘土質土)
13. 黑褐色土層 (10YR5/0) に古い褐色土層 (10YR6/0) 颗子・炭化物を少し含む。(P 11・12)
14. 水黄褐色土層 (10YR4/2)・黃褐色土 (10YR5/0) の混在土層 (P 13・14・15)
15. 黑褐色土層 (10YR5/0) に古い褐色土層 (10YR6/0) の混在土層 (P 15)
16. に古い褐色土層 (10YR5/0) 彩の二重層埴器。(P 16)



第17図 H10号住居址

第10表 H10号住居址出土遺物一覧表(2)

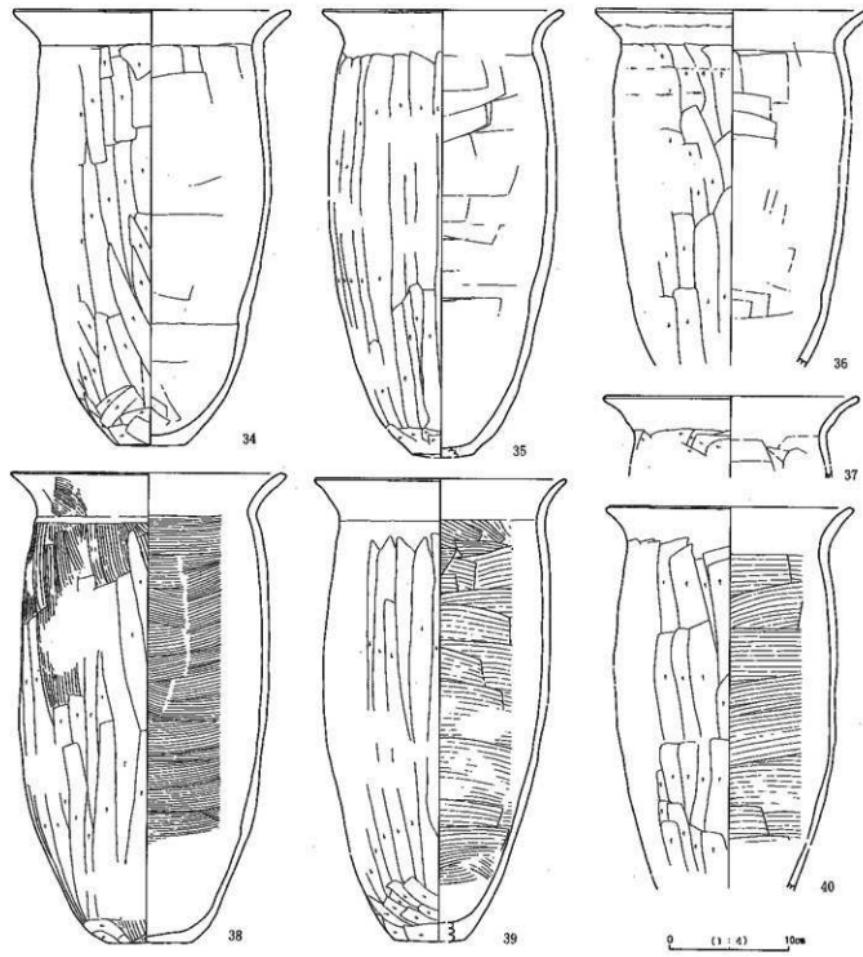
	土器 種類	(21.0) 内 外 <2.8>	備 考	口縁部 内 外 幅 <4.1>	口縁部 内 外 幅 <4.1>	口縁部 内 外 幅 <4.1>	口縁部 内 外 幅 <4.1>	口縁部 内 外 幅 <13.2>	口縁部 内 外 幅 <13.2>	口縁部 内 外 幅 <20.5>	口縁部 内 外 幅 <23.8>	口縁部 内 外 幅 <18.2>	口縁部 内 外 幅 <19.2>	
17	土器 裏	(21.0) 内 外 <2.8>	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	
18	欠番													
19	土器 鉢	— (8.5) <4.1>	内 外 — — — —	3 ガキ→黒色處理 漆耗り著しく、調査員別であります。一部にミ カギが見られるが、単位方向わからず。	底部1/3左右(摩耗) 内 11.20(直) 外 7.5Y R6/3(に古い層)									
20	土器 壺	— (8.5) <2.8>	内 外 — — — —	ハラナデ ハラケズリ	底部1/3左右(摩耗) 内 7.5Y R5/2(灰褐)									
21	土器 壺	(17.2) <13.2>	内 外 — — — —	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	
22	欠番													
23	土器 壺	(20.5) — <23.8>	内 外 — — — —	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	
24	土器 壺	(18.2) — <21.4>	内 外 — — — —	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	
25	土器 壺	(19.2) — <17.7>	内 外 — — — —	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	口縁部構ナデ→胴部模印ヘラナデ 口縁部構ナデ→胴部模印ヘラケズリ	



第18図 H10号住居址

第10表 H10号住居址出土遺物一覧表(3)

26	土器 甕	(22.2) — <9.1>	内 外 開部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ→副部横位ヘラケズリ	口縁部1/2残存。 内 2.5Y R66 - 7.5Y R22 (黒・黒褐) 外 7.5Y R76(擦)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子含む。	Ⅱ区・検出
27	土器 甕	(22.8) — <15.1>	内 外 副部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 副部横位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部2/3残存 5Y R66(にぶい擦)	1mm以下の白色粒子；1~3 mmの赤色粒子・黒色粒子を 少量含む。	Ⅰ区・ 検出・東
28	土器 甕	(26.0) — <11.0>	内 外 口縁部横ナデ・副部横位ヘラナデ→口縁 部横位ミガキ・副部横位ミガキ 副部斜→副部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/2残存 内 10Y R56(にぶい黄褐) 外 10Y R73 - 5Y 4/1-N3/0 (にぶい黄褐・灰・暗灰)	0.5~4mmの赤色粒子・1m mの小石含む。	検出
29	土器 甕	17.5 — <13.5>	内 外 副部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→副部横位ヘラケズリ	口縁部は不定形 2.5Y R66(擦)	1mm以下の砂粒を含む。	カマド
30	欠番					
31	土器 甕	(9.0) — <2.3>	内 外 横位ヘラナデ 横ナデ	1/4残存 7.5Y R4/3(擦)	1mmの白色粒子・赤色粒子 含む。さめ細かい。	P15
32	土器 付合甕	(8.0) — <4.7>	内 外 ハケナデ ハケナデ	底部1/6残存 7.5Y R56(擦)	1mmの白色粒子を少量含む。	東・検出



第19図 H 10号住居址

第10表 H10号住居址出土遺物一覧表(4)

33	土師器 台付蓋 蓋	二 <2.8	内 ナデ ナデ 外	底部(脚部)破片 2.5Y R5/6(明青釉)	被密白色粒子含む。 脚端部内側に折り返す。	検出	
34	土師器 蓋 蓋	(22.9) (5.6) 36.2	内 外	口縁部横ナデ→脚部横位ヘラナデ・底部 斜めのハラナデ 口縁部横ナデ→脚部縫→脚部ヘラケズ リ・底部ヘラケズリ	口縁部一部欠損、底部1/2残存 内 7.5Y R5/4(にぼい緑) 外 7.5Y R5/3(にぼい緑)	1mmの白色粒子・砂粒・小石 を含む。	カマド・I・N 区検出・カマ ド2層・H1檢 出・Ⅲ区2層
35	土師器 蓋 蓋	(20.0) (6.1) <7.15	内 外	口縁部横ナデ→脚・底部横位ヘラナデ 口縁部横ナデ→脚部縫位ヘラケズリ・底 部ヘラケズリ	口縫部3/4残存 5Y R5/3(淡綠)	1mm~2mmの赤色粒子・4 mm以下の小石を含む。	カマド・カマ ド2層・I・区 検出
36	土師器 蓋 蓋	23.0 29.6	内 外	脚部横位ヘラナデ→口縁部横ナデ 口縁部横ナデ→脚部縫位ヘラケズリ	口縫部2/3残存 5Y R7/4(にぼい緑)	1mm以下の白色粒子・砂粒 を含む。	カマド 検出・東
37	土師器 蓋 蓋	(21.5) <6.7	内 外	口縁部横ナデ→脚部横位ナデ 口縁部横ナデ→脚部(横位)ヘラケズリ	口縫部1/5残存 7.5Y R7/4・10Y R3/1(に ぼい緑・黒褐) 外 10Y R3/1(黒褐)	小白色粒子・小砂粒を少量含 む。 武藏型器。	Ⅲ区・検出
38	土師器 蓋 蓋	22.8 7.0 39.1	内 外	脚部横位ハケメ・脚下平・底部ヘラナデ 口縁部横ナデ→脚部横位ヘケメ→蹴位ヘラケズリ→口 縫部横位ナデ	口縫部3/4残存・底部完形 7.5Y R6/3(後青釉)	1mmの赤色粒子・白色粒子・ 黑色粒子を含む。 底盤部木無板あり。 口縫部凹縫入る。	カマド
39	土師器 蓋 蓋	20.9 (5.7) 38.4	内 外	脚下・底部ヘケメ→口縫部横ナデ 脚部横位ナデ→脚・下平部像→鉛板 ヘラケズリ→口縫部横ナデ	口縫部1/2・底部3/4残存 7.5Y R5/0(にぼい赤褐) 7.5Y R3/1(黒褐) 外 5Y R6/4(にぼい緑)	1~2mmの白色粒子・赤色粒 子・1~3mmの小石を含む。	
40	土師器 蓋 蓋	20.7 <31.6	内 外	口縁部横ナデ→脚部横位ハケメ 口縫部横ナデ→脚部縫位ヘラケズリ	口縫部完形 5Y R6/5(緑) 外 7.5Y R6/4(にぼい緑)	1~3mmの白色粒子・1mm の黑色粒子を含む。	検出
41	土師器 蓋 蓋	二 <3.0	内 外	横位ミガキ 横ナデ→蹴位ミガキ	口縫部破片 7.5Y R6/4(にぼい緑)	白色粒子を少量含む。 折り返し口縫。	Ⅲ区
42	火番						
43	弦生上器 土製有孔印版			半分残存 10R4/6(赤)	被密。背面共に赤色施彩され た丸洗式土器を二次利用し ている。	P15	

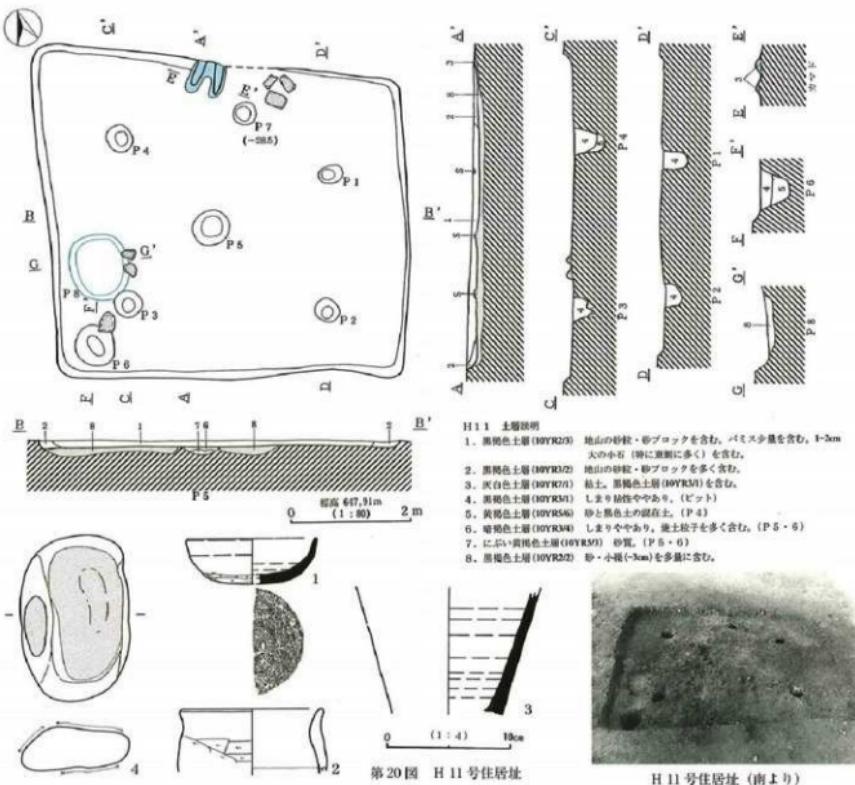
10) H11号住居址(第20図、第11表、図版七・四十三)

5あ4グリットにあり、H58を切る。南北492cm、東西566cmの東西に長い不規の長方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-9°-Wを測る。壁残高は12cmとわずかである。主柱穴はP1~P4、ほぼ円形を呈し、直径で28~44cm、深さ26~52cmを測る。中央に径56cmの粘土を貼った浅い落ち込みがある。P6は南西隅にあり、径72cm、深さ48cmを測る。掘方ではP6の北に長径114cm、深さ20cmの椭円形の落ち込みが検出された。

掲載遺物には須恵器杯・鉢(1・3)、土師器小型甕(2)、スリ石(4)がある。1の須恵器杯は口径10.8cmと小さいもので、丸底の底部は手持ちヘラケズリされる。また「X」であろうか浅く鋭いヘラ記号が残っている。3の須恵器鉢は底部が輪状に欠損し、口縫部もないので器形は明確でない。須恵器杯はT K217またはTK46号窯式段階と近いものである。7C中葉に設定されている。

第11表 H11号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調製	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 鉢	10.8 - 3.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部切り離し→手持ちヘ ラケズリ	口縫部1/3、底部1/2残存 5P B7/1(明青釉)	1mmの黒色粒子を多量含む。 底部にヘラ記号Xあり。	H1N区
2	土師器 小型甕	(11.8) - <5.2	内 脚部ナデ→口縫部横ナデ 外 口縫部横ナデ→脚部横位ヘラケズリ	口縫部1/3残存 10Y R4/1(黒褐)	1mm以下の白色粒子・砂粒 を含む。	検出
3	須恵器 鉢	二 <10.2	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	口縫部1/3残存 5B4/1(明青釉)	1mm以下の白色粒子を含む。	IV区



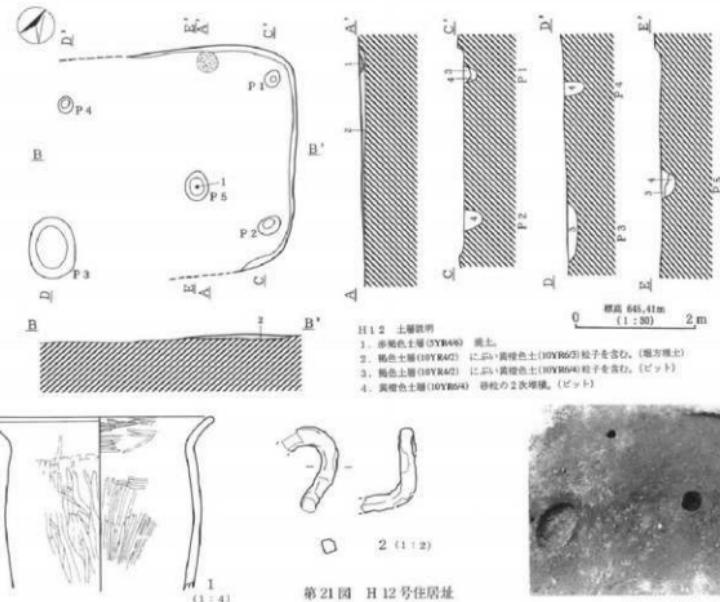
## 11) H 12号住居址 (第21図、第12表、図版七・四十三)

調査区南西隅の7お5グリットにある。住居址西側は斜面のため検出時に削平し、プランは不明確である。北壁に焼土範囲がみられカマドがあったものと思われる。南北は332cm、壁残高は0~11cm、隅丸方形を呈すのであるか。主軸方位はN-30°-Wを測る。主柱穴はP 1~P 4で、P 3は長楕円形で長径110cm、深さ16cmと土坑状で、この中に柱痕があったのかもしれない。他のピットは円形を呈す小ピットで、径24~28cm、深さ20~30cmを測る。主柱穴が住居址の隅に近い位置にある。P 5は円形で径40cm、深さ24cmを測り中央にある。周溝は検出されていない。

掲載遺物は土師器瓶（1）、鉄製品（2）がある。土師器瓶は蝶形で口縁部横ナデ、胴部は内外面ミガキが施してある。2の鉄製品は断面形が方形である。土師器瓶は、古墳時代後期のものであろう。

第12表 H 12号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器瓶	(15.5) - <14.0-	内 口縁部横ナデ→胴部ナデ→口縁部 手縁部ミガキ→胴部底位ミガキ 外 口縁部横ナデ→胴部ナデ→胴部底位ミ ガキ	口縁部16残存 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	P5



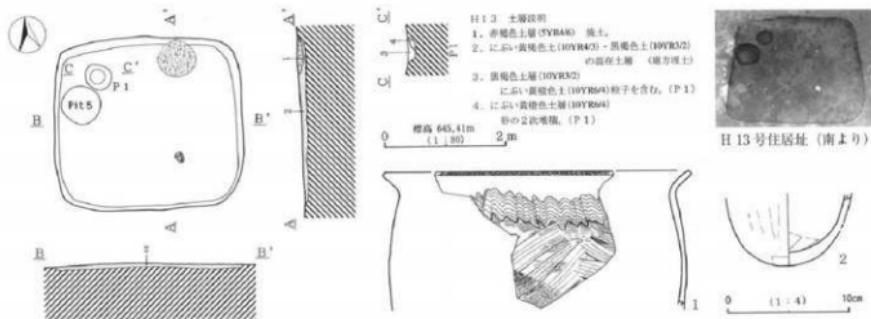
第21図 H12号住居址

H12号住居址(南より)

## 12) H13号住居址(第22図、第13表、図版八・四十四)

7.4グリットにあり、ほぼ床面でプラン確認された。単独ピットP5に切られている。南北268cm、東西292cmの東西に長いがほぼ方形を呈す。焼土範囲が北壁東寄りにみられ、カマドと推定される。主軸方位N-3°-Eでは北を指す。北西にP1が検出されたが、主柱穴かわからぬ。

掲載遺物には土師器壺(2)、と弥生式土器の壺(1)がある。土師器壺は上部がないので器形が明らかではないが丸底など古墳時代後期の所産であろう。



第22図 H13号住居址

第 13 表 II 13 号住居址出土遺物一覽表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎上・特徵	出土位置
1	弥生土器 壺	(25.4) 11.3	内 外 横ハケナデ—横ミガキ 口縁部内斜 口鋸歯彫 底部半位8-9本の撻拂痕状 底部単位5本1まとめる飾刷羽状	口縁部1/4残存 7.5YR5/3(にいぶい橙)	鉛造されている。	検出
2	土器 壺	— 5.9g	内 外 ヘラナデ ヘラカズリ	底部変形 7.5YR5/3(にいぶい橙)	1mmの赤色粒子を含む。 瓦気	検出

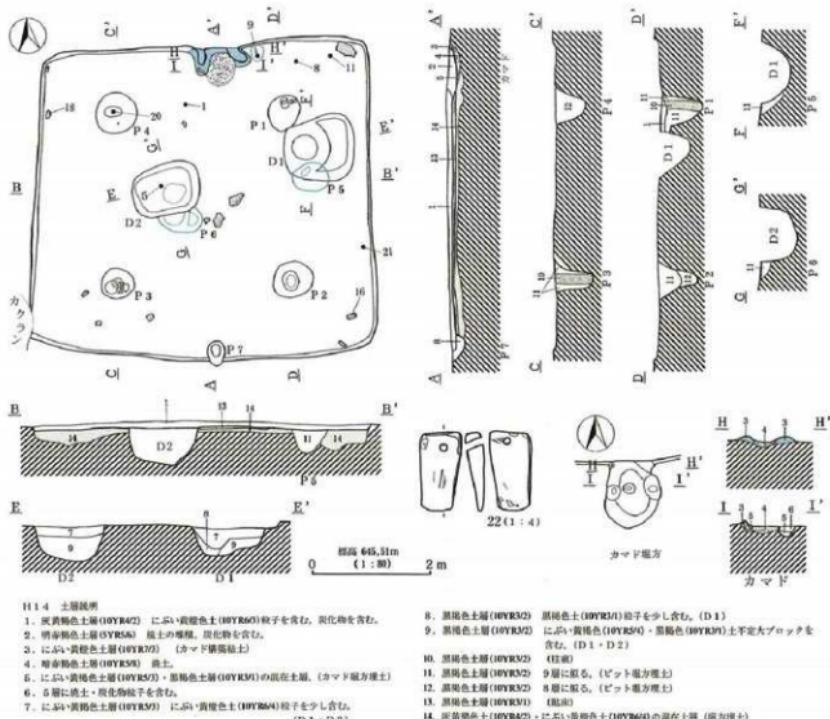
13) H 14 号住居址 (第23・24圖、第14表、図版八・九・四十三・四十四)

7う2グリットにあり、H31・H40を切る。南北504cm、東西548cmの東西に長い方形を呈す。カマドは北壁中央にわずかに粘土と焼土が残っていた。主軸方位はN-0°で北を指す。床面より、D1・D2検出され、長軸120cm深さ64・48cmの隅丸方形の落ち込みがあった。主柱穴はP1-P4で円形ないし椭円形を呈し、規格は48~58cm、深さ52~72cmを測る。P1とP3で、柱痕が確認された。床下からは中央にD1・D2に切られて、P5・P6が検出された。層厚は検出されていない。

掲載遺物は上層器群（1～3）・鉢（5）・短頸壺（6）・小壺壺（4・9）・長胴壺（10～12）・丸胴壺（8）・スリ石（15～20）、軽石製凹石（21）、凝灰岩製拂拂用砥石（22）が出土している。1・2は模倣形で橙色系である。胎土は精選され、粉末質である。1の杯は全体に扁平で口縁部も短く外反し立ち上がる。2の杯は1に比べると口縁部が長く外反する。3は小破片で、内面ミガキ黒色處理され、口縁部の底部から口縁に変わるとこに2条の弦線がみられる。11の長胴壺は口縁を欠くが腹部は延び方向のヘラケリがされ、12は口縁が「匁」の字に折れるように強

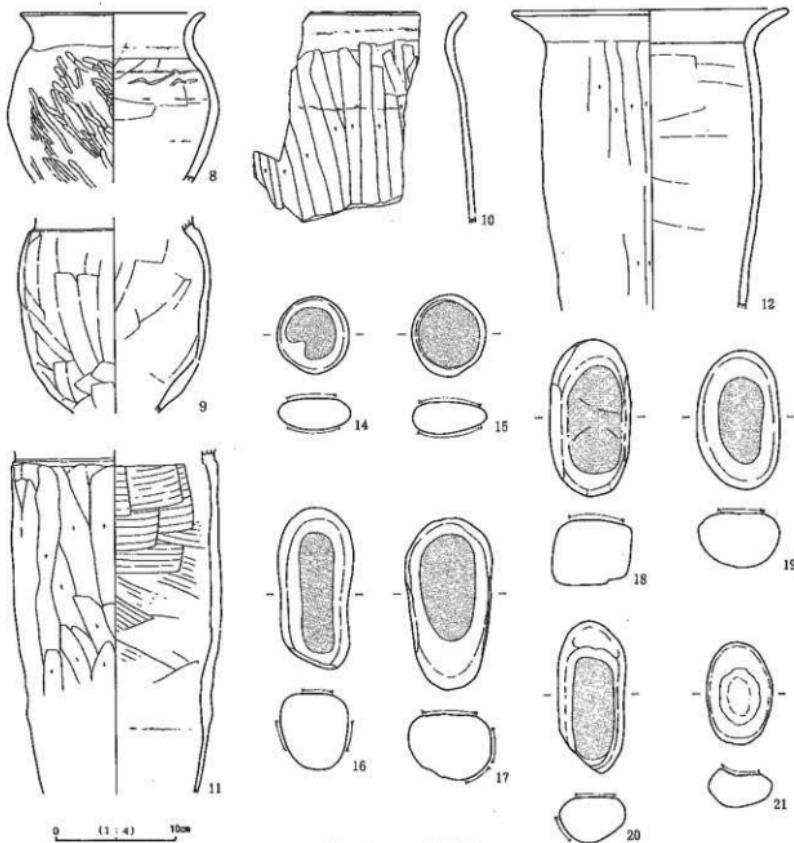
第 14 表 H 14 分住层址出土遗物一览表

番号	器種	法景	成 形・ 調 整		残 有 量・ 色 滋	胎 土・ 特 徴	出土位置
			内	外			
1	土師器 杯	(12.2) 3.2	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部へラケズリ		口縁部約1/2残存 5YR7/6(橙)	1mm以下の白色粒子を含む。 形大質の胎土。 緻密。	
2	土師器 杯	(11.2) 3.5	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部へラケズリ		口縁部約1/2残存 2.5Y R7/6(橙)	粗大質の胎土。 緻密。	I区・検出
3	土師器 杯	(13.8) - <3.2>	内 横ナデ→ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ→底部へラケズリ 口縁部に二条の波状あり		口縁部1/2残存 内 N20(黑) 外 10Y R7/3(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子を含む。	II区
4	土師器 小型壺	(11.0) - <7.6>	内 口縁部横ナデ→全体横部ヘラナデ 外 全体横部ヘラケズリ→口縁部横ナデ		上縁部1/4残存 7.5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの白色粒子・赤色粒子を含む。 緻密。	III区・検出
5	土師器 鉢	(11.8) - <5.2>	内 口縁部横ナデ→全体ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ→全体ヘナナデ		口縁部1/2残存 内 15G(黑) 外 5Y R6/6(橙)	緻密。	D2
6	土師器 短瓶壺	(12.0) - <9.0>	内 口縁部横ナデ→肩部横部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→胸部ヘラケズリ		上縁部1/2残存 内 7.5Y R8/2(灰白) 外 2.5Y R8/6(橙)	赤色粒子・黒色粒子を多く含む。 磨耗している。粗粒なつくり。	検出
7	土師器	(9.4) - <4.4>	内 横ナデ→ハケナデ 外 横ナデ→ハケナデ		口縁部1/2残存 10Y R7/3(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 上・下・盤面不明。	II区・腹方
8	土師器 丸刷毛	(15.5) - <14.0>	内 胸部横部ヘラナデ(一部ミガキ)→口 縁部横ナデ 外 胸部横ナデ→粗いミガキ→口縁部横ナデ		口縁部1/4残存 2.5Y R8/4(にぶい橙)	1mm以上の白色粒子多く含む。 赤色粒子を含む。	
9	土師器 壺	- <15.2>	内 ハナナデ 外 刷毛横部ナデ→頸部横ナデ		頸部約1/2残存 内 7.5Y R8/4(浅黄) 外 5Y R5/4(にぶい赤)	1mmの白色粒子を含む。	II区・腹方
10	土師器 壺	- <17.4>	内 口縁部横ナデ→頸部横部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ→底部横部ヘラケズリ		破片 7.5Y R5/6(にぶい褐)	小石を含む。	カマド・II区 腹方
11	土師器 壺	- <28.5>	内 ハケメ(崩落)→口縁部横ナデ 外 頸部横部ヘラケズリ→口縁部横ナデ		崩落約2/3残存 2.5Y R6/6(橙)	赤色粒子・白色粒子を含む。	P5・I区
12	土師器 壺	(23.2) - <24.9>	内 頸部・ハケ状工具によるナデ→口縁部横 ナデ 外 脚部横部ヘラケズリ→口縁部横ナデ		口縁部1/2残存 7.5Y R6/3(にぶい褐)	粗い白色粒子を多く含む。	カマド・検出
13	欠番						



第23図 H14号住居址

く外反し、口縁に最大径を持っている。胸部は縦のヘラケズリが施される。これらの土器群は古墳時代後期の土器群であろうか。

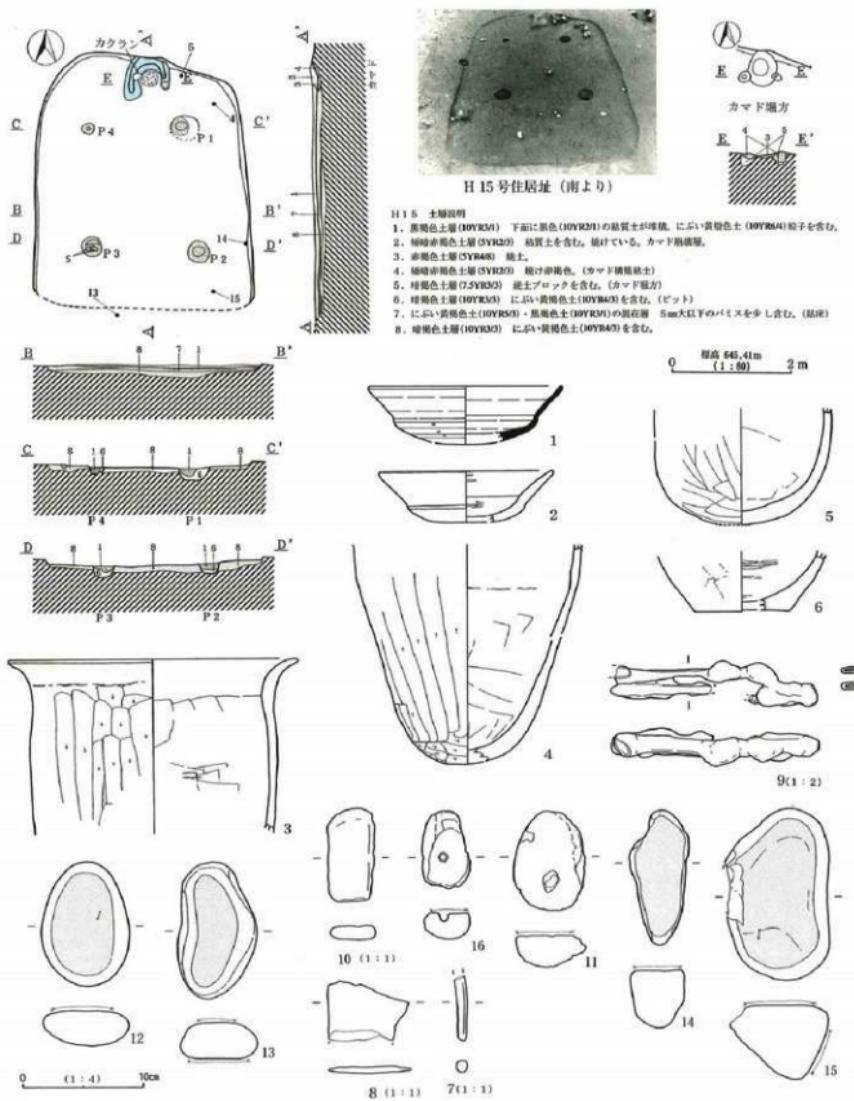


第24図 H14号住居址

## 14) H15号住居址 (第25図、第15表、図版九・四十四)

7か2グリットにあり、H40・H42を切る。重複が激しくプランは明確とはいえない。南北400cm、東西350cmを測る。カマドを北壁にもち、主軸はN-1°-Wでほぼ北を指す。主柱穴はP1-P4である。

掲載遺物には須恵器杯(1)、土師器杯(2)・壺(3~6)、不明鉄製品(7~9・10)、スリ石(12~15)、銅石製品(10・11)がある。1の須恵器杯は底部がないので明確ではないが高杯の杯部であるかもしれない。内面口クロ横ナデ、外表面は口縁部がクロ横ナデ、底部は回転ヘラケズリされる。MT15ないしTK10号窯式とされるものに類似し、6C前半に比定されている。土師器杯は厚手で内面ミガキ、外表面は口縁横ナデ、底部ヘラケズリである。4の長胴壺は丸底を呈し、胴下部の接合痕でゆがみがあり、やや雰囲気をもつ。古墳時代後期の土器群であろう。壺などからは須恵器より新しい時期であると思われる。



第25図 H15号住居址

第15表 H15号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(16.2) — c.1.65	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリーナデ	口縁部3/4残存 2.5YR7/1(稍オリーブ灰)	2mm以下の黒色粒子を含む。 高杯の杯部か?	検出
2	土師器杯	(14.6) — 4.2	内 横位ミガキ 外 ロクロナデ→底部ヘラケズリ(底輪著 し、単位特別です)	口縁部1/3残存(外面摩耗) 5YR6/0(緑)	砂質。 1mm以下の白色粒子を含む。	IV区塗方
3	土師器甕	(24.2) — c.14.45	内 口縁部研ナデ→胴部ヘナデとハケナデ 外 口縁部研ナデ→胴部側面ヘラケズリ	口縁部1/6残存 5YR7/4(にい黄)	1~3mmの白色粒子・赤色粒子 を多量含む。	検出
4	土師器甕	— — c.18.1	内 ヘラナデ 外 底部研位ヘラケズリ→胴部側面ヘラケ ズリ	底部はげ光沢 7.5YR4/1(褐灰)	1mmの白色粒子を含む。 丸底。	検出
5	土師器甕	— — c.9.6	内 ヘラナデ 外 ヘラナデ	底部はげ光沢 5YR6/4(にい黄)	1mmの白色粒子・赤色粒子・ 砂粒を含む。 丸底。	検出
6	土師器甕	(8.0) — c.5.0	内 ヘラナデ 外 ナデ	底部はげ光沢 2.5YR6/4(にい黄)	1mmの白色粒子・黒色粒子 を少量含む。	II区1層・IV区

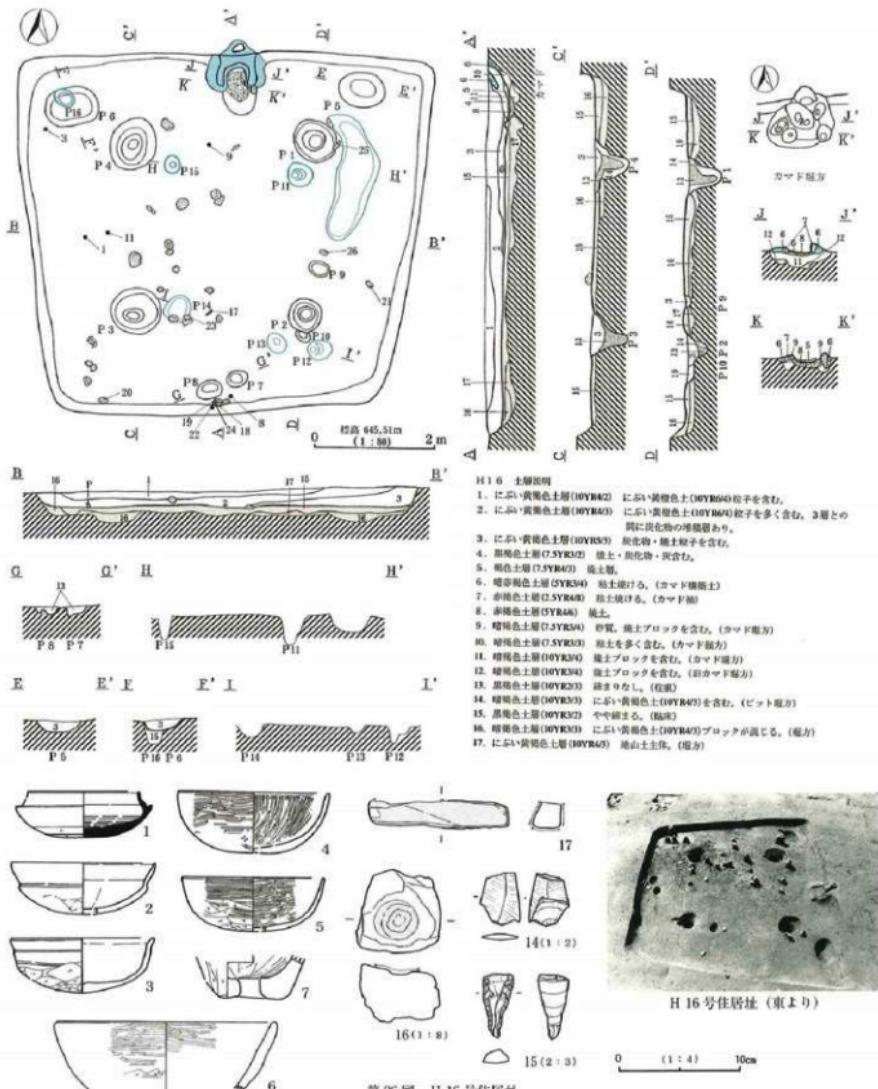
## 15) H16号住居址 (第26・27図、第16表、図版十・四十五)

3え10グリットにあり、H30・H47号住居址を切る。南北554cm、東西612cmの北側の幅が広い不整の方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、袖と煙道を残していた。主軸方位はN-4°-Wを指す。主柱穴はP1~P4で径52~76cm 深さ56cmを測り、柱痕が残っていた。南側には出入り口のピット、北東と北西に隅丸長方形を呈し、長径58cm、深さ20cmを測る浅い落ち込みがある。

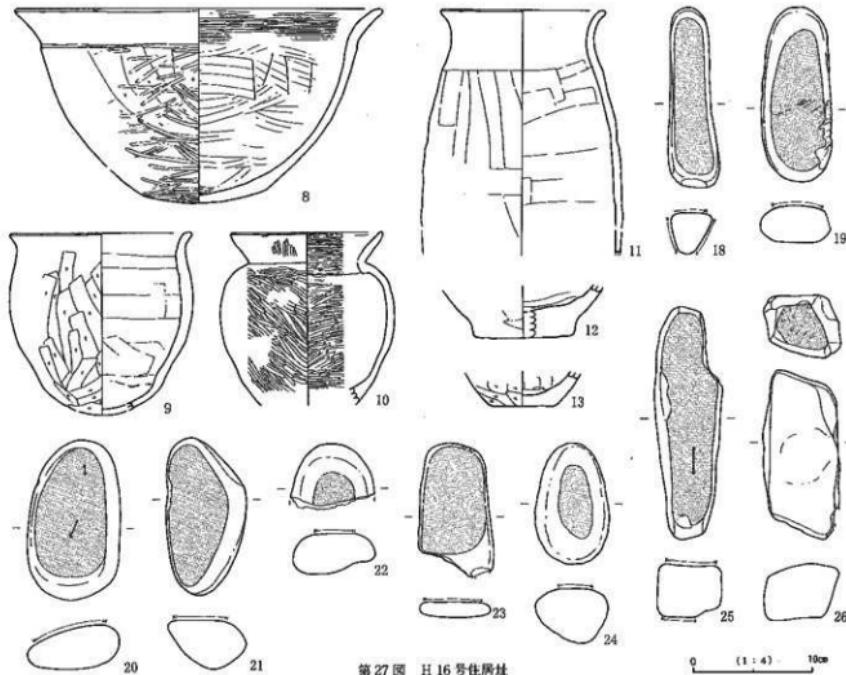
掲載遺物には須恵器杯身(1)、土師器杯(2~5)・鉢(6・8・10)・甕(7)・小型甕(9)・長胴甕(11~13)がある。石器にはチャート製鑿(15)、ガラス質黒色安山岩製磨製石礫(両端が折れる)(14)、安山岩製凹石(16)、赤色顔料が付着し、先端がことに磨き込まれた粘板岩のミガキ石(17)、スリ石または織物石に使用された石(19は花崗岩、23は砂岩、他18~26は安山岩)がある。1の須恵器杯身は口縁部立ち上がりが内傾し、端部が丸くなっている。TK217号窯式段階とみられ、7C前半の年代があてられている。2は丸底で、中位よりやや上で口縁部が外側を持って屈曲し、やや長く外傾する。3は上端部で口縁が内側を持って短く外傾している。4・5は素縁の体部全体が内湾・外傾する。2・3の内面はナデ、外縁の口縁部は横ナデ調整。4・5は内外面ミガキが施される。10は漆器の深鉢であろうか内外面ミガキが施される。長胴甕は胴部調整がヘラナデ、最大径を胴部に持っている。これらより、本址の土器群は古墳時代後期のものであろう。

第16表 H16号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯身	(9.2) — 3.8	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	口縁部1/2残存 7.5YR5/1(褐灰)	1mmの白色粒子少量・白色 粒子含む。	
2	土師器杯	(11.8) — 4.2	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 7.5YR6/1・6/3 (褐灰・にい黄)	細密。	IV区
3	土師器杯	(11.8) — 4.5	内 みこみ筋ヘナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部約1/2残存 2.5YR7/6(緑)	1mmの白色粒子・2mmの 小石含む。 跡形重む。	
4	土師器杯	12.6 3.7 5.0	内 (鉛針状)ミガキ 外 底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ→横位 ミガキ	口縁部2/3残存 5YR7/3(にい黄)	1mmの黒色粒子を含む。	I区・III区
5	土師器甕	(11.8) — c.4.5	内 横位ミガキ 外 底部ヘラケズリ→口縁部ミガキ	口縁部~底部1/2残存 7.5YR6/4(にい黄)	1~2mmの白色粒子、1mm の赤色粒子を含む。	IV区
6	土師器鉢	(18.2) — c.1.7	内 横位ミガキ 外 横位ミガキ	口縁部1/6残存 2.5YR7/6(緑) 7.5YR8/6(浅黄)	1mm以上の白色粒子を多量 1mmの赤色粒子を少量含む。	IV区
7	土師器甕	— 5.8 c.3.6	内 ナデ 外 横位ヘラケズリ・底部ナデ	底部光沢 10YR7/4(にい黄)	1mmの白色粒子を多く含む。	IV区



第26図 H16号住居址



第27図 H 16号住居址

第16表 H 16号住居址出土遺物一覧表(2)

8	上面器 鉢	(30.6) - 16.0	内 口縁部横ナデ→側位ミガキ・胴部～底部 横位の細なミガキ 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ・ミガ キ	口縁部1/4残存 10Y R7/3(にぶい黄褐色)	1~3mmの白色粒子・黒色粒 子を多量含む。	Ⅲ区・Ⅳ区
9	土師器 小型盤	(15.2) - <4.6>	内 胴部横位ヘラナデ→口縁部～胴中央部 横ナデ 口縁部横ナデ→胴部縱位ヘラケズリ	口縁部1/3残存 内 7.5Y R6/2(灰褐色) 外 5Y R5/4(にぶい赤褐色)	1mmの白色粒子を多量含む。	
10	土師器 鉢	(12.8) - <4.2>	内 ミガキ 外 口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/3残存 7.5Y R6/4(にぶい紅)	1mm以下の白色粒子・ウン 毛粒を少量含む。 裏面の跡。	Ⅰ区・検出
11	土師器 壺	13.8 - <20.2>	内 口縁部横ナデ→胴部横位ヘラナデ - 胴部縱位ヘラナデ→口縁部横ナデ	L1口縁部1/4残存 5Y R7/4(にぶい紅)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	
12	土師器 壺	(8.4) - <4.3>	内 ナデ 外 ナデ	底部1/2残存 7.5Y R5/4(にぶい褐)	1mmの白色粒子・赤色粒子 を少量含む。底部に木葉痕 あり。台状の底盤。	Ⅰ区・Ⅳ区
13	土師器 壺	(5.2) - <2.9>	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	底部1/2残存 内 7.5Y R7/4(にぶい紅) 外 7.5Y R5/1(灰褐色)	1mmの白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子を含む。底部に木葉 痕あり。	Ⅰ区

## 16) H 18 号住居址 (第28図、第17表、図版十一・四十六)

3お9グリットにあり、弥生時代のH50・M1を切る。南北304cm、東西280cm、深さ21cm の方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-33° -Wである。カマドは袖先に石を立て、框石を置いて焚き口を作っていた。框石は下に落した状態で検出された。主柱穴はP 1 ~ P 4 で円形を呈し、径28cm、深さ20~28cm を測る小規模なものである。樋方でカマドの西に幅60cm の円形の落ち込みが検出されている。

出土遺物には須恵器杯蓋(1)・甕(4)、土師器杯(2)、混入品で弥生式土器底部片(3)がある。滑石製の白玉が3個(8~9)、縞物石が8個(11~14、16~17)出土している。いずれも川原石で中央の両脇を打ち欠くか、中央がくびれ使用痕が残る。重さは共通していない。縞物石の重さは11~17(15を除く)まで順に1130・1185・2580・200・335・315g である。ガラス質黒色安山岩の剥片(7)は未製品であろうか剥離痕が認められる。6は鉄分を含む土塊で穴が開いている。遺物かどうかわからぬ。

1の須恵器杯蓋は口縁と天井部との境が明確ではなく、接もない。口縁端部は丸い。天井部は回転ヘラケズリされる。須恵器甕は比較的小型で、口縁帯を持ち弦線を一条持つ。口縁部外面には櫛描波状文が施される。これらはTK 217ないしTK 46号窯盤式と平行するもので、7C前半の年代があてられている。土師器杯は丸底から中位より下で外縁を持って直線的に外傾する。内面はナデに暗文様のミガキが施される。

第17表 H 18号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	底 形・調 整	残 存 量・色 調	胎 土・特 殊	出土位置
1	須恵器 蓋	11.8 4.0	内 ロクロ横ナダー中央部、ハケによるナダ 外 ロクロ横ナダー天井部、回転ヘラケズリ	口縁部1/2残存 N60(灰)	8mm大小石~1mm白色粒 子を含む。	IV区
2	土師器 杯	(13.0) 4.8	内 みこみ底ナダー口縁部横ナダ後斜放状 外 口縁部横ナダー底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 5Y R62(灰褐色)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を少量含む。	IV区
3	弥生土器 甕	(10.0) <1.6>	内 剥離していくわからない 外 ハケナダ?	底部1/4残存(内面剥離) 7.5Y R41(褐色)	底部片。 砂質。	樋方
4	須恵器 甕	(21.6) <7.2>	内 口縁部横ナダ 外 口縁部に13本1組とする、櫛描波状文を 施す。	口縁部1/4残存 N70(灰白)	1mmの黑色粒及、3mm以 下の白色粒子を含む。	I区・II区

## 17) H 19 号住居址 (第29図、第18表、図版十二・四十六)

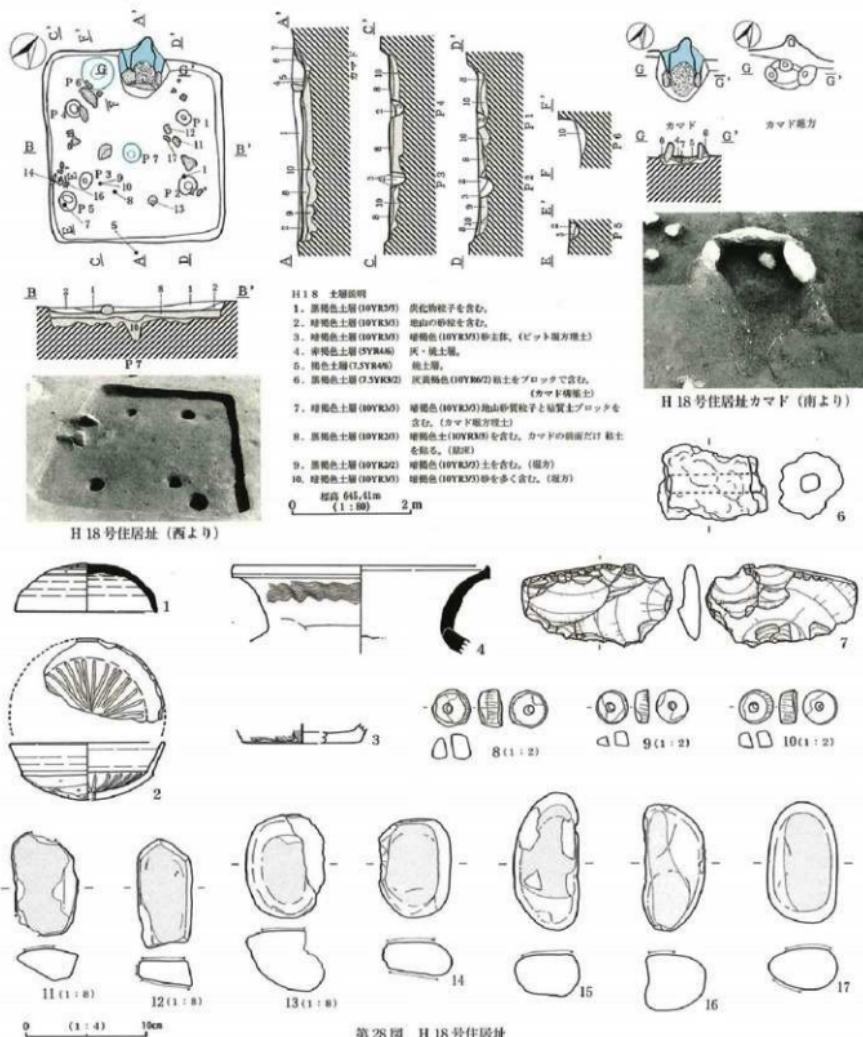
3お7グリットにあり、弥生時代のH45・M1を切り、F 3・4に切られる。規模は南北397cm、東西420cm、深さ39cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、F 4のピットに大半を破壊されて、西袖と焼土が確認された。主軸方位はN-34° -Wを指す。主柱穴は比較的小規模でP 1 ~ P 4 は横円形の長軸32~44cm 深さ20~40cm を測る。P 1は柱の建て替えが行われたらしく床下からもP 8が検出された。中央にP 5が検出され、柱痕を伴い、長径64cm 深さ40cm を測る。南壁下中央には出入り口のピットが2個検出された。

掲載遺物は土師器甕(2)であろうか。1の高杯、3の甕の口縁は弥生時代のもので混入品である。出土遺物は少なく、土器破片は土師器長胴甕、瓶がある。須恵器では同心円状のカキメのある提瓶脇部片があるのみである。時期の判明する資料を欠くが、提瓶の存在など6C後半以降の古墳時代後期の土器と推測される。

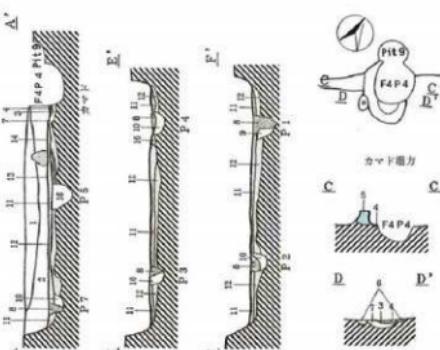
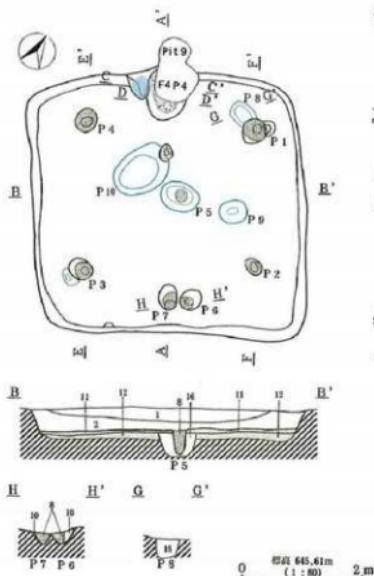
## 18) H 20 号住居址 (第30図、図版十二)

7い3グリットにあり、規模は南北427cm、東西402cm の方形を呈す。覆土はなく、床面でプランを確認している。従って樋方プランなので、本来の居住面は失われている。北壁中央付近でカマドの焼土が確認された。主軸方位はN-2° -E では北を指す。P 1 ~ P 4 が主柱穴で円形を呈し、径34~52cm を測る。柱痕のみられたP 1・P 2は深さ72・52cm と深いピットである。中央のP 7は深さ24cm を測る。P 10は北東にあって、上面に粘土ブロックを含んでいる。他のピットについては床面が明確でないので、伴うものか判然としない。

出土遺物はいずれも土器の破片で、住居址に伴うであろう土器は須恵器脇口縁部片、土師器杯のミガキ内面黒色処理片、武藏甕口縁部片などがある。いずれも小片で、混入品も考えられ、時期の決定はできないが古墳時代後期の資料が最後出である。

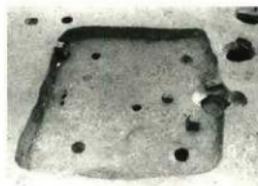


第28図 H 18号住居址

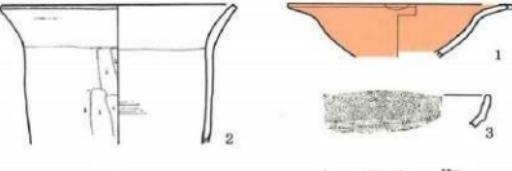


## H19 土壌説明

1. 黄褐色土層(HYR2/3) 塗地物・土質粒子に多い黄褐色土(HYR3/3)粒子を含む。
2. 明赤色土層(HYR3/3) 塗地物・土質粒子を多く含む。
3. にじみ黄褐色土層(HYR2/2) 草炭。
4. 明赤色土層(SVR5/5) 塗地。
5. 暗褐色土層(HYR3/3) 砂質土。(カマド壁面土)
6. 暗褐色土層(HYR3/3) 壁・床・柱・塗地物粒子を含む。(カマド壁面土)
7. 黑褐色土層(3LYR2/2) 泥土粒子を含む。(カマド壁面土)
8. 暗褐色土層(HYR3/3) 塗地・床・柱・柱子を含む。(柱頭)
9. 黑褐色土層(HYR3/3) 黑褐色土(HYR3/3)ブロックが混入する。(ピット壁土)
10. にじみ黄褐色土層(HYR4/3) にじみ黄褐色(HYR4/3)砂質土主体。(ピット壁土)
11. 黑褐色土層(HYR3/3) 砂質土。(柱頭)
12. 暗褐色土層(HYR3/3) にじみ黄褐色(HYR4/3)の細砂が混じる。(壁面)
13. 暗赤色土層(HYR4/2) 塗地ブロックを含む。(壁面)
14. にじみ黄褐色土層(HYR4/2) 地山の砂土層。(壁面)
15. 黑褐色土層(HYR3/3) 暗褐色(HYR3/3)の砂質土を含む。(P8壁土)
16. 黑褐色土層(HYR2/3) 砂質土ブロックを含む。(P5壁土)



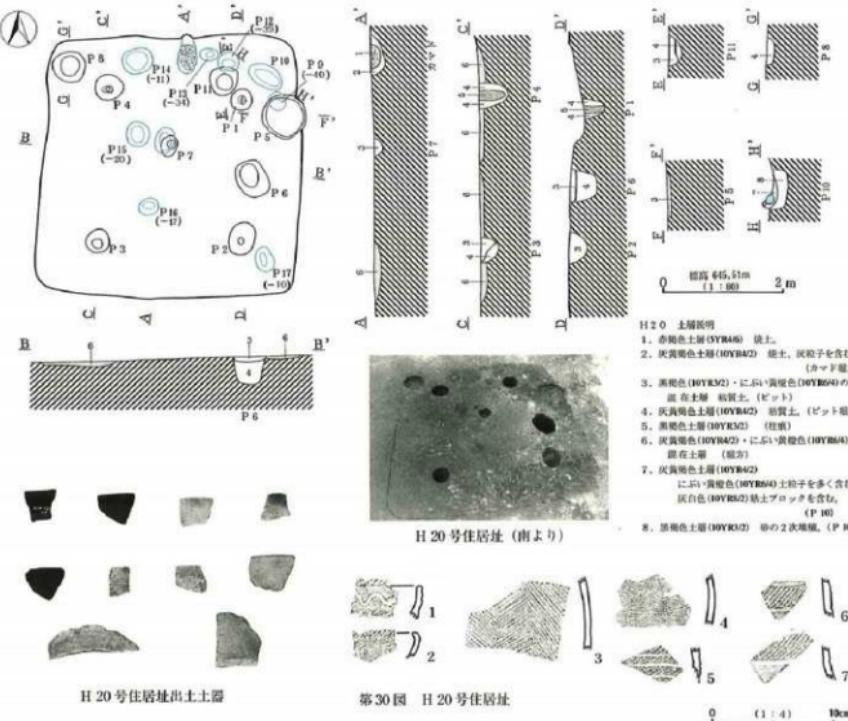
H19号住居址(東より)



第29図 H19号住居址

第18表 H19号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	器種未定 高杯	18.2 <4.3>	内 ミガキ→赤色塗彩 外 ミガキ→赤色塗彩	口縁部18残存(剥離著しい) 赤色塗彩2.5 YR 5/8(明赤)	緻密。	検出・M I
2	土師器 瓶	(19.6) <10.7>	内 口縁部横ナゲ・胴部ミガキ 口縁部横ナゲ・胴部腹位ヘラケズリ→口 縫部横ナゲ	口縁部18残存 7.5 YR 7/2(明褐灰)	緻密。	I区

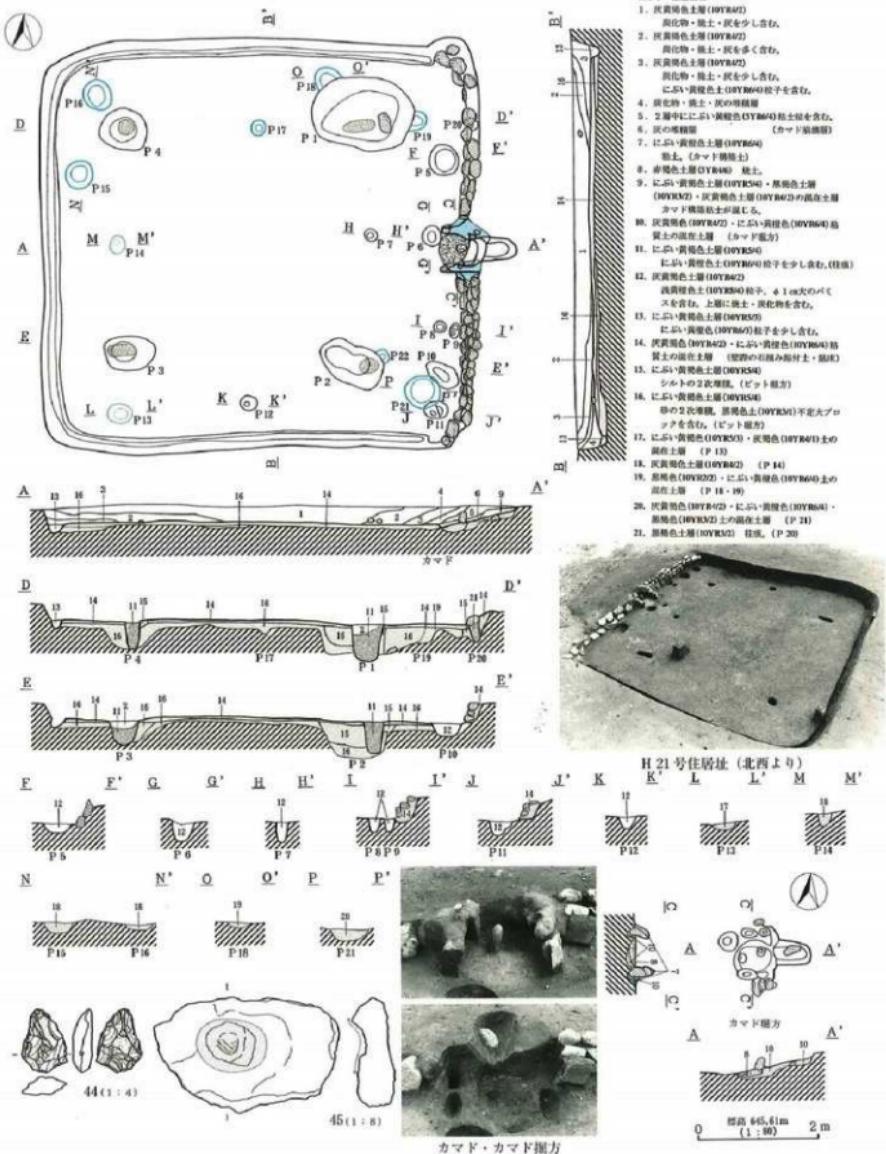


## 19) H 21号住居址 (第31・32・33・34図、第19表、図版十三・十四・四十六・四十七・四十八)

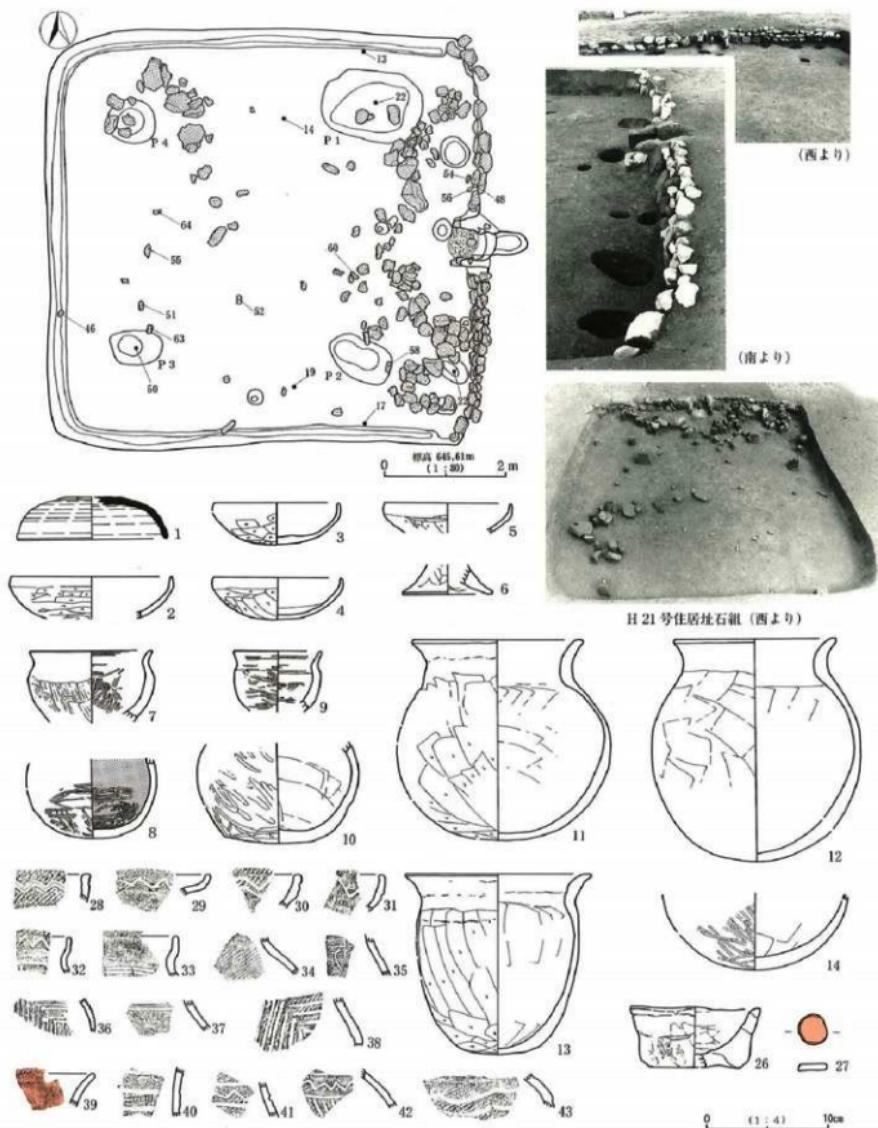
7い1グリットにあり、古墳時代のH49、弥生時代のH48・H52を切る。規模は南北620cm、東西660cm、深さ38cmを測り、本遺跡では大型で整った住居である。カマドは東壁中央にあり、主軸方位はN-98°-Wを指す。東壁は石垣状に壁面沿って石が積まれていた。3段確認されたが住居址内に残された跡の出土状況からはもう2段ほど上乗せされていたようである。床面を覆う土からは多量の炭化材、焼土、灰が検出され、焼失家屋である。

主柱穴はP 1～P 4で、大きな穴に柱材を埋めている。P 1では長径172cm 短径120cm 深さ52cm の壠方に厚さ18cm、幅54cmの板状の柱材と推測される柱痕が確認されている。P 2は108cm×68cm、深さ60cmの中くびれの楕円形の壠方に長径28cm 短径24cmの楕円形の柱痕がみられた。P 3は長径84cm 短径55cm、深さ40cmの角のある楕円形に幅48cm 厚さ19cmの板状の柱痕がある。P 4は短径68cm 長径80cm 深さ46cm 楕円形の壠方に柱痕は径24cmの円形である。カマドのある東壁側にはP 5・P 6・P 8～11の小ビットがある。P 5・P 10は深さ16～20cmと浅く、甕などの置き場所であろうか。

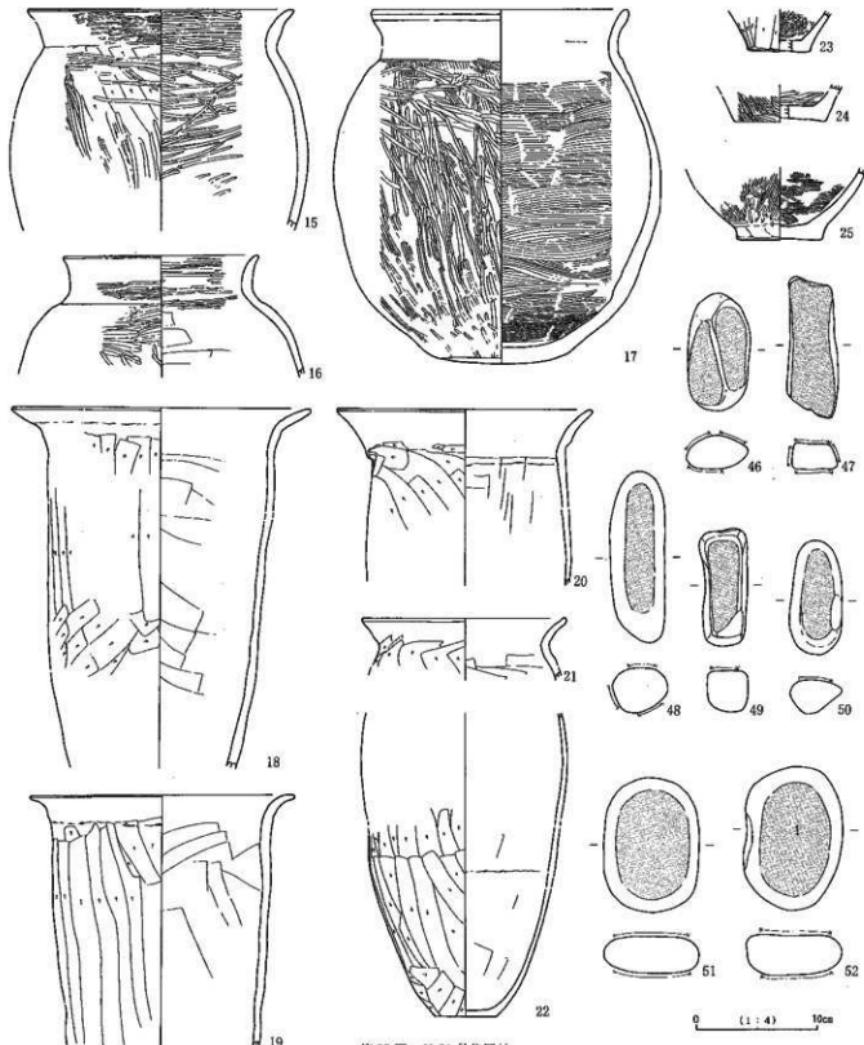
掲載遺物には須恵器杯身(1)、土師器杯(2～5)・高杯(6)・椀(7・9)・鉢(8・10)・小型甕(11～14・21)、丸胴甕(15～17)・長胴甕(18～20・22)・手すくね(26)・弥生式土器(23～25・28～43)・土製円版(27)・スリ石(46～66)・黒耀石製石獣(44)・溶岩製の凹石(45)・袖石として使用)がある。



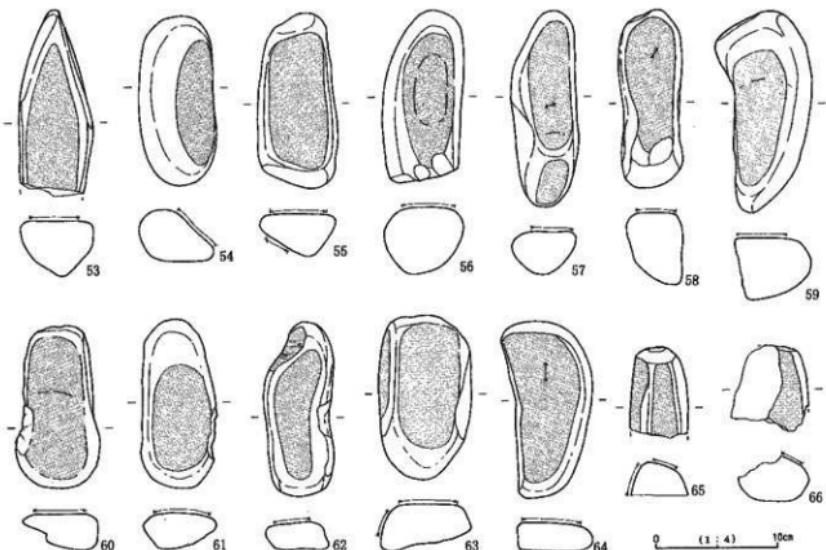
第31図 H 21号住居址



第32図 H 21号住居址



第33図 H 21号住居址



第34図 H 21号住居址

1の須恵器杯身は口縁端部が丸く、底部は破片で明確ではないが回転ヘラ切りのままである。2~5の土師器杯は胎土が粉末質の精製胎土で、器肉が薄く小型である。内面はナデ調整、外面底部はヘラケズリ、口縁は短く内傾し横ナデされている。6の高杯脚部は短脚でハの字に開く。7~8の碗・鉢は重複するH49からの混入品であろう。小型甕は丸胴とそうでない物の2種ある。17の丸胴甕は口縁部横ナデ、内面ハケ、外側ミガキ調整である。長胴甕は18・19がやや厚手で胴部が継にヘラケズリされ、20・21は武藏甕で、胴部は薄手の作りとなり、胴上部は斜位にヘラケズリされる。スリ石は安山岩・砂岩・花崗岩などの川原石で、スリ面がある。中央脇がくびれたもの、欠け痕などがあり、礎物石としても使用された痕跡を残す。

これより古墳時代後期の新しい土器群であろうか。

第19表 H 21号住居址出土遺物一覧表

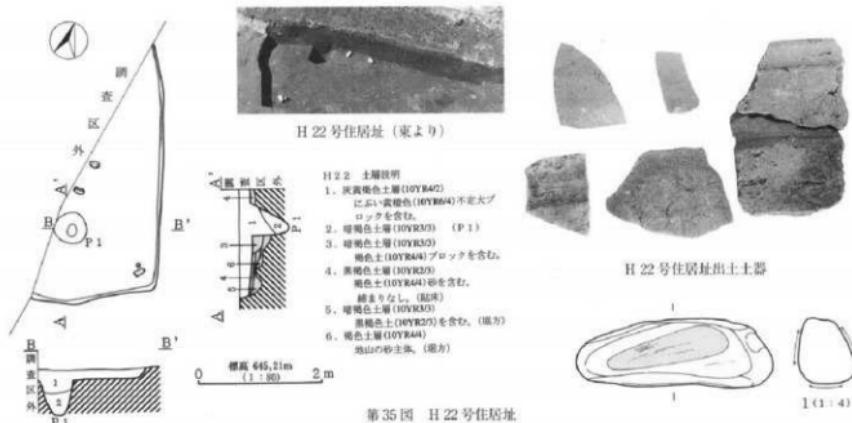
番号	器種	法量	成形・調整	残存状・色調	断面・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(12.4) - <3.4>	内 ロクロ横ナデ 外 ロクロ横ナデ・底部回転ヘラキリ	口縁部1/3残存 N60(灰)	1mm以下の白色粒子を含む。 黒色粒子溶出。	Ⅰ区、 Ⅱ区船方
2	土師器杯	(13.4) - <3.4>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・体部横位ヘラケズリ	口縁部1/3残存 7.5YR7/4(にぶい橙)	緻密。	Ⅱ区
3	土師器杯	(10.5) - 3.4	内 口縁部横ナデ・みこみ盛ナデ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存(内面磨耗) 5YR7/6(橙)	緻密。	カマド
4	土師器杯	10.5 - 3.4	内 みこみ盛ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ	ほぼ完形 2.5YR6/6(淡)	緻密。	Ⅱ区
5	土師器杯	(10.6) - <2.4>	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 2.5YR7/4(淡赤橙)	緻密。	カマド

番号	器種	法益	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
6	土師器 高杯	(7.4) <2.4	内 縁部ナデ→口縁部ナデ→柱部ナデ	底部1/3残存 10YR7/2(にびい黄鉄)	1mm以下の白色粒子を少量含む。 脚部: 花崗岩不整。	III区・検出
7	土師器 椀	(10.1) <5.8	内 体部ナデ→口縁部ナデ→ミガキ 外 縁部・肩上半横ナデ→縦似ハケズリ	口縁部約1/2残存 7.5YR8/6(浅黄鉄)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	カマド
8	土師器 鉢	二 <4.4	内 ミガキ→黒色処理 外 ヘラケズリ・ミガキ	底部完形 19.7.5YR6/2(黒) 外 7.5YR6/4(にびい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少々含む。 丸底。	IV区
9	土師器 椀	(7.2) <4.9	内 体部ナデ→口縁部ナデ→ミガキ 外 体部ハケズリ・口縁部ナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 SYR6/4(にびい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を少々含む。	I区・後出し
10	土師器 鉢	8.6 <5.1	内 ナデ→縫なミガキ 外	底部完形 7.5YR8/4(浅黄鉄)	2mm以下の赤色粒子、1mmの白色粒子を少量含む。並んで、内面頸下に接着している。 微密。	IV区
11	土師器 小型甕	14.0 8.0 <16.3	内 口縁部ナデ→肩・底部ナデ 外 口縁部ナデ→肩・底部ハケズリ	II縁部はぼ定形 7.5YR8/3(浅黄鉄)	1mmの白色粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む。小石を含む。 微密。	III区・IV区
12	土師器 小型甕	(13.5) 18.0	肩 口縁部ナデ→肩・底部ナデ 外 口縁部ナデ→肩・底部ハケズリ	II縁部約1/2残存 7.5YR8/4(浅黄鉄)	1mmの白色粒子・黒色粒子・小石を含む。 微密。	II区・III区
13	土師器 小型甕	15.2 6.9 14.6	内 口縁部ナデ→縫隙部ナデ→ハナデ 外 口縁部ナデ→肩・底部ハケズリ	はぼ定形 5YR7/6(橙)	5mm大の小石を含む。	I区・検出
14	土師器 丸瓶甕	二 <5.2	内 ナデ→ハナデ 外 ヘラケズリ・ミガキ	底部完形 5YR6/4(にびい橙)	1mm以下の白色粒子・白色粒子を少々含む。 小型。	
15	土師器 丸瓶甕	(21.9) 18.2	内 ナデ→横位ミガキ 外 口縁部ナデ→胴部ハラケズリ→ミガキ	口縁部はぼ定形 5YR7/6(橙)	1mmの白色粒子を多量含む。	I区検出・IV区・IV区検出
16	土師器 丸瓶甕	(15.2) <9.9	内 口縁部ミガキ・胴部ナデ 外 口縁部ナデ・ミガキ・胴部横位ハラケズリ →ミガキ	口縁部1/4残存 5YR7/4(にびい橙)	赤色粒子・白色粒子を含む。	III区検出
17	土師器 丸瓶甕	(21.1) 11.0 29.1	内 肩・底部ハケメ・口縁部ナデ 外 口縁部ナデ・肩上ハケメ・肩中央・下半 ハケズリ・ミガキ・底端磨耗	口縁部1/2・底端完形 5YR7/2(明褐色)	さめ觸かい。 赤色粒子・白色粒子を含む。	
18	土師器 甕	(24.5) <29.7	内 口縁部ナデ→胴部横位ハラナデ 外 口縁部ナデ・胴部斜位ハラケズリ →肩下斜位ハラケズリ	口縁部1/2残存 5YR6/3(にびい橙)	小石を含む。	II区・ II区検出
19	土師器 甕	21.5 <20.8	内 口縁部ナデ→胴部ハケナデ 外 口縁部ナデ・胴部斜位ハラケズリ	口縁部はぼ定形 7.5YR8/3(浅黄鉄)	3mm以上の小石を多量含む。	
20	土師器 甕	21.0 <14.4	内 胴部横位ハラナデ→口縁部ナデ 外 口縁部ナデ→胴部斜位ハラケズリ	口縁部1/2残存 5YR7/4(にびい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子・3mm以下の赤色粒子を含む。武威型甕。	I区・IV区
21	土師器 甕	16.9 <5.1	内 口縁部ナデ→胴部横位ナデ 外 口縁部ナデ・胴部斜位ハラケズリ	口縁部はぼ定形 5YR6/4(にびい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	III区検出
22	土師器 甕	一 <24.9	内 横位ハラナデ 外 底部胴部横位ハラケズリ・胴部斜位ハラ ケズリ	底部完形 5YR6/4(にびい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・2mmの赤色粒子・小石を含む。底部に小刺痕あり。武威型甕。	P1・P11
23	弥生土器 甕	(5.2) <4.4	内 ハケナデ 外 ヘラナデ	底部1/3残存 7.5YR6/4(にびい橙)	1mm以下の白色粒子を多量含む。	偏方
24	弥生土器 甕	(7.6) <5.0	内 ミガキ 外 ミガキ	底部1/2残存 7.5YR6/2(灰白)	1mm以下の白色粒子を含む。	IV区
25	弥生土器 甕	(7.2) <5.9	内 ハケメ 外 脇部ハケメ後ミガキ・底部ナデ	底部完形 10YR8/2(灰白)	1mmの白色粒子を少量含む。 微密。	偏方 P2
26	土師器 手桶	(10.8) (7.6) 4.9	内 ヘラナデ ナデ・木溝蓋	底部1/4残存 10YR8/4(浅黄鉄)	微密。	II区
27	土師円瓶	2.4 0.5	内 赤色塗彩 外 赤色塗彩	完形 10R4/8(赤)	両面共に赤色塗彩。 弥生七器二次利用。	III区

## 20) H 22号住居址 (第35図、図版十五・四十九)

7き1グリットにあり、調査区の西端で南東隅だけ調査し、大半は区域外である。住居址の規模はわからないが深さは20cmを測る。南東の主柱穴P1を検出した。円形で径52cm、深さ56cmを測る。

出土遺物の土器は破片のみで、須恵器・土師器と弥生式土器がある。須恵器は丸底で口縁端部が丸い。土師器杯も丸底で内面ミガキ調整されている。壺は縦ヘラケズリの長胴壺部片、壺か鉢の口縁部片がある。これらは古墳時代後期の土器群であろうと推測される。実測したスリ石は安山岩でスリ面が3面ある。



第35図 H 22号住居址

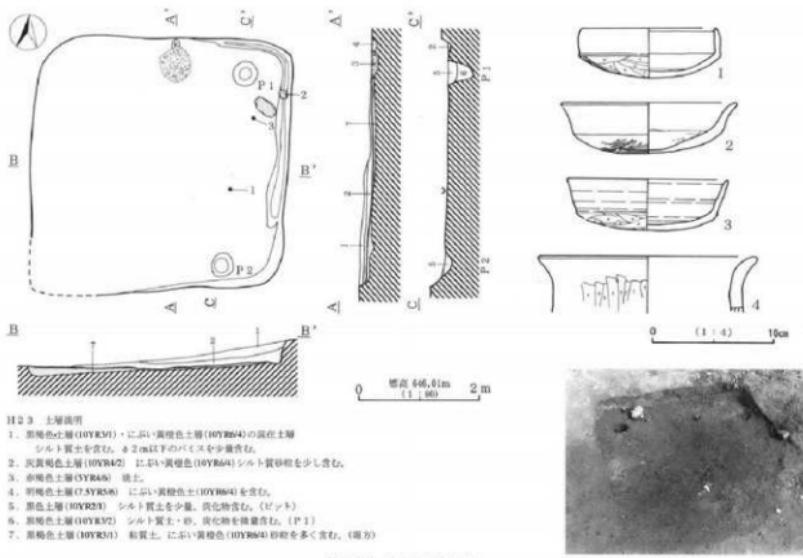
## 21) H 23号住居址 (第36図、第20表、図版十五・四十九)

6こ2グリットで検出された。規模は南北408cm、東西420cmで深さは傾斜地のため西側の壁がなく、0~8cmを測り、東西に長い方形を呈す。北壁下中央に焼土範囲が残り、カマドの跡と推測される。主軸方位はN=0°で北を指す。西壁側に主柱穴P1・P2が検出され、円形で径40cm、深さ40~12cmを測る。

掲載遺物には土師器杯(1~3)・壺(4)がある。土師器杯1~3は須恵器模倣杯で、緻密な胎土、内面ナナメ調整される。2は厚手で器肉も均一でなく、底部と口縁の径も異なり、口縁部横ナナメ、底部外面ヘラケズリ後、難なミガキ調整が施される。内面にわずかにミガキがある。4の壺は小型の長胴壺であろう。古墳時代後期の土器群であろう。

第20表 H 23号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	11.2 — 4.1	内 みごみ部ナナメ→口縁部横ナナメ 外 口縁部横ナナメ→底部ヘラケズリ	口縁部3/4残存 5YR5/1(褐色)	緻密。	
2	土師器杯	(14.6) — 4.2	内 みごみ部ヘラナナメ→口縁部横ナナメ 外 口縁部横ナナメ→底部ヘラケズリ→部分的にミガキ	口縁部3/4残存、底部完形 2.5YR6/6G(にじいろ)	1mm~2mmの白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	
3	土師器杯	13.4 — 4.2	内 横ナナメ 外 口縁部ロコロナナメ→底部ヘラケズリ	口縁部完形 7.5YR6/6G(にじいろ)	緻密。	
4	土師器壺	(18.2) — <4.6>	内 横ナナメ 外 口縁部横ナナメ→胴部底盤ヘラケズリ	口縁部1/6残存 2.5YR7/4(赤茶色)	1mmの赤色粒子・小石を含む。	1区・東方



第36図 H 23号住居址

H 23号住居址(西より)

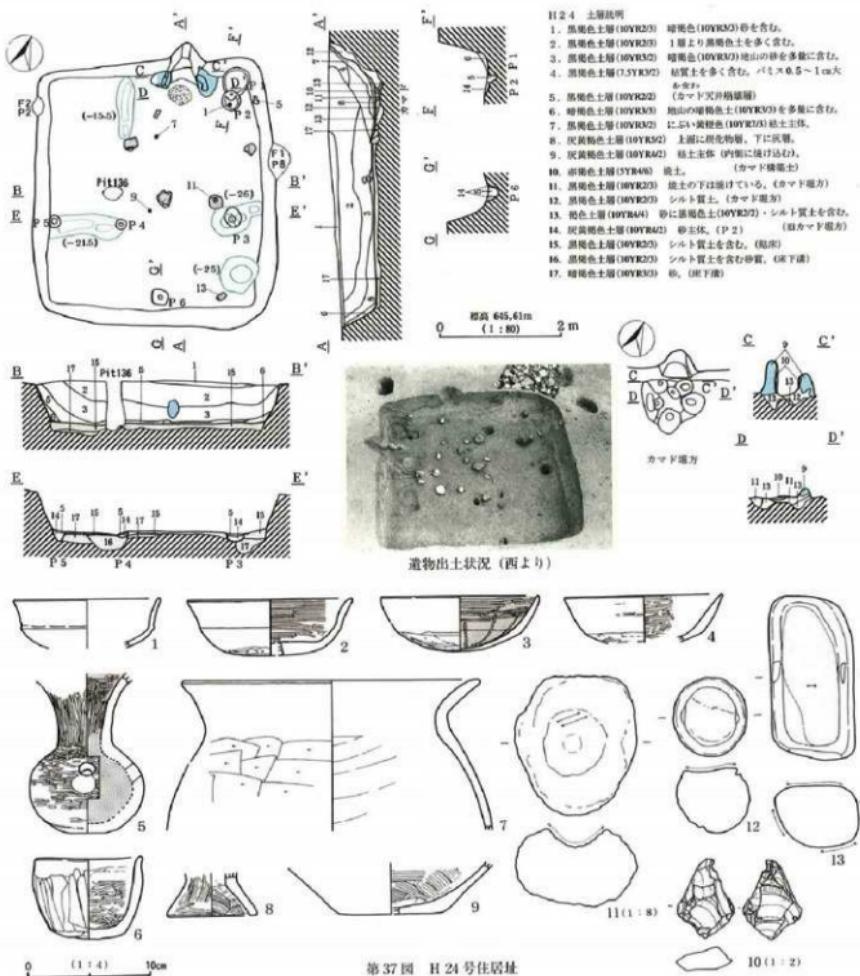
## 22) H 24号住居址 (第37図、第21表、図版十五・四十九)

3~8グリットにあり、F1・F2・単独ピットP136に切られ、弥生時代のH52・D9・D20を切っている。南北382cm、東西347cm、深さ73cmを測り、やや南北に長い方形を呈す。カマドは北壁の中央よりやや東寄りにあり、主軸方位はN-20°-Wを測る。カマド壙方で旧カマドの壙方が確認された。柱穴はP2~6が検出されるが小規模である。明確な主柱穴は確認されていない。間仕切りの溝が3ヵ所ある。

出土遺物には土師器杯(1~4)・壺(5)・小鉢(6)・丸胴壺(7)・弥生式土器(8・9)・黒羅石製石(10)・安山岩製閃石(11)・鈴石製シリ石(12)・編物石(13)がある。1は橙色杯で、粉末質薄手、内面ナデ調整される。2は厚手で外面部底部へラケズリし体部はナデ、口縁部は明確な稜を持たずに横ナデされ外反する。3・4は胎土は精製され、浅い丸底からわずかな棱を持つ外側傾する。全体に磨耗が著しいのでわからないがミガキが施されていたようである。5の腹は体部中央に穴をあけ、外面ミガキ、口縁部内面はミガキ黒色処理される。7の丸胴壺は口縁部横ナデ、胴部へラケズリされる。これらより、古墳時代後期の土器群であろう。

第21表 H 24号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.2) <4.0	内 口縁部横ナデ・ナデ 外 口縁部横ナデ・底部へラケズリ	口縁部L3残存(摩耗) 10R6/4(にい赤棕)	緻密。	III区・P2
2	土師器杯	(13.6) (8.7) 4.6	内 ナデ・横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・体部ナデ・底部へラケズリ	口縁部L2残存 5Y R6/5(にい赤)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	III区・N区
3	土師器杯	(13.0) 4.5	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ→贈文風 ミガキ・黑色焼肉?	口縁部L2残存(摩耗) 7.5Y R6/1・7/1(褐灰・明褐色)	緻密。	カマド



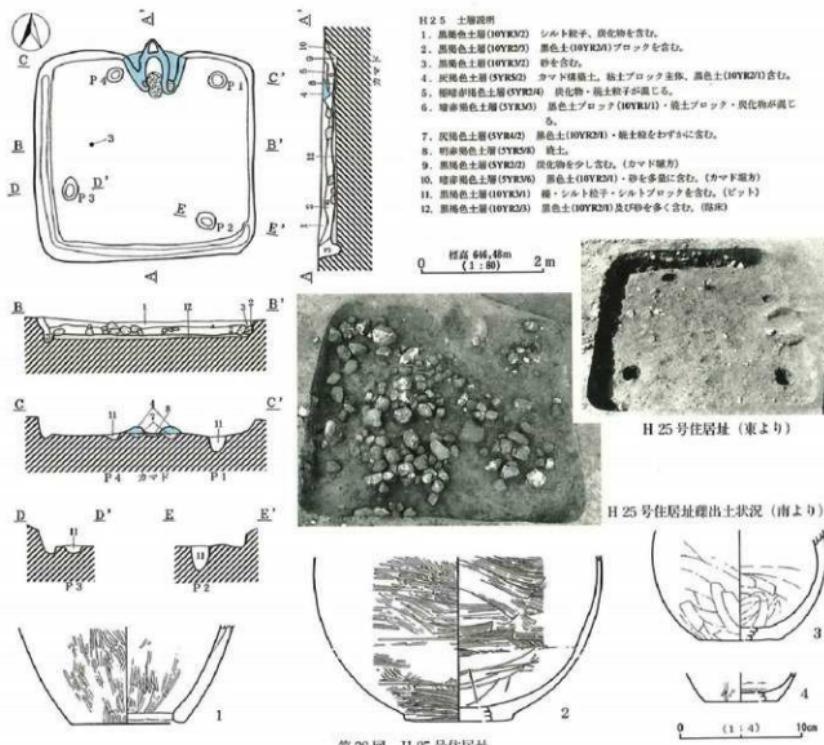
第37図 H24号住居址

		13.2 外 <13.8>	内 壁位ミガキ 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ→ミガ キ?	口縫部13枚存(外面摩耗) 7.5Y R6/1(海成)	微密。	杏区
4	土師器 杯	—	—	—	—	—
5	土師器 盤	— <13.0>	内 口縁部ミガキ→黑色処理 ミガキ	底膨充形 内 N20(風) 外 5Y R7/4(にいし)	1mmの赤色粒子・黒色粒子 を含む。	杏区

6	土師器 小鉢	8.8 6.1 6.7	内 外 口縁部焼ナデ→体部→底部焼灰ヘラナ デ→ミガキ 口縁部焼ナデ→体部焼灰ヘラナデ・底部 ヘラナデ	完形 7.5Y R5/2・6/3 (灰青・にぶい緑)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	Ⅲ区
7	土師器 丸刷毛	24.5 <12.4>	内 外 口縁部焼ナデ→胴部ヘラナデ 口縁部焼ナデ→胴部焼灰ヘラケズリ	口縁部1/2残存 7.5Y R7/1(にぶい緑)	1mm以下の白色粒子・小石を含む。	カマド・ IV区・焼出
8	弥生土器 台付器	(7.4) <3.5>	内 外 ハケナデ ハケナデ	底部1/2残存 10Y R4/4(灰青緑)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅱ区
9	弥生土器 壺	(8.6) <1.2>	内 外 ハケヌ ナデ→ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい緑)	1mm以下の白色粒子・1~3 mmの赤色粒子を含む。	

## 23) H 25号住居址 (第38図、第22表、図版十六・四十九)

6き5グリットにあり、H60を切る。南北300cm、東西323cmの方形を呈す。壁残高は31cm。北壁中央にカマドがあり、主軸方位はN-8°-Wである。覆土には大小多くの礫が入り込んでいた。主柱穴はP1-P4で径24cm~28cm、深さ13~36cmと小規模である。周溝は西、南壁下に検出された。



掲載遺物には土師器瓶（1）・丸胴壺（2）・小型壺（3）、弥生式土器（4）がある。瓶は1孔で大型の物であろうか、丸胴壺の外面は丁寧にミガキが施される。3は厚手で、口縁を欠損しているのでわからないが鉢であるかもしない。古墳時代後期の土器群である。

第22表 H 25号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法番	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器瓶	— (9.2) 外 ≤1.8>	内 縦位ミガキ ナデ・縦位ミガキ(粗面ミガキ)	底部14残存 7.5Y R6/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子を少量 、小砂粒を含む。胎土量にへ てによる割みを入れてある。 (接合部)	Ⅳ区
2	土師器 丸胴壺	— (9.0) 内 ≤13.3>	内 崩下キース基部ナデ・部分的にミガキ 外 崩下部ミガキ・底部ヘラケズリ	底部14残存 7.5Y R6/4(にぼい橙)	1mm以上の白色粒子を少量 、3mm以下の赤色粒子を多量 含む。	Ⅰ区
3	土師器 壺	— (7.2) 外 ≤6.9>	内 ヘラナナデ 外 ヘラナナア	底部23残存 7.5Y R6/2(灰褐色)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅱ区・床
4	弥生式土器 壺	— (6.0) 内 ≤3>	内 ヘラナナデ ナデ・部ミガキ	底部16残存 10Y R7/2(にぼい黄褐色)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅳ区

## 24) H 26号住居址 (第39・40図、第23表、図版十七・十八・四十九・五十一)

6お5グリットにあり、古墳時代のH54・55を切る。南北512cm、東西528cm、深さ56cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-18°-Eを測る。カマドは袖の内側に最高で4段の石を積み、粘土を貼っている。覆土には多量の大小蝶が入り込んでいた。主柱穴はP1-P4で、P1-P3で柱痕が検出された。柱穴は径44~54cm、深さ40~52cmを測る。カマドの東に円形で径72cm深さ12cmを測り、焼土・炭化物を含む浅いピットがある。堀方ではカマドの西にも円形で径84cmのピットが検出された。

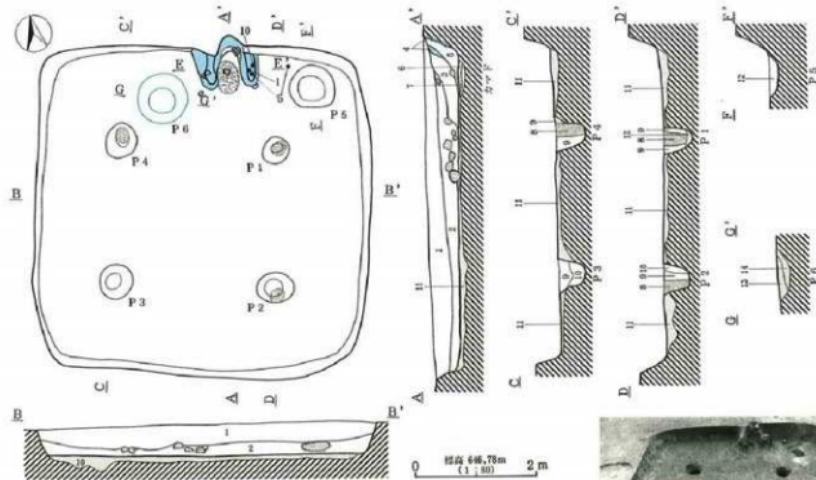
掲載遺物は須恵器杯蓋（1）、土師器杯（2・3）、鉢（4~6）、小型壺（7・8）、瓶（9・10）、長胴壺（11）、丸胴壺（12~14）、手程（32）、黒磁石製石錆・刷片（36・33）、安山岩製スリ石（34）、鉄製品（刀子？36）がある。

1の須恵器杯蓋は扁平で、口縁端部は内傾し、口縁と天井部の境は沈線が廻る。天井部は弱いナデの様な手持ちヘラケズリが施されている。T K10号窓型式あるもので、6C中頃とされている。土師器杯は全体に内溝するもので、内面ミガキ黒色処理。

2・5の鉢は内面黒色処理されるがミガキは施されない。外面はヘラケズリである。4の鉢は内面ミガキ黒色処理で外面でもミガキ調整。8は橙色の精製された胎土の小形壺である。瓶は単孔と多孔の両者がある。長胴壺は胴部に最大径を持っているがかなり長胴化している。丸胴壺は内外面にミガキ調整が施される。

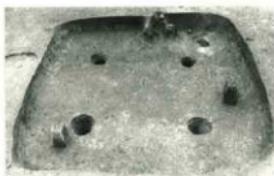
第23表 H 26号住居址出土遺物一覧表（1）

番号	器種	法番	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 瓶	(13.2) 8.0 4.0	内 ロクロナナデ 外 ロクロナナデ・天井部横断ヘラ切り・天 井部手持ちヘラケズリ	口縁部1/2残存 N50(灰)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	
2	土師器 杯	(13.4) (6.8) 4.3	内 横位ミガキ・黒色処理 外 口縁部横ナナ・体部ナナ・底部ヘラケズ リ	口縁部・一部残存 内 N20(黒) 外 10Y R7/2(にぼい黄褐色)	1mmの白色粒子・黒色粒子 を含む。	Ⅱ区
3	土師器 杯	(15.0) (6.6) 4.9	内 ヘラミガキ・黒色処理 外 ヘラミガキ・ミガキ	口縁部16残存 内 N20(黒) 外 7.5Y R7/4(にぼい橙)	1mmの白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子を含む。	Ⅳ区
4	土師器 鉢	(13.3) (5.5) 9.0	内 胴部・部横位ヘラナナ→口縁部横ナナ ナナ・黒色処理 外 胴部ナナ・底部ナナ→1/3縫合横ナナ	口縁部→底部3/4残存 内 N20(黒) 外 5Y R7/3(にぼい橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅰ区・カマド
5	土師器 鉢	10.6 6.5 10.3	内 1/3縫合横ナナ・胴→底部横位ヘラナナ ナナ・黒色処理 外 1/3縫合横ナナ→胴部ヘラナナ→底部ヘ ラケズリ	完形 内 N20(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	1mmの招色粒子・赤色粒子 を含む。	Ⅰ区・Ⅱ区 カマド
6	土師器 鉢	11.7 11.4	内 横位ミガキ・黒色処理 外 口縫合横ナナ・胴・底部横位ミガキ	1/3縫合1/2残存 内 N20(黒) 外 5Y R6/3(にぼい橙)	1mmの赤色粒子を少量含む。	Ⅰ区・Ⅱ区
7	土師器 小型壺	(13.2) — ≤6.3>	内 口縫合横ナナ・胴部横位ヘラナナ 外 胴部横位・ヘラケズリ・口縫合横ナナ	口縫合部16残存 7.5Y R8/3(浅青緑)	1mm以下の白色粒子を少量 、1mmの招色粒子を少量含む。	カマド
8	土師器 小形壺	(9.6) — ≤4.6>	内 胴部ヘラナナ・口縫合横ナナ 外 胴部ナナ・口縫合横ナナ	口縫合部14残存 5Y R7/1(にぼい橙)	鉄製品。 縫合。	Ⅱ区・Ⅳ区



## H26 土壌説明

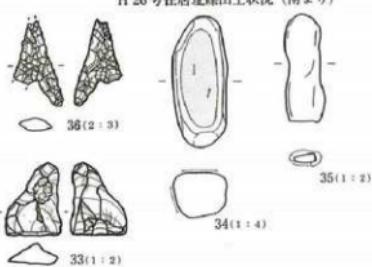
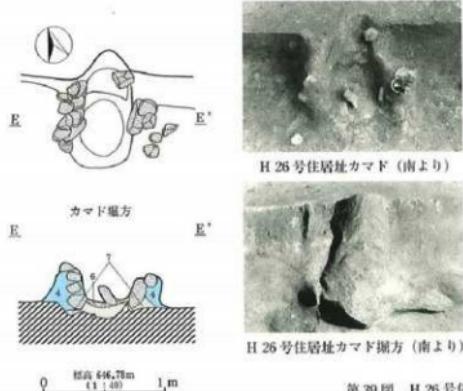
1. 黒褐色土層(H26R21) シルト・炭化物粒子を含む。
2. 黒褐色土層(H26R22) バニス・シルト粒子を含む。炭化物をわずかに含む。(カマド跡堆積)
3. にじみ・赤褐色土層(H26R23) 粘土ブロック・貝殻・粘土粒子・粘土ブロックを多量に含む。(カマド跡堆積)
4. にじみ・赤褐色土層(H26R24) 粘土・黑褐色土(H26R31) ブロックを少し含む。(カマド跡堆積)
5. 黑褐色土層(H26R26) 粘土ブロック・炭化物を含む。
6. 赤褐色土層(H26R46) 粘土。
7. 明褐色土層(H26R47) (カマド堆積)
8. 赤褐色土層(H26R22) 炭化物粒子を含む。(柱底)
9. 黑褐色土層(H26R23) 黑褐色土(H26R44) ブロックを含む。(ビット頭部)
10. 黑褐色土層(H26R44) 地山の砂主材。(P2)
11. 黑褐色土層(H26R23) 地山の砂・砂ブロックを多く含む。黒褐色土(H26R22) ブロックを含む。(E3)
12. 黑褐色土層(H26R23) 砂土・炭化物を多量に含む。(P5)
13. 黑褐色土層(H26R33) 黑褐色土(H26R11) ブロックと地山砂粒ブロックを多く含む。(P6)
14. 黑褐色土(H26R21) 地山の砂粒ブロックを含む。(P6)



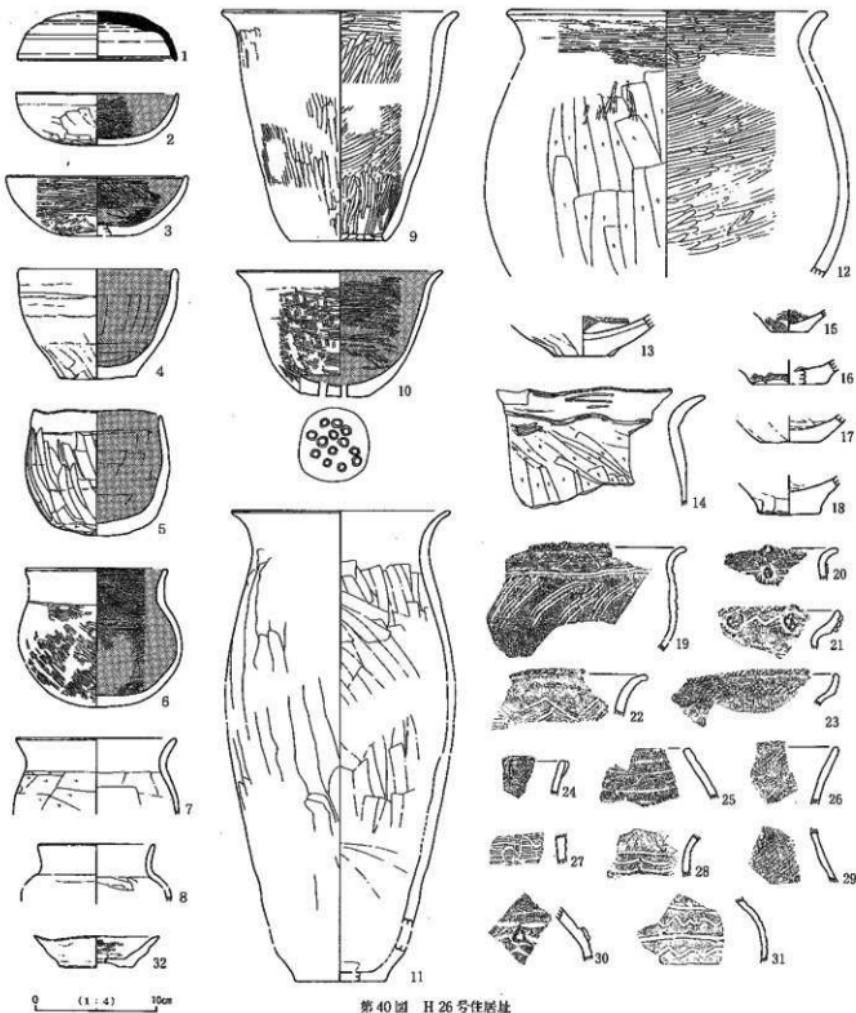
H 26 号住居址 (南より)



H 26 号住居址埋出状況 (南より)



第39図 H 26 号住居址



第40圖 H 26号住居址

第23表 H 26号住居址出土遺物一覧表(2)

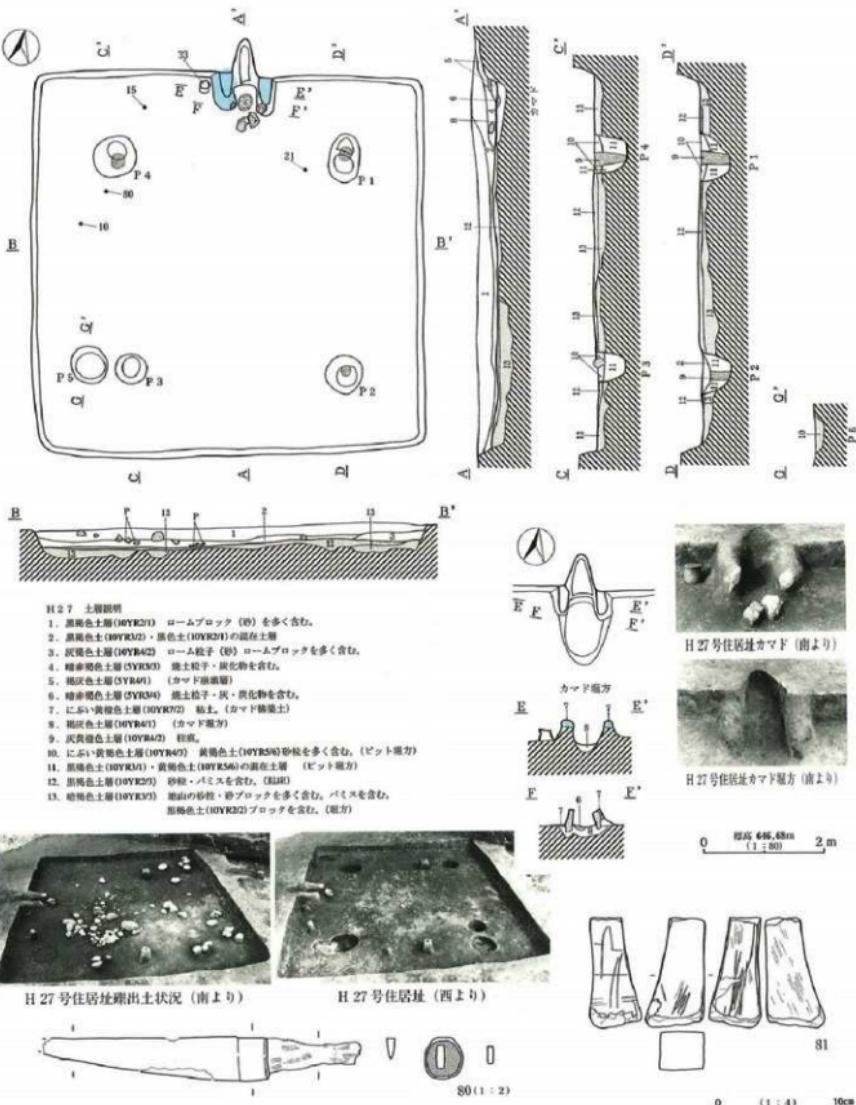
9	土師器 瓶	19.6 8.0 18.8	内 外	口縁部横ナデ・胴部縦位ミガキ 口縁部横ナデ・胴部縦位ナデ・胴部縦位ミガキ	口縫部・部欠損、底部完形 SY R74(にぶい程)	1mm前後の赤色粒子を含む。 崩耗。	I区・II区 カマド
10	土師器 瓶	17.1 5.7 10.3	内 外	ミガキ一黒色處理 口縁部横ナデ・胴部縦位ヘラケズリ→ 被訛ミガキ一横位ミガキ。底部に焼成 前に13孔がある	ほぼ完形 内 N20(墨) 外 7.5Y R82(灰白)・5Y R 84(灰褐色)	赤色粒子を少量・小石を含む。	I区・カマド
11	土師器 甕	18.0 7.5 38.7	内 外	口縁部横ナデ・胴部・底部ヘラケズリ 口縫部横ナデ・胴部・底部ヘラケズリ	口縫部1A残存 5Y R84(灰褐)・2.5Y R64 (にぶい程)	1mm以下の赤色粒子・黑色 粒子を少量含む。	I区・II区・ IV区
12	土師器 丸胴甕	(26.6) 21.8	内 外	横位ミガキ 口縫部横位ミガキ・胴部縦位ミガキ	口縫部1A残存(外周擦耗) 5Y R76(灰)	1mmの白色粒子多量含む。	H26 II区・III 区・IV区・II区
13	土師器 甕	(5.0) 3.3	内 外	ハケナデ ヘラケズリ	底部1/2残存(摩耗) 10R66(赤褐)	1mmの白色粒子を含む。	III区
14	土師器 丸胴甕	— — 4.9	内 外 外	口縫部横ナデ・胴部縦位ミガキ 口縫部横ナデ・胴部ヘラケズリ・部分 的にミガキ	口縫部1/5残存 7.5Y R76(灰)	1mmの白色粒子・赤色粒子 を含む。 口縫部の歪み大きい。	I区
15	土師器 ?	(3.0) 1.8	内 外	ミガキ ミガキ	底部2/3残存 7.5Y R74(にぶい程)	小石を少量含む。	II区
16	土師器 甕	(6.0) 2.8	内 外	ナデ ナデ(工具使用)	底部1/3残存 7.5Y R73(にぶい程)	1mm以下の白色粒子・2m m以下の赤色粒子を含む。	I区
17	土師器 甕	— 5.0 2.8	内 外	ヘラナデ ナデ	底部3/4残存 5Y R63(にぶい程)	1mmの白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子を含む。	IV区
18	土師器 甕	(5.3) — 3.3	内 外	ヘラナデ ナデ	底部1A残存 5Y K4/2(灰褐)	2mm以下白色粒子を少量 含む。	IV区
32	土師器 手鏡	(10.2) (6.0) 2.8	内 外	ナデ後ミガキ ナデ	底部1/4残存 10Y R74(にぶい黄銹)	小石・1mmの黒色粒子・白 色粒子含む。	IV区

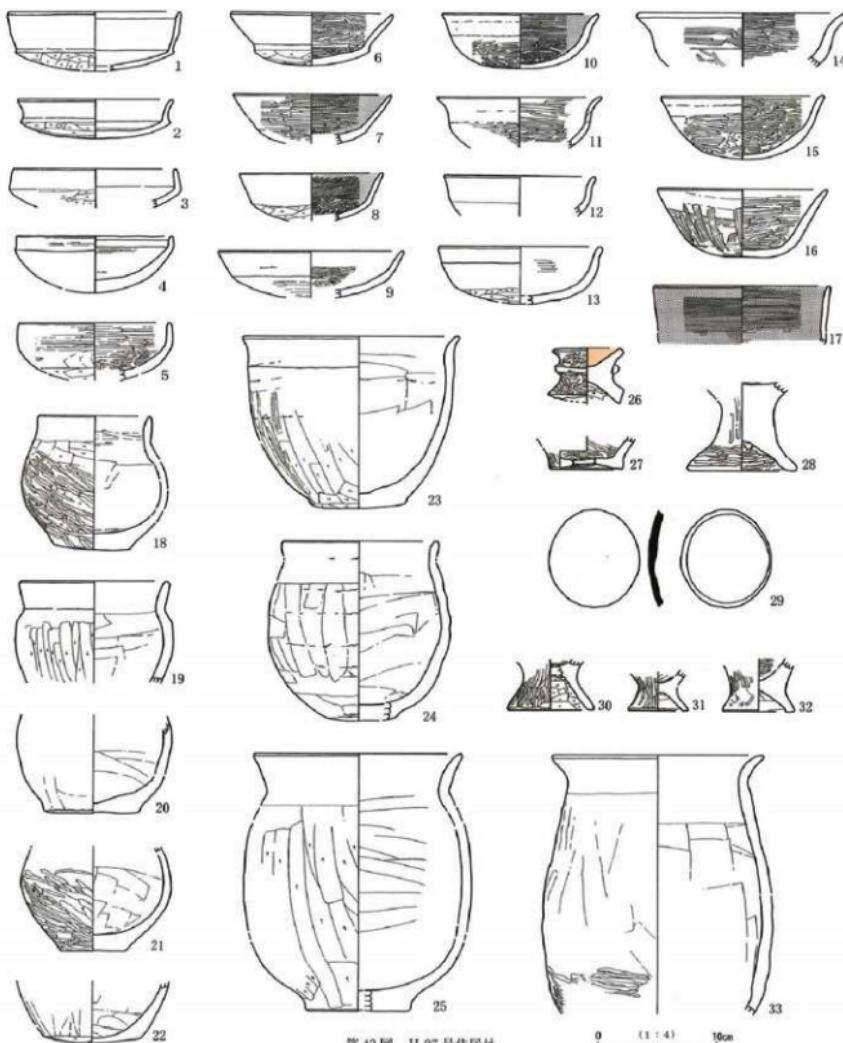
## 25) H 27号住居址 (第41・42・43・44図、第24表、図版十八・十九・五十・五十一・五十二)

6 ない7グリットにあり、古墳時代のH54・弥生時代のH59を切る。南北612cm、東西622cmを測り、方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-9°-Wを測る。カマドの袖は地山を掘り残して、袖芯としている。袖先には縄を立て焚口を作っている。主柱穴はP1-P4であり、P1が楕円、他は円形で、直径50~68cm、深さ48~54cmを測る。径16~25cmを測る柱痕がP3を除いて確認された。またP3の西隣に径64cm、深さ16cmの浅いビットがある。

出土遺物は土器が多数出土している。土師器杯(1~17)・高杯(28)・鉢(18~24)・小型甕(25)・丸胴甕(34~39)・長胴甕(33~40~43)・須恵器円版(29)・弥生式土器(26~27・30~32)・鉄製刀子(80)・凝灰岩製砥石(81)がある。

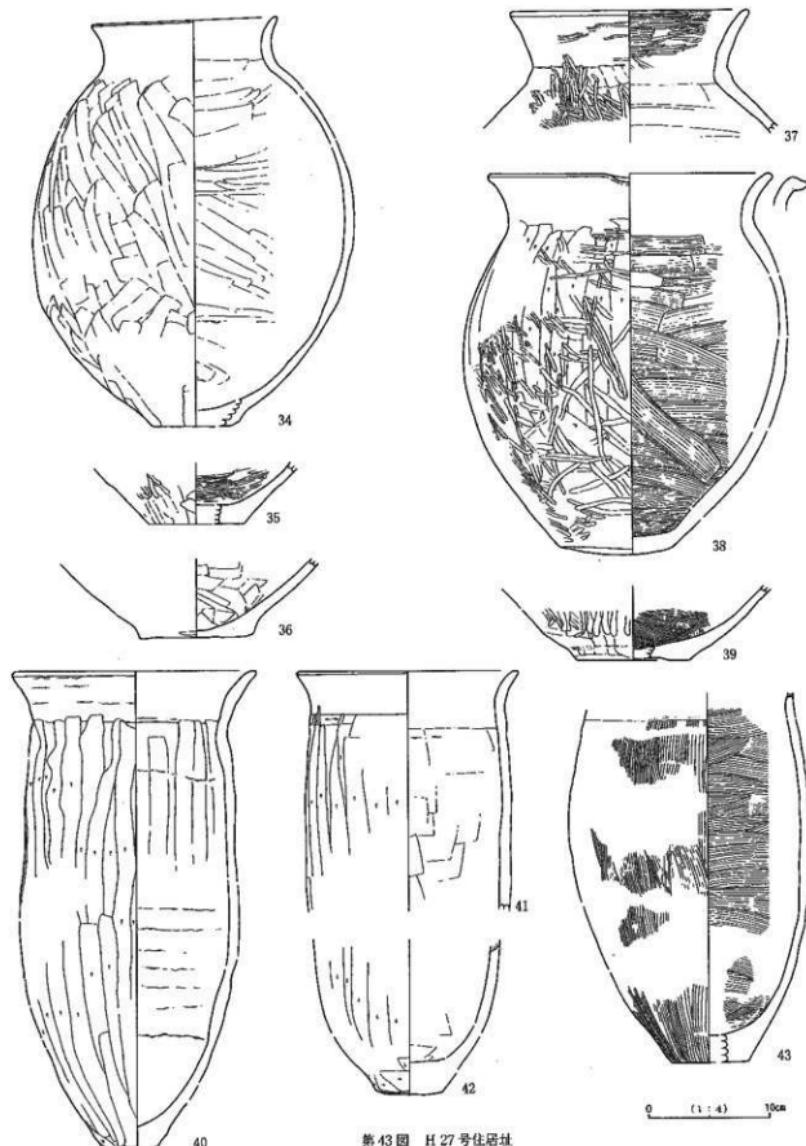
土師器杯は1~3が須恵器模倣杯で器肉が薄く精製された胎土である。1は口縁部がわざかに段をなしている。4・12・13・15・16は厚ぱったく、器内も不均一である。内面ミガキ調整されるが外面は口縁部横ナデ、体部はナデないしヘラケズリである。6・7・8・9・17は口縁部が外縁を持って直線的に外傾し、外面はミガキとそうでないものがあり、内面ミガキ黒色処理される。丁寧な作りの土器である。11・12・14は底部から緩慢な腰を持つ口縁部が外反し、内面ミガキ黒色処理される。33はカマドの西脇に置かれて当初から胴下部を欠損した長胴甕である。最大径が胴部にあり、胴部の調整もヘラナデ調整である。40・42の長胴甕は長胴化し、最大径は口縁部にある。胴部はヘラケズリされる。43は外周面ハケ調整の長胴甕である。34~38の丸胴甕完形品は胴部外面がミガキ調整され、口縫部内外はナデ、内面はハケないナデ調整のままである。37~35などは口縫部または内面にミガキが施される。古墳時代後期の土器群であろう。



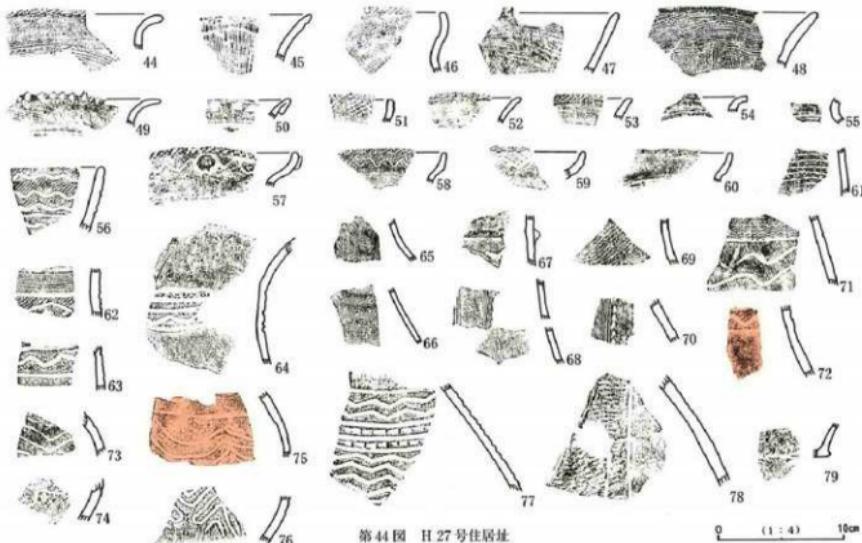


第42圖 H 27号住居址

0 (1 : 4) 10cm



第43図 H 27号住居址



第44図 H 27号住居址

♀ (1:4) 1cm

第24表 H 27号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法號	変形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.6) (13.4) <4.8>	内 外 構ナデ 底部へラケズリ→口縁部構ナデ	口縁部1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	赤色粒子・白色粒子を少量含む。内外面黒色処理? 有段口縁杯。	IV区
2	土師器 杯	(13.0) (12.6) 3.3	内 外 みこみ構ナデ→口縁部・体部構ナデ 口縁部構ナデ・底部へラケズリ	口縁部2/3残存 2.5Y R7/4(浅赤橙)	赤色粒子を少量含む。 内外面黒色処理?	IV区・床
3	土師器 杯	(13.8) (14.4) <3.2>	内 外 構ナデ 口縁部構ナデ→底部へラケズリ	口縁部1/2残存 7.5Y R4/1(湖灰)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	I区
4	土師器 杯	13.2 - 4.7	内外共に剥落していく剥切しがたいが、一部 口縁部構ナデ→底部へラケズリ	口縁部2/3残存(剥落) 2.5Y R7/4(淡赤橙)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子・白色粒子を少量含む。	I区・II区・ IV区
5	土師器 杯	(13.0) - <4.7>	内 外 ミガキ 口縁部構ナデ・体部ナデ・底部へラケズ リ→ミガキ	口縁部1/4残存 10Y R8/3(浅黄橙)	1mmの白色粒子を少量含む。	II区
6	土師器 杯	13.6 9.5 4.4	内 外 構位ミガキ 口縁部構ナデ→底部へラケズリ	口縁部3/4残存 5Y R4/1(湖灰)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を少量含む。 内外面黒色処理か?	III区・IV区 検出
7	土師器 杯	(13.2) (9.0) <4.1>	内 外 構位ミガキ→黒色処理 構位ミガキ	口縁部1/4、底部1/3残存 内 10Y R6/4(にぶい黄橙) 外 10Y R6/4(にぶい黄橙)	1mm以下の白色粒子を含む。	II区
8	土師器 杯	(12.0) (10.0) <3.9>	内 外 ミガキ→黒色処理 口縁部構ナデ・底部へラケズリ	口縁部1/2残存 内 10Y R6/4 外 5Y R4/3(にぶい橙)	1mmの赤色粒子を多量含む。	II区
9	土師器 杯	(15.6) - <3.9>	内 外 口縁部構ナデ・みこみ部ナデ→ミガキ 口縁部構ナデ→底部へラケズリ	口縁部1/8残存 2.5Y R3/1(淡赤灰)	1mm以下の白色粒子を含む。	III区
10	土師器 杯	13.2 - 4.6	内 外 ミガキ→黒色処理 口縁部構ナデ・体部構位ミガキ	口縁部1/2残存 内 10Y R6/4 外 5Y R6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	II区
11	土師器 杯	(13.8) - <4.2>	内 外 構位ミガキ 口縁部構ナデ・体部構位ミガキ	口縁部1/4残存 5Y R6/2(灰青)	1mmの白色粒子・赤色粒子 を少量含む。	III区

12	土器器 杯	(12.8) - <3.3>	内 横ナデ→わずかにミガキ 体部ナデ→口縁部横ナデ	LII縁部1/4残存 5Y R7/4(にぶい橙)	1mmの赤色粒子を含む。	IV区
13	土器器 杯	13.8 - 4.8	内 横位ミガキ(ただし、着滅著しく一部のみ判明) 外 口縁部横ナデ・体部ナデ・底部ヘラケズ リ	口縁部1/2残存(底滅) 5.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を含む。	Ⅲ区
14	土器器 杯	(17.8) - <4.4>	内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ→横位ミガキ	口縁部1/5残存 2.5Y R5/0(にぶい赤)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。 内外面黑色処理か?	Ⅲ区
15	土器器 杯	13.7 - 5.2	内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・体部ヘラケズリ→わずかに横位ミガキ	変形 5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・白色 粒子・黒色粒子を含む。	
16	土器器 杯	14.4 - 5.6	内 横位ミガキ 外 ハケナデ・底部ヘラナデ	口縁部約1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の黒色粒子・赤色 粒子を含む。	IV区
17	土器器 杯	(15.0) - <4.7>	内 横位ミガキ→黑色処理 外 縱横部横ナデ→黑色処理	III縁部1/4残存 10Y R3/1(黒褐)	赤色粒子・白色粒子を含む。 単色土器。 缺番。	II区・III区・ 6&8G候出
18	土器器 杯	9.6 - 11.1	内 口縫部横ナデ→頭部ヘラナデ・頸部 部分的にヘラナデ→わずかにミガキ 外 口縫部横ナデ→頭部ヘラケズリ→頭部・ 底部ミガキ	LII縁部1/2残存・底部ほぼ完形 5Y R8/4(透青)	黒色粒子を含む。	Ⅲ区
19	土器器 杯	(12.6) 8.4	内 LII縫部横ナデ→頭部横位ヘラナデ 外 口縫部横ナデ→頭部横位ヘラケズリ	口縫部1/2残存 5Y R6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を少量含む。	I区・ I区候方
20	土器器 杯	- 8.0 <8.1>	内 横位ナデ ナデ	底部完形 7.5Y R6/4(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子を含む。	不明
21	土器器 杯	- 5.5 <5.6>	内 ヘラナデ→わずかにミガキ ナデ(底形)・ミガキ	底部完形 5Y R5/0(にぶい赤)	赤色粒子・黒色粒子含む。	I区
22	土器器 杯	- 8.2 <8.3>	内 ナデ 外 頭部・底部ヘラケズリ	底部ほぼ完形 2.5Y R6/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子・砂粒 を含む。	I区
23	土器器 杯	(18.1) 8.0 14.2	内 口縫部横ナデ→頭部横位ヘラナデ→ミ ガキ 外 口縫部横ナデ・頸部・ラケズリ→頭 部・底部ヘラケズリ	底部完形 5Y R6/4(にぶい橙)	1mm~2mmの赤色粒子を 多く含む。	Ⅲ区
24	土器器 杯	(13.1) 5.7 14.8	内 口縫部横ナデ→頭部横位ヘラナデ 外 頭部・底部ナデ→口縫部横ナデ	LII縁部1/4残存 5Y R6/3(にぶい橙)	1mmの白色粒子を少量、 2mmの黒色粒子を少許含む。	IV区
25	土器器 蓋	(17.5) (6.8) 21.3	内 口縫部横ナデ→頭部～底部横位ナデ 外 頭部横位→ラケズリ・底部ヘラケズリ→ 口縫部横ナデ	底部1/2残存 5Y R5/2(灰褐)	1mm以下の白色粒子を含む。 2mm以下の小石を含む。	Ⅲ区・Ⅳ区
26	弥生土器 高杯	- - <4.6>	内 高杯部 赤色底彩・脚部 ハラケズリ 外 ミガキ	脚部破片 7.5Y R7/2(明褐灰)	1mm以下の白色粒子・黑色 粒子を少量含む。 高杯を二次利用した器台	IV区
27	弥生土器 瓶	- 8.1 <7.7>	内 ハケナデ→ミガキ 外 ハケナデ・ミガキ	底部完形 10Y R2/2(灰白)	1mm以下の白色粒子を含む。	IV区
28	上器器 高杯	- (9.2) <7.3>	内 高杯部ミガキがみられる 脚部ミガキ・柱状脚ヘラナデ→ミガキ 外 脚部ミガキ・柱状脚ヘラナデ→ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R7/5(橙)	1mmの白色粒子を含む。や や發黒。 脚付部底滅。重みあり。	IV区
29	須恵器 円盤	8.2 7.5 0.6	内 ナデ 外 カキ目	完形 N60(灰)	從瓶利用?	Ⅲ区
30	弥生土器 台付甕	- 5.0 <4.3>	内 高杯部ミガキ・台部ヘラケズリ 外 腹位ミガキ	I/3残存 2.5Y R7/4(淡赤)	1mm以下の白色粒子・黑色 粒子を含む。	H59候出
31	弥生土器 台付甕	(7.2) - <4.3>	内 高杯部ミガキ・台部ヘラケズリ→横部横ナデ 外 ナデ・腹位ミガキ	底部3/4残存 5Y R8/1(淡紫)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	IV区・カマド
32	弥生土器 台付甕	- (6.0) <4.4>	内 高杯部ミガキ・台部ヘラケズリ→横部横ナデ 外 ナデ・腹位ミガキ	底部約1/2残存 7.5Y R7/3(にぶい橙)	1mm以下の白色粒子を少量 含む。	IV区
33	土器器 蓋	17.8 <21.1>	内 脚部横位→ラナデ→口縫部横ナデ 外 頭部ナデ・脚下半に横ミガキ→口縫部 横ナデ	口縫部完形 10Y R8/5(浅黄褐)・7.5Y R6/3 (にぶい橙)	赤色粒子・白色粒子含む。 きめ細かい。	I区・Ⅲ区

34	土師器 丸胴甌	15.3 7.3 33.6	内 外 口縁部横ナデ→胴部～底部ヘラナデ 胴部横ナデ→口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部、底部一部欠損 10Y R8/3(底貴賤)	赤色粒子・白色粒子含む。 構造されている。	I区・II区・ III区・IV区
35	土師器 丸胴甌	(8.0) <1.0>	内 外 横位ミガキ ナデ→横位ミガキ→底部ヘラケズリ	底部1/3残存 10Y R7/3(に赤い模)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子を少量含む。	II区
36	土師器 丸胴甌	- 9.4 <5.5>	内 外 ナデ ミガキ(しかし薄削していて、単位つか め)→底部ヘラナデ	底部完形 7.5Y R5/3(に赤い模)	白色粒子・黑色粒子含む。	IV区
37	土師器 丸胴甌	(19.9) <10.1>	内 外 口縁部横ナデ→横位ミガキ 胴部横ナデ→横位ミガキ 胴部ナデ→横位ミガキ	I1脚部1/2残存 10Y R8/2(底白)	1mmの白色粒子を多量含む。	IV区
38	土師器 丸胴甌	23.5 9.2 31.3	内 外 口縁部横ナデ→胴部ハケ状工具によ るナデ 口縁部横ナデ→胴部縱びヘラケズリ・底 部ヘラケズリ・胴部特殊なミガキ	口縁部、底部はほぼ完形 5Y R6/4(に赤い模)	赤色粒子・白色粒子・黒色粒 子含む。 詰め口あり。	II区・ 82.8G検出
39	土師器 丸胴甌	- 9.5 <5.1>	内 外 ハケナデ ナデ→ミガキ・底部ヘラナデ	底部3/4残存 5Y R6/6(に赤い模)	1mm以下の白色粒子を少 量含む。 観察。	II区・III区・ IV区検出
40	土師器 甌	19.9 4.5 30.3	内 外 口縁部横ナデ→胴～底部(へラ?)ナデ 口縁部横ナデ→胴部縱びヘラケズリ・底 部ヘラケズリ	底部完形 I1脚部1/2残存 5Y R6/3(に赤い模)	2~3mmの小石を多量に含 む。	I区・II区
41	土師器 甌	(18.3) <19.6>	内 外 胴部横位ヘラナデ→口縫横後ナデ 口縫部横ナデ→胴部縱位ヘラケズリ	口縫部1/2残存 5Y R6/3(に赤い模)	1mm以下の白色粒子・黑色 粒子を少量含む。 胴部ススが厚く付着する。	II区・II区
42	土師器 甌	- 5.2 <12.7>	内 外 ヘラナデ 横位ミガキ→ヘラケズリ→胴下半横位ヘラ ケズリ・底部ヘラケズリ	底部完形 7.5Y R3/2(底黒) 7.5Y R3/1(底黒)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	不明
43	土師器 甌	- 6.3 <30.3>	内 外 ハケナデ(横位) 底部ハケナデ(横位)→口縫部(底部)横 ナデ	底部3/4残存 10R6/3(に赤い模)	小石を含む。 外面にススが厚く付着する。 詰みが大きい。	I区・II区・ カマド

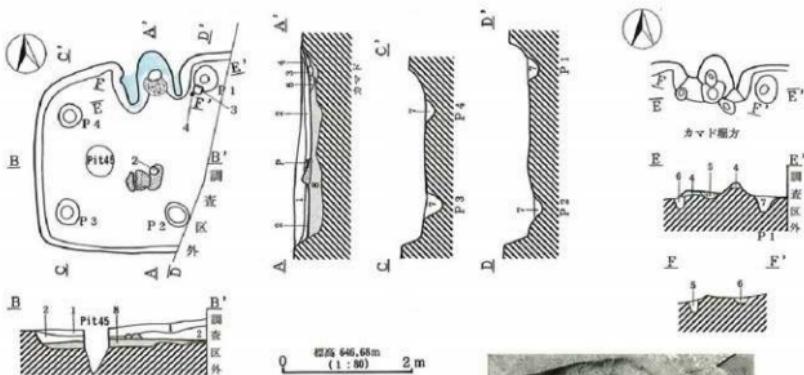
## 26) H 28号住居址 (第45図、第25表、図版十九・五十二)

6 い8グリットにあり、東側は調査区域外で、調査できなかった。単独ピットP45に切られる。南北272cm、深さ28cmを測る。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-4°-Wである。カマドは袖と焼土範囲が残り、袖は地山を掘り残して、粘土を貼っている。主柱穴はP 1～P 4で径32~40cm、深さ16~28cmを測る。

掲載資料は土師器甌(1~4)、鉢(5)、小型丸底甌(6)がある。1・2の土師器甌は素縁で口縁部全体が内済し、内外面ミガキ調整、3・4は浅い丸底から外縁を持って口縁が長く外傾反する。内面はミガキ黒色処理。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第25表 H 28号住居址出土遺物・驚衣

番号	器種	法量	卓形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 甌	(11.3) 5.3	内 外 ミガキ ミガキ	底部1/2残存 5Y R5/1(に赤い模)	1mmの赤色粒子・黒色粒子、 1mm以下の白色粒子を含む。	II区・III区
2	土師器 甌	12.3 5.2	内 外 ミガキ ミガキ	ほぼ原形(内面摩滅) 5Y R7/3(に赤い模)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黑 色粒子を含む。	
3	土師器 甌	12.7 8.8 4.0	内 外 ミガキ→黒色處理 口縫部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縫部7.8、底部完形 内 N20(黒) 外 7.5Y R8/3(後背椎)	1mm以下の白色粒子を少 量含む。	
4	土師器 甌	(13.0) (8.6) <4.6>	内 外 横位ミガキ→黒色處理 口縫部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縫部1/4残存 内 N5Y2/1(オリーブ黒) 外 5Y R7/4(に赤い模)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	I区
5	土師器 鉢	(13.6) <5.1>	内 外 胴部ナデ→口縫部横ナデ→黒色處理 胴部ヘラケズリ→口縫部横ナデ	口縫部1/4残存 内 N20(黒) 外 5Y R6/4(に赤い模)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を少量含む。	II区・III区・ カマド
6	土師器 小型甌	(11.0) <4.5>	内 外 ミガキ ミガキ	底部1/5残存 5Y R7/4(に赤い模)	1mm以下の白色粒子を少 量含む。	II区



H 28 土層剖面

- 灰黃褐色土層(HOYR42) 淡黃褐色(HOYR64)のローム粒子を少し含む。
- 灰黃褐色土層(HOYR42) 淡黃褐色(HOYR64)のローム粒子を多く含む。
- 黒褐色土層(HOYR32) 粘土粒子を含む。
- 褐灰色土層(HOYR54) 黏質土。(カマド構築土)
- 明赤褐色土層(SYRK58) 粘土。
- 黒褐色土層(HOYR32) 粘土粒子を含む。
- 褐褐色土層(HOYR56) 黏土と白い粒子・バミス・炭化物を少し含む。
- 淡黃褐色土層(HOYR64) 砂粒と黒褐色土(HOYR32)の混在土層。(組方)



H 28号住居址(東より)



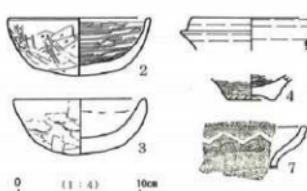
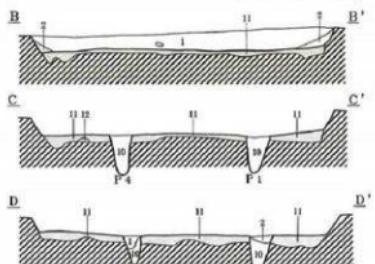
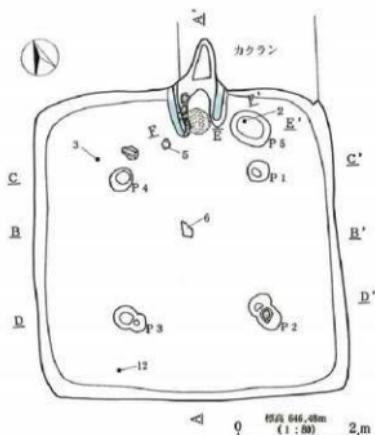
第45図 H 28号住居址

第26表 H 29号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 体	(9.5) — <2.6	内 ロクロナデ 外 ロクロナデ	一部分のみ残存 N50(灰)	1mm以下の白色粒子を少量含む。	II区1号
2	土師器 体	11.6 — 4.7	内 口縁部横ナデ・みこみ部へラナデ→瓶位 外 口縁部横ナデ→体部→底部ケズリ→粗 いミガキ	底部完形(外面摩滅) 5Y R7/3(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子・赤色粒 子を含む。	
3	土師器 杯 (手程)	(10.8) — 4.5	内 ナデ 外 体部ナデ・底部ハナナデ	口縁部L2・底部完形 5Y R7/2(にぶい黄)	白色粒子含む。(大粒)	
4	土師器 蓋? (ミガキ蓋)	— (4.0) — <1.3	内 ミガキ 外 ミガキ	底部L2残存 7.5Y R6/3(浅黄)	1mm以下の白色粒子を少量含 む。	II区2号
5	土師器 蓋	(21.2) — <1.3>	内 口縁部横ナデ→胴部撥筋へラナデ 外 口縁部横ナデ→胴部撥筋へラケズリ	L1縁部L4残存 10Y R8/2(灰白)	1mmの白色粒子・赤色粒 子を少量含む。 小石を含む。鉢蓋。	II区1号・ III区
6	土師器 蓋	(6.0) — <31.3>	内 瓶位へラナデ 斜位へラケズリ	底部一部残存 2.5Y R6/2(灰赤)	3mm~5mmの小石を多く含む。	III区

## 27) H 29 号住居址 (第46・47図、第26表、図版二十・五十二)

6か4グリットにあり、弥生時代のH51・53とH60を切る。南北473cm、東西464cm の方形を呈す。北側上面に搅乱が一部あった。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-17°-Eを測る。カマドは内側に河原石を立てて芯材にし粘土を貼ったものである。主柱穴はP 1～P 4で円形ないし、ひょうたん型を呈し、短径36cm、深さ48～68cm を測る。北東のカマド脇には梢円形の長径68cm、深さ16cm を測る浅いビットがある。

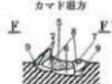
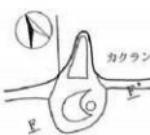


H 29 土層説明

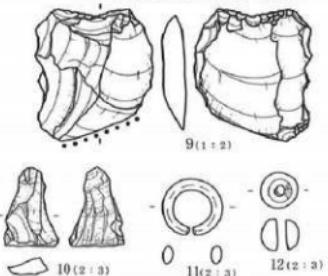
1. 黒褐色土層(HYR21) シルト粘土・洪化物を含む。
2. 黒褐色土層(HYR22) シルトブロック・砂を含む。
3. にじみ青褐色土層(SYR24) 硫土ブロック・粘土粘土・洪化物を含む。
4. 黑褐色土層(SYR25) 硫土ブロック・洪化物を少量含む。
5. 黑褐色土層(SYR26) 硫土粘土を地盤に含む。洪化物粘土を含む。(大粒による強度上昇)
6. 黑褐色土層(HYR27) 硫土ブロックを含む。(カット壁面)
7. 深褐色土層(HYR28) カマド粘土(カット壁面)
8. 鮎赤褐色土層(SYR29) 硫土ブロック・ローム粘土(砂)を含む。(カット壁面)
9. にじみ青褐色土層(HYR34) 砂粒子を多量に含む。(ビット)
10. 黑褐色土層(HYR35) 洪化物(HYR36) 粘土含む。
11. 黑褐色土層(HYR37) 黄褐色(HYR38) シルト粘土・洪化物シルト質粘土を含む。(壁面土)
12. 黄褐色土層(HYR39) シルト質土。



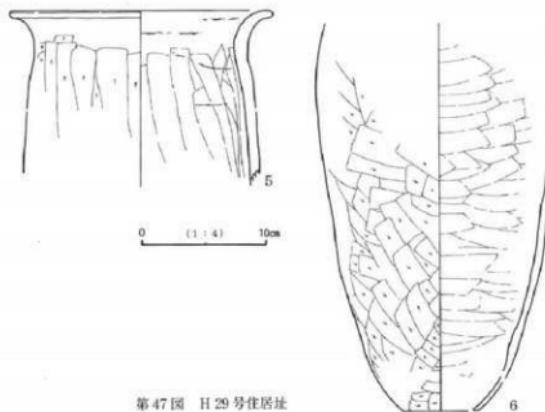
H 29号住居址（南より）



H 29号住居址遺物出土状況（南より）



第46図 H 28号住居址

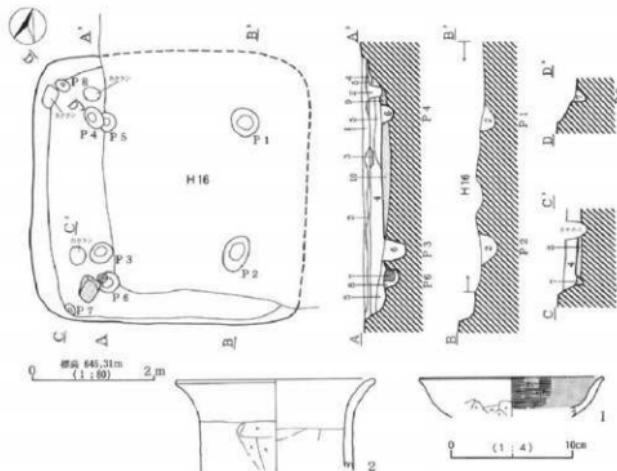


第47図 H29号住居址

## 28) H30号住居址 (第48図、図版二十一・五十二)

7お1グリットにあり、H16に切られ、H40を切る。南北400cm、東西は推定で390cmの方形を呈す。大半をH16に切られ、カマドは検出されていないが北側セクション面付近に焼土がみられた。P1～P4が柱穴で、径36～48cm、深さ20～36cmを測る。P3・P4からやや位置をずらしてP5・P6が雁方で検出されたが、旧ビットであろう。

掲載遺物は土師器杯(1)・甕(2)がある。いずれも破片で、良好な資料ではないが、長胴甕、丸胴甕片、弥生式土器がある。土師器杯は丸底から緩慢な腰を持って、わずかに外傾外反する。内外面ミガキ処理される。長胴甕は小破片で不明確だが最大径を口縁に持つ様である。古墳時代後期と推測される。



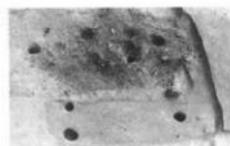
第48図 H30号住居址

掲載資料は須恵器杯身(1)・土師器杯(2・3)・長胴甕(5・6)・ミガキ甕(4)、青銅製金環(11)、黒色のシルト岩製丸玉(12)、黒耀石の洞片(8・10)、ガラス質黒色安山岩の剥片石器(9)がある。1の須恵器杯身は小片で、器形は明らかではないが、立ち上がりの口縁端部は丸く内傾し短い。T217号窓型式の形態であり、7C前半中葉の時期が与えられている。2の土師器杯は素縁でミガキ調整、3は成形されず、手捏状である。6の甕は口縁部欠損しているが、武藏甕である。

これらは古墳時代後期の土器群であろう。

## H30号住居址

1. にじみ黄褐色土層(H0YR54)  
泥・土土・焼化物含む。
2. 灰褐色土層(H0YR42)  
にじみ黄褐色(H0YR40)砂粒を含む。
3. 増殖色土層(H0YR40)  
胎土が薄くあり、あまり緻まりなし。
4. 黑褐色土層(H0YR42)  
胎土・粘土を含む。
5. 増殖色土層(H0YR33)  
地山にじみ黄褐色(H0YR40)粒子を含む。
6. 増殖色土層(H0YR23)  
砂質土。
7. 黑褐色土層(H0YR23)
8. 増殖色土層(H0YR33)
9. 明赤褐色土層(H0YR55)  
地土層。
10. 黑褐色土層(H0YR22)



H30号住居址 (西より)

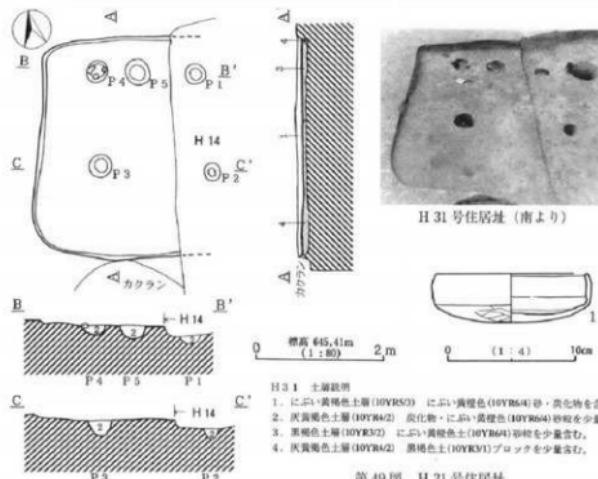
第27表 H 30号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	底形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(15.2) — <1.2>	内 横位ミガキ→黑色処理 外 口縁部横ナデ→体部グリ	口縁部16残存 5Y R 3/1(黒帯) 外 7.5Y R 6/2(灰褐色)	1mmの白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子含む。	東
2	土師器 甕	(16.6) — <1.6>	内 脇部ヘラナデ→口縁部横ナデ 脇部ケズリ→口縁部横ナデ	口縁部16残存 7.5Y R 7/4(灰褐色)	緻密。 1mmの白色粒子・黒色粒子 含む。	西

## 29) H 31号住居址 (第49図、第28表、図版二十一・五十二)

7お2グリットにあり、H14に切られ、H40を切る。南北326cmで東西はわからない。深さ14cmと浅い。カマドは検出されていない。柱穴はP1～P4が主柱穴かと推測される。

実測資料は土師器杯（1）1点である。破片にはハケ目の甕、長胴壺胴部片、内面黑色処理鉢片など20点がある。1の土師器杯は須恵器杯蓋の模倣で、口縁部は扁平な底部から外縁を持って内傾気味に直立する。古墳時代後期の土器である。



第49図 H 31号住居址

第28表 H 31号住居址出土遺物一覧表

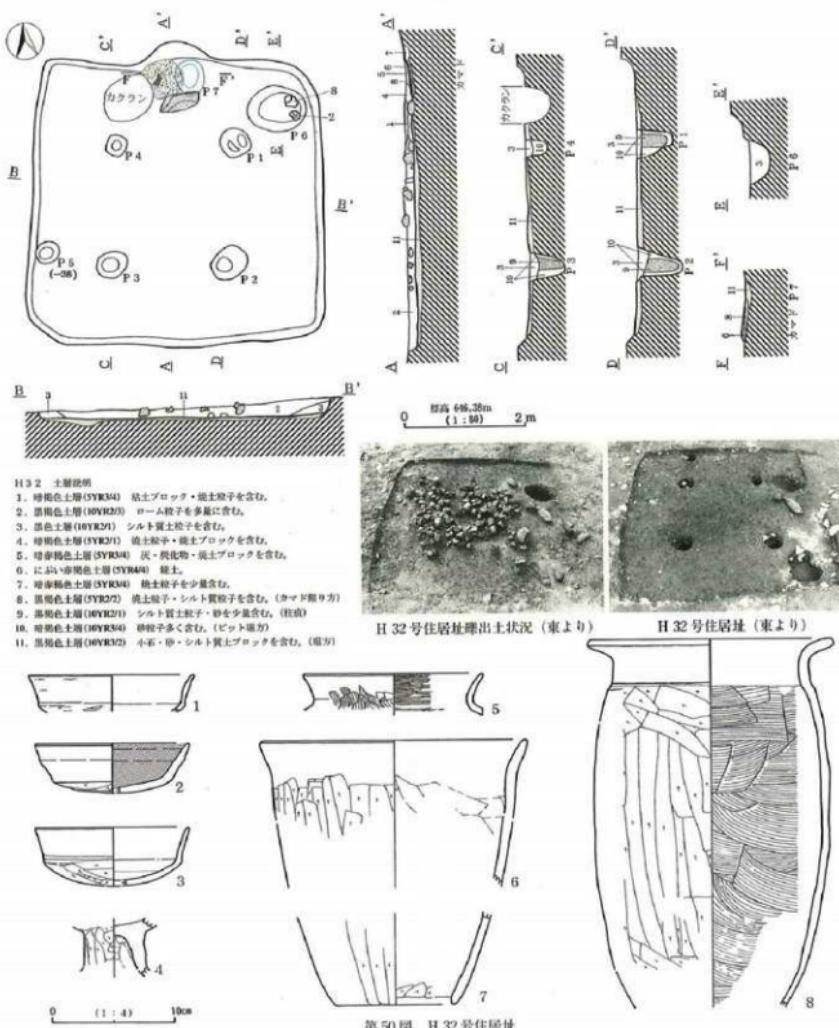
番号	器種	法量	底形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(11.8) (12.0) 3.8	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 外 底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部16残存 5Y R 5/2(灰褐色)・2.5Y R 7/4 (淡赤色)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子 をわずか含む。	東

## 30) H 32号住居址 (第50図、第29表、図版二十一・五十三)

6く6グリットにあり、南北427cm、東西452cm、壁残高25cmの方形を呈す。カマドは北壁中央にあり。N-7°-Eを指す。カマドは火床と、落下した焚口の框石が残っていた。覆土中からは多量の甕が出土している。主柱穴はP1～P4が検出され、円形ないし梢円形を呈し、短径36～48cm 深さ36～78cmを測る。住居址北東には上面に甕と甕が置かれたP6があり、梢円を呈し、長径50cm、深さ32cmを測る。

掲載遺物は土師杯（1～3）・高杯（4）・瓶（6・7）・小型甕（5）・長胴甕（8）がある。1と3は橙色杯

で、粉末質土の薄手タイプ、2は厚手、扁平に近い浅い丸底底部から口縁は外側を持って外傾、中位に段を持っている。内面ミガキ黒色処理される。3の長胴甕は口縁部に最大径を持ち腹部外面は縦にヘラケズリされる。古墳時代後期の土器群であろう。



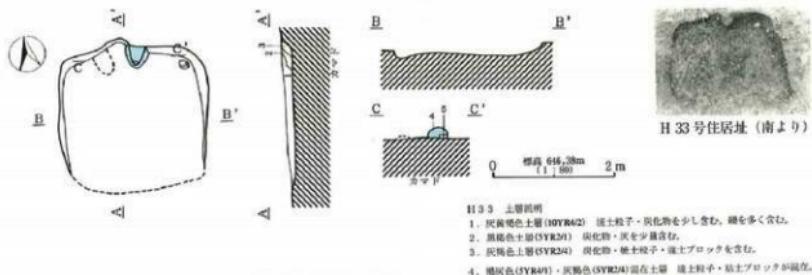
第29表 H32号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(13.6) (12.0) <3.0>	内 構ナデ 外 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存 2.5Y R7A(淡赤橙)	緻密。	IV区
2	土師器 杯	12.6 9.8 4.0	内 口縁部横ナデ→ミガキ・黑色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存(摩滅) 内 10Y R4A(褐灰) 外 10Y R7A(灰白)	赤色粒子多量含む。	I区
3	土師器 杯	(12.6) (11.2) 4.8	内 みこみ部ナデ→口縁部横ナデ 底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 2.5Y R7A(淡赤橙)	緻密。	検出
4	土師器 高杯	— <4.6>	内 ヘラナデ→傾位ヘラナデ→部分的に、張 位位ヘラナデ→傾位ヘラケズリ	脚部のみ残存 5Y R8G(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・黑色粒子を含む。	I区
5	土師器 小型甌	(14.8) <3.4>	内 口縁部横ナデ・ガキ・胸腹ナデ 外 口縁部横ナデ・頭部ヘハケナデ	口縁部1/5残存 10Y R4A(褐灰)	1mm以下の黑色粒子・白色粒子を含む。 緻密。	検出
6	土師器 甌	(12.0) <11.5>	内 口縁部横ナデ・胸腹ヘラナデ 外 口縁部横ナデ・頭部底位ヘラケズリ	口縁部2/3残存 5Y R8G(淡橙)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。 2mm以下と同一側。	カマド III区
7	土師器 甌	(9.8) <7.4>	内 ナデ→底部周縁ヘラケズリ 外 傾位ヘラケズリ	底部L6残存 5Y R8G(淡橙)	2mm以下の赤色粒子・黑色粒子、1mm以下の白色粒子を含む。 2mmと同一側。	カマド
8	土師器 甌	(20.2) <30.1>	内 胸部横位ヘハナデ→口縁部横ナデ 外 胸部横位および傾位ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 5Y R5G(灰白)	1mm以下の白色粒子、1~2mmの赤色粒子を含む。	I区

## 31) H33号住居址 (第51図、図版二十二)

6き9グリットにあり、小型の住居で、南北228cm、東西227cm、壁残高23cmの方形を呈す。北壁中央にカマドがあり、主軸方位はN-10°-Eを指す。柱穴等は検出されていない。

出土遺物はいずれも破片で、土師器・弥生式土器がある。土師器杯は丸底、素縁で内外面ミガキがある。丸胴甌片は大型品で外面胸部ヘラケズリ後ミガキ調整される。実測資料はない。破片は古墳時代後期のものである。



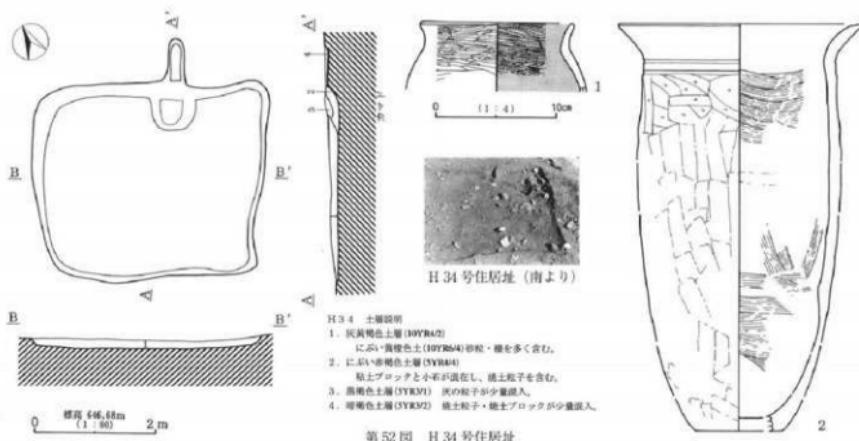
第51図 H33号住居址

- H33号住居址 (南より)
- H33号土器図説
- 灰黄褐色土器 (50YR4/2) 粘土粒子・炭化物を少し含む。細く多く含む。
  - 黒褐色土器 (5YR2/0) 炭化物・灰を少く含む。
  - 米褐色土器 (5YR2/4) 炭化物・灰土粒子・粘土ブロックを含む。
  - 湖灰色 (5YR4/0)・灰褐色 (5YR2/4) 帯在土器 粘土粒子・粘土ブロックが混入。
  - 黒褐色土器 (5YR3/0) 粘土粒子混入。

## 32) H34号住居址 (第52図、第30表、図版二十二・五十三)

6え9グリットにあり、F13を切る。南北291cm、東西352cmと東西に長い長方形を呈する。カマドは北壁中央にある。ピットは検出されていない。

掲載資料には土師器鉢（1）、長胴甌（2）がある。鉢は内面ミガキ黑色処理、外面ミガキの亮彩の鉢である。2の長胴甌は口縁部に最大径を持ち、底部径が比較的大きい。胴部外面はヘラケズリされる。これらは古墳時代後期の土器群であろうか。



第52図 H 34号住居址

第30表 H 34号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 鉢	(12.8) <5.6>	内 ミガキ→黒色処理 外 ミガキ	口縁部1/2残存 内 N20(黒) 外 7.5YR8/3(浅緑)	鉄画。	検出
2	土師器 甕	(20.0) (7.0) <23.5>	内 口縁部横ナデ→胴→底部ハケ状工具によるナデ 外 口縁部横ナデ→胴部・底部ナデ→胴上半 ヘラクズリ	口縁部1/2、底部1/3残存 7.5YR5/2(灰緑)	口縁部に2条のヘラカス模様 鉄画。	I区・検出

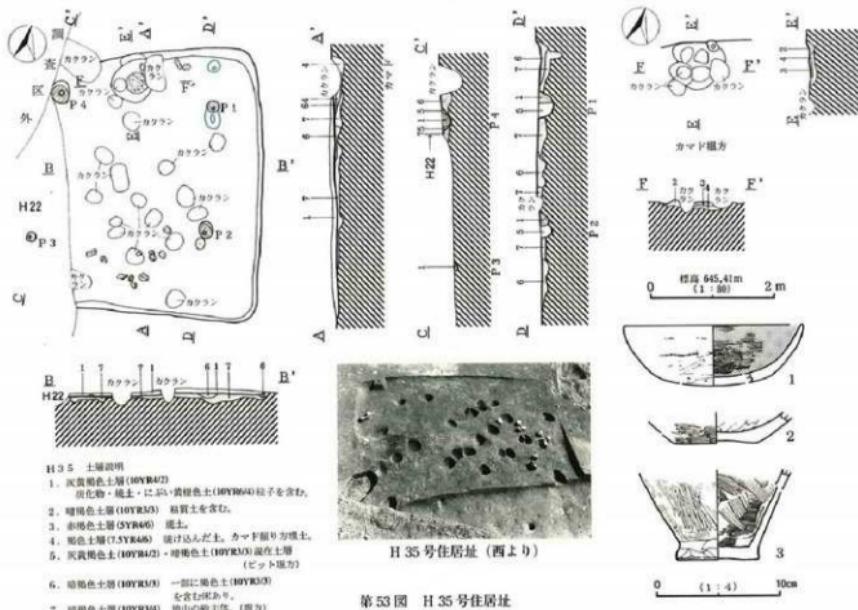
## 33) H 35号住居址 (第33図、第31表、図版二十二・五十三)

7き1グリットにあり、古墳時代のH22に切られ、古墳時代のH40・弥生時代のH42・M3を切る。南北405cm、H22に切られ東西はわからない。深さは11cmと浅い。カマドは北壁にあり、主軸方位はN-13°-Wを指す。遺構面は浅いピット状の擾乱が多くあった。主柱穴はP1-P4であろうが、いずれも浅い。

掲載遺物は土師器杯(1)、弥生式土器(2・3)である。1の土師器杯の口縁は素縁で、全体に内済外傾し、内面ミガキ黒色処理される。土師器被片数は23点と少ない。弥生式土器の赤色塗彩された、杯なし鉢片が割り多く混入している。

第31表 H 35号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.6) — <4.65>	内 ミガキ→黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラカズリ→体部ナデ ミガキ	口縁部1/6残存 内 N20(黒) 外 7.5YR7/3(にせい緑)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を多く含む。	II区
2	弥生式土器 甕	— 6.6 <2.4>	内 ナデ 外 ミガキ	底部3/4残存 7.5YR6/3(にせい緑)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	I区端方
3	弥生式土器 甕	— 6.7 <7.2>	内 ハケ状工具によるナデ 外 ハケ状工具によるナデ→部分的にミガキ	底部完形 7.5YR7/3(にせい緑)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	I区・I区端方



第53図 H35号住居址

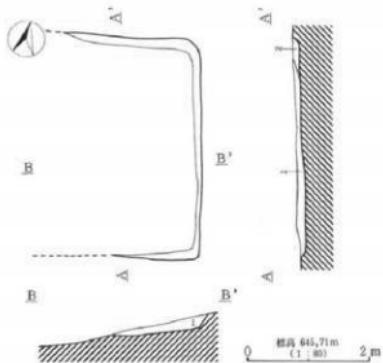
## 34) H36号住居址 (第54図、第37表、図版二十二・五十三)

7あ6グリットにあり、傾斜地のために、西側はなかった。南北334cm、深さ0~30cmを測る。方形基調の形態であろうか。カマド・柱穴は検出されていない。主軸方位はN-14°-Wを測る。

掲載遺物は土師器鉢(1)で、内面ナデ黒色処理、外面胴部はヘラケズリされる。他に土器破片では、古墳時代後期の土師器杯・長胴壺片、弥生式土器片がある。1点だけ平安時代の鍋甕に近い破片がある。口縁端部が短く外方に折れ、厚手の破片である。実測された鉢は古墳時代後期のもので、破片も古墳時代後期のものが32片中24片を占めている。

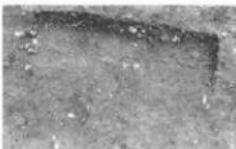
第37表 H36号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法度	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 鉢	(13.8) (4.6) 7.8	内 ヘラナデ→口縁部横ナデ→黒色処理 外 胴部・底部ケズリとナデ→口縁部横ナデ	口縁部16枚存 内 N20(黒) 外 5YR5/2(灰黒)・10YR6/6(赤)	赤色粒子・1mm以下の白色粒子含む	I区

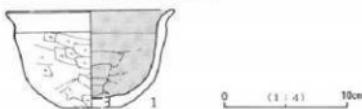


第54図 H36号住居址

H36号住居址  
1. 墓間古土壤(10YR3/4) ラーム粒子(砂)・礫を多量に含む。  
2. 墓赤褐色土層(10YR3/2) 粘土粒子を多量に含む。



H36号住居址 (西より)



## 35) H38号住居址 (第55・56・57図、第33表、国版二十三・五十三・五十四)

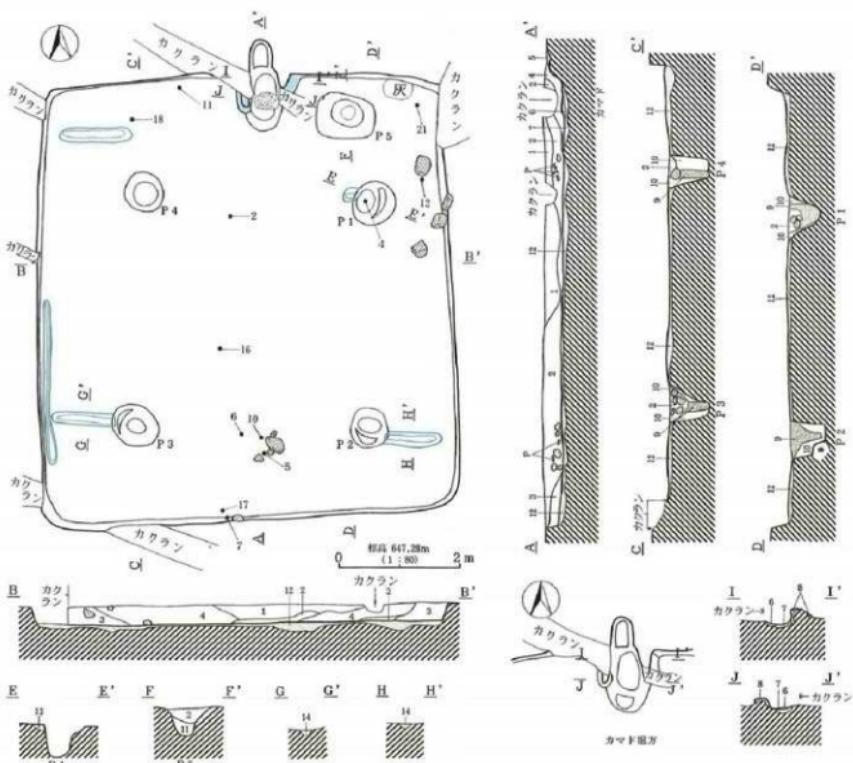
5け1グリットにあり、排水溝により搅乱され、カマドや壁の一部が壊されている。南北710cm、東西676cm、壁残高31cmの南北に長い方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、主軸方位はN-2°-Wを指す。主穴穴はP1-P4で円形で径68cm、深さ52-68cmを測る。いずれにも柱痕がみられた。カマドの東には隅丸長方形のピットがあり、直径96cm、深さ44cmを測る。間仕切り溝は壁からP2-P3へ、P4の北側と3ヵ所確認された。

掲載遺物は土師器杯(1-9・19)、高杯(18)、瓶(10-29)、鉢(11-14・16-17・21-22-24)、丸胴壺(23)、長胴壺(25-28)、弥生式土器(30-40)、黒曜石製石鏃(42)、安山岩製スリ石(44)、ガラス質黒色安山岩製剥片石器(43)がある。1の土師器杯は須恵器身舟模倣杯で器内が薄く精製品である。3の器形は模倣杯であるが分厚く内面はミガキ調整される。4-6-7は器高が比較的深く厚ぼったい作りで、丸底から口縁部は横ナデで暖味な棱を作り、口縁は外反気味である。内面はミガキ黒色処理される。8は浅い円底から下方に外縁を持って長く口縁を延ばし、内面ミガキ黒色処理、外縁ミガキ調整である。9は内外面ミガキであるが外縁は赤色塗彩された痕跡がある。長胴壺は口縁部の外反はそれほど強くなく、最大径が口縁・胴部ともにある。底部は厚く台状である。28は胴部ヘラケズリ後ミガキ調整される。これらの土器群は古墳時代後期のものであろう。

また弥生時代中期後半の土器が多く出土しており、掲載した。

第33表 H38号住居址出土遺物一覧表(1)

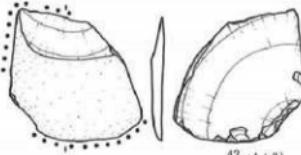
番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.1) 4.3	内 底部ケズリ・口縁部横ナデ	口縁部1/2残存(底部剥離) 5Y R8/4(淡緑)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子含む。小石含む。	III区
2	土師器杯	12.7 12.0 4.8	内 みごみナデ→口縁部横位ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	変形 7.5Y R8/3(浅黄緑)	赤色粒子を多量(1mm以下)、白色粒子を少量含む。外縁にスス付着。	
3	土師器杯	(14.2) - 4.4	内 ミガキ 口縁部横ナデ(工具使用)・底部ヘラケズリ	口縁部1/2残存 7.5Y R7/3(ひい酸)	厚手、鍛留。	I区
4	土師器杯	14.1 - 5.7	内 体部ナデ→口縁部横ナデ→ミガキ→黒色処理 外 体部ナデ→底部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/2は変形(内面摩滅) 内 N20(黒) 外 10R5/8(赤)	白色粒子・赤色粒子含む。	I区・P1、 I区最左、 H43
5	土師器杯	15.6 - 5.0	内 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	変形 7.5Y R8/3(浅黄緑)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子含む。	
6	土師器杯	13.8 - 5.6	内 ミガキ→黒色処理 口縁部横ナデ→底部ヘラケズリ・体部ナデ→ミガキ(わずかに)	口縁部2/3残存 内 N20(黒) 外 10Y R8/2(灰白)	白色粒子を多量含む。	



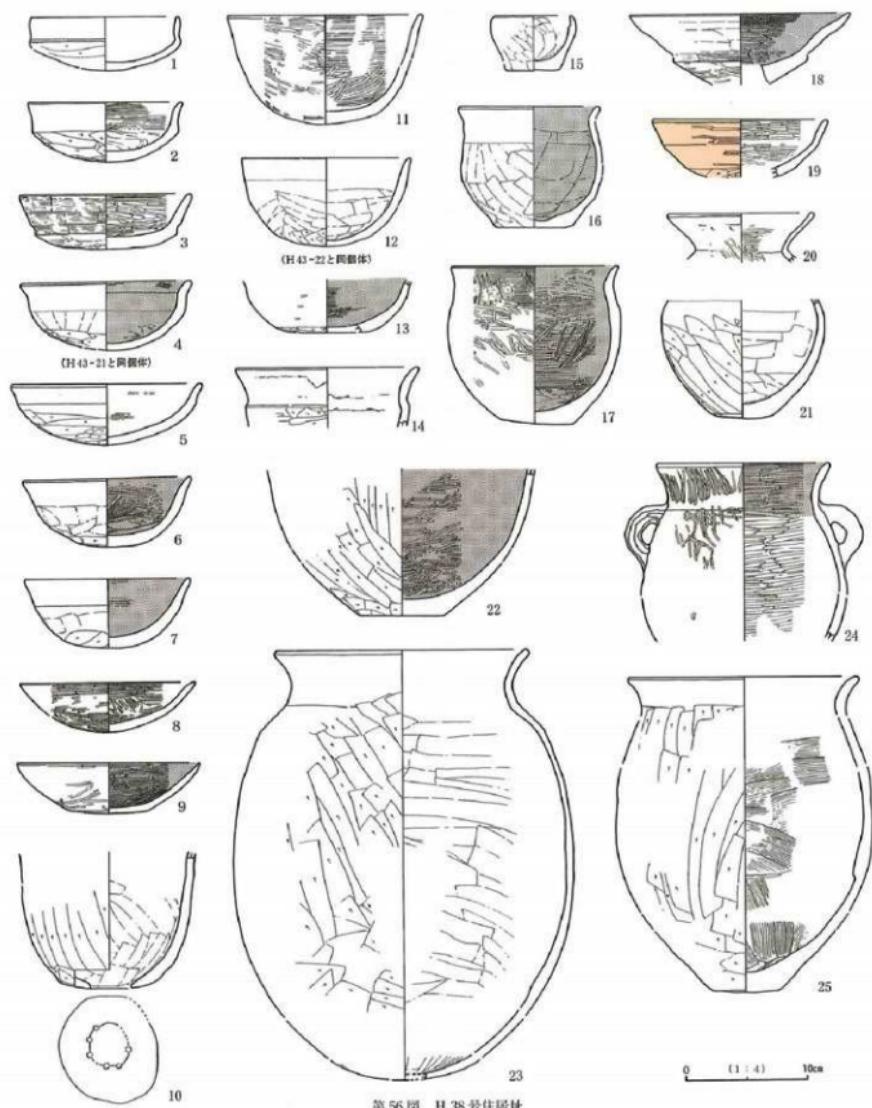
## H38 土居用

1. 黄褐色土層 (HYR642) に灰白色土層 (HYR641) が複数箇所に含む。
2. 黄褐色土層 (HYR642) ベースを少部分含む。
3. 黄褐色土層 (HYR642) 種の二段堆積。バッセを少部分含む。
4. 1層と同一。ニムイ黄褐色土層 (HYR640) が1層との境界に断続的に堆積する。
5. 黄褐色土層 (HYR642) 墓石ロック・粘土ロックを含む。
6. 明褐色土層 (SYR546) 粘土。
7. 明褐色土層 (SYR546) 粘土。
8. 明褐色土層 (SYR542) 粘土。内側に埋め物粘土色 (SYR540) を含む。
9. 明褐色土層 (HYR640) 灰土。
10. 深灰褐色・黄褐色 (HYR540) - 黑褐色 (HYR531) の混在土層。(ピット堆积)
11. 明褐色土層 (HYR531) 黄褐色 (HYR530) シルト質土粒子を少部分含む。(ピット堆积)
12. 黄褐色土層 (HYR644) 地山の砂砾・砂ブロックを多量に含む。(隕石)
13. 明褐色土層 (HYR630) 砂質土層。地山のブロックを多量に含む。(P1酒ピット)
14. 黑褐色土層 (HYR27) 砂質土層。地山の砂砾・石のブロックを含む。(隕石)

H 38 号住居址 (南より)



第55図 H 38 号住居址



第56図 H 38号住居址



第57图 H 38号住居址

第33表 H 38分住居跡出土沼物一覧表(2)

7	土器器 杯	(13.6) 5.6	内 ミガキ→黒色處理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズ リ	口縁部1/2残存 内 N20(黒) 外 7.5Y R5/1(灰黒)	赤色粒子・白色粒子含む。	
8	土器器 杯	(14.3) 4.0	内 ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/3残存 10Y R8/2(灰白)	微密。	Ⅳ区
9	土器器 杯	15.0 6.5 4.1	内 ミガキ→黒色處理 外 横ナデ・ミガキ	口縁部1/2残存、底部完形 内 N20(黒) 外 7.5Y R5/6(黒)	1mm以下の赤色粒子・白色粒 子を含む。	Ⅳ区
10	土器器 瓶	8.0 <11.1>	内 ヘラナデ ヘラケズリ	底部外周1/3充形 5Y R7/6(黒)	1mmの赤色粒子・1mm以下 の白色粒子を多量含む。多孔 から半孔に変こう。	Ⅲ区
11	土器器 杯	(16.1) 8.8	内 ミガキ ミガキ(錆なミガキ)	口縁部1/2残存 5Y R8/2(灰白)	微密。	カマド
12	土器器 杯	14.0 7.3	内 口縁部横ナデ→体部・底部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ・体部ヘラナデ・底部ヘ ラケズリ	口縁部完形 5Y R7/4(にぶい黒)	1mm以下の白色粒子・黒色粒 子・赤色粒子を含む。	H43 Ⅳ区
13	土器器 瓶	8.6 <4.3>	内 ミガキ→黒色處理 ミガキが見られるが、単位つかめない。	底部1/3残存 内 N20(黒) 外 2.5Y R5/6(黒)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
14	土器器 鉢	(15.0) <4.9>	内 横ナデ 底部横ナデ→一部ミガキ・1/3部横ナ デ	口縁部1/6残存 7.5Y R4/2(灰黒)	1mm以下の白色粒子・白色粒 子・砂粒を含む。	Ⅳ区
15	土器器 杯 手付	(6.6) 4.4 4.5	内 (指痕)ナデ ナデ	底部1/4・1/3部・一部残存 10Y R8/1(灰白)	1mm以下の白色粒子・黒色粒 子含む。 微密。	Ⅱ区
16	土器器 鉢	11.7 6.4 9.8	内 口縁部横ナデ・胴部・底部ヘラナデ・湯 色處理 内 口縁部横ナデ・胴部ナデ・底部ヘラケズ リ	底部完形 内 N20(黒) 外 2.5Y R5/6(にぶい黒)	2mm以下の赤色粒子・1mm以 下の白色粒子を多く含む。	
17	土器器 鉢	13.8 6.0 12.8	内 口縁部横ナデ→ミガキ・墨色處理 外 口縁部横ナデ・胴部ナデ→ミガキ	口縁部・底部完形 内 N20(黒) 外 5Y R7/3(にぶい黒)	1mmの白色粒子・赤色粒子含 む。	
18	土器器 高付	(18.2) 5.7>	ミガキ→黒色處理 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→一部ミ ガキ	口縁部1/4残存 内 N20(黒) 外 10Y R7/4(にぶい黒)	1mm以下の赤色粒子・白色粒 子含む。	
19	土器器 鉢	(14.6) <4.7>	ミガキ 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ 赤色出物	口縁部1/4残存 7.5Y R5/1(にぶい黒)	1mm以下の白色粒子・赤色粒 子含む。 微密。	Ⅳ区
20	土器器 小鉢	12.2 <4.0>	内 口縁部横ナデ・胴部ハケメ→口縁部横ナ デ ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ハケメ	口縁部1/6残存 7.5Y R7/4(にぶい黒)	1mm以下の黒色粒子を含む。 微密。	Ⅲ区
21	土器器 鉢	— 5.0 <9.6>	横位ヘラナデ 口縁部横ナデ・胴部ハケメ	底部完形 2.5Y R6/4(にぶい黒)	1mm以下の赤色粒子・白色粒 子・黒色粒子を含む。	
22	土器器 鉢	(7.0) <11.0>	ミガキ→黒色處理 ヘラケズリ	底部1/2残存 内 N20(黒) 外 2.5Y R5/6(黒)	1mm~3mmの白色粒子を含む。	Ⅲ区
23	土器器 丸型壺	(21.0) 35.0	内 口縁部横ナデ→胴・底部横位ヘラナデ 底部横位ヘラナデ→胴・底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/2(灰黒)	1mmの赤色粒子・黒色粒子・1 mm以下の白色粒子含む。 検出	
24	土器器 鉢 (把手付)	14.4 <14.4>	内 横位ミガキ・黒色處理(口縁部のみか?) ミガキ	口縁部3/4残存 内 N20(黒) 外 5Y R8/3(灰黒)	白色粒子含む。	Ⅲ区・Ⅳ区
25	土器器 中型壺	(19.0) (5.3) 25.8	内 口縁部横ナデ→胴・底部ハケメ 口縁部横ナデ→胴・底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/3(にぶい黒)	1mmの白色粒子・赤色粒子含 む。	Ⅲ区
26	土器器 壺	17.1 6.2 33.1	内 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ・胴部・底部ヘラナデ	口縁部2/3残存、底部完形 2.5Y R7/6(黒)	1mm以下の白色粒子を含む。	Ⅲ区
27	土器器 壺	21.1 <24.0>	内 胴部ナデ→口縁部横ナデ 外 口縁部横ナデ・横位ヘラナデ	口縁部1/2残存 7.5Y R5/2(灰黒)	1mm以下の白色粒子・赤色粒 子を含む。 外壁に付着物あり。	Ⅲ区
28	土器器 壺	— 6.8 <7.8>	内 ヘラナデ ヘラケズリ・横位ミガキ	底部完形 5Y R5/4(にぶい赤黒)	1mmの白色粒子多量含む。 粒子粗い。	Ⅲ区
29	土器器 瓶	(27.6) <11.2>	ミガキ 口縁部横ナデ・胴部ヘラナデ	口縁部1/3残存 10Y R8/3(浅黄)	微密。	ⅣK

30	弥生土器 甕	16.5 <14.6>	内 口縁部ミガキ・頸部ハケナデ・腹上部ヘラナデ 外 口唇部横ナデ・口縁部横底ミガキ・頸部 底部ミガキ・頸部底付ミガキ 口縫部・腹部にLR縞文 口縫部ヘラ括山形文・腹部4条のヘラ縫 横走平行縞文	口縫部完形 7.5Y R6/1(浅黄緑)	ミガキは施文後。 微密。	I区・II区
31	弥生土器 甕	— 8.5 <5.6>	内 頸部～底部ハケナデ・頸部ナデ 外 口縫部・腹下部ハケナデ・頸部横底ミガ キ 文 罩部LR縞文・ヘラ縫斜文・ヘラ縫横 縫底中位しLR縞文・3条のヘラ縫横走平 行縞文・3条のヘラ縫波状文・3条 のヘラ縫走平行縞文・ヘラ縫端段 三角文	底部完形 10Y R6/2(灰白)・10Y R5/2 (灰黄緑)	1mm以下の白色粒子を含む。	II区
32	弥生土器 甕	— (8.2) <6.2>	内 ミガキ 外 横底ミガキ	底部1/2残存 7.5Y R6/1(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子を含む。 内外表にスス付着。	II区
33	弥生土器 甕	— 4.5 <1.1>	内 ナデ 外 ミガキ・赤色坐彩・底部ナデ	底部完形 10R4/6(赤色)	微密。	I区

## 36) H 40号住居址 (第58図、第34表、図版二十四・五十五)

7お1グリットにあり、H14・H15・H16・H30・H31・H35に切られ、H42を切る。重複が激しく、調査時は充分に把握できなかった。南北700cm、東西712cmの方形を呈し、壁残高は12cmの方形を呈す。カマドは北壁に焼土範囲が残っており、カマドと推測される。主軸方位はN-7°-Wを測る。主柱穴はP1-P4で径58-80cm、深さ58-80cmと規模が大きい。P2で柱痕が認められた。壁際には壁柱穴がある。

掲載遺物は須恵器杯蓋(1)、弥生式土器蓋(2)、蛭石製クリ石(3)がある。1の口縫端部は丸く、天井部との境に短い凸線がみられる。内外面ロクロ横ナデされ、天井部外面はヘラケズリされる。他に破片は小片が37点と少なく、土師器杯(56図2と同タイプ)・鉢(内面ミガキ黒色)・甕がある。須恵器杯蓋はMT15号窓型式と平行するものとみられ、6C前半中頃に位置づけられている。

第34表 H 40号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法蓋	成形・調整	残存状・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(14.2) — <3.6>	内 ロクロナア 外 ロクロナデ・天井部圓転ヘラケズリ	口縫部1/4残存 10Y7A(灰白)	精選されている。	P4 IV区1房
2	弥生土器 甕	(11.2) — <5.6>	内 横底ミガキ 外 横底ミガキ	底部1/4残存 10Y R7/2(に bei 黄緑)	内面黒色(黑色処理ではない) 鏡面。	

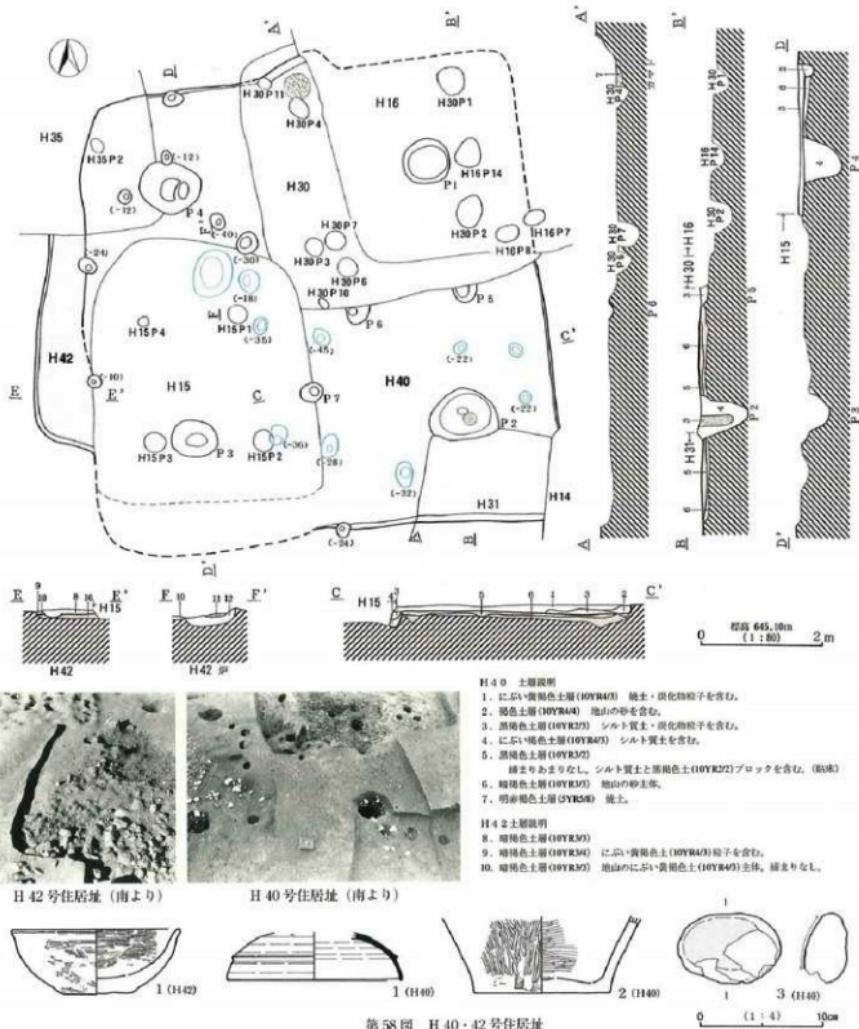
## 37) H 42号住居址 (第58図、第35表、図版二十四・五十五)

7き2グリットにあり、H15・H35・H40に切られ、南西端隅が残るだけである。深さ23cmを測る。規模・形態・主軸はわからない。

掲載遺物には土師器杯(1)がある。比較的大振りで厚みがあり、内面はミガキ調整される。外面はヘラナデ程度の綱目調整後、LI縫部が横ナデしわざかに外反させ、難なミガキをしている。他は土師器杯片2点があるのみである。これらは古墳時代後期の土器である。

第35表 H 42号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法蓋	成形・調整	残存状・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(13.7) (6.6) 5.2	内 ヘラミガキ 外 体部ナデ・LI縫部横ナデ→難なミガキ	口縫部3/4残存(内面網目) 7.5Y R6/4(に bei 黄緑)	1mmの白色粒子・小石含む。 微密。	南側



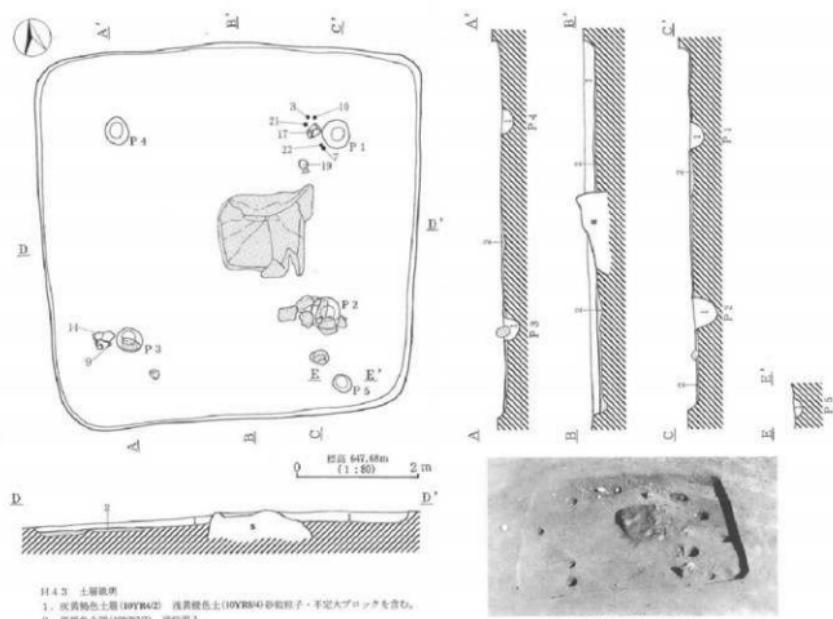
## 38) H 43 号住居址 (第59図、第36表、図版二十四・二十五・五十五)

5き1グリットにあり、F16を切る。南北594cm、東西604cm、壁残高23cmの方形を呈す。この住居址は中央に150×136cmの石が床面から突きだして突出されている。竪穴住居の中央に、大きな石がそのままある例をみたことがなく、一般的な住居址かどうかは判断に迷う。火爐は検出されていない。P 1～P 4の主柱穴が4木ある。円形で径40～48cm、深さ24～44cmを測る。

掘藏遺物には土師器杯(1～9)、椀ないし鉢(10)、鉢(11)、壺(13)、甕(12)、黒縁石の剥片(23・24)がある。土師器杯は6が橙色の須恵器の模倣杯。粉末質の胎土で内面ナデ調整される。1・2・4は内外面ミガキ、口縁部は外縫を持つ外反する。5は端正な作りで、浅く小さい底部が下方にあり、外縫を持つ口縁が長く外傾する。内面ミガキ黒色処理、外向ミガキ調整である。3・7～10は分厚く、調整も甘く難にヘラミガキされる。12は「くの字口縁甕」といわれる、外面にハケ日を残す甕口縁で、古墳時代前期の混入品であろう。長胴甕14は口縁部が強く外反し、17はわずかに外傾する。ともに口縁部に最大径を持つ。15は胴部ヘラナデ後ミガキ調整され、胴部に最大径がある。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第36表 H 43号住居址出土遺物一覧表(1)

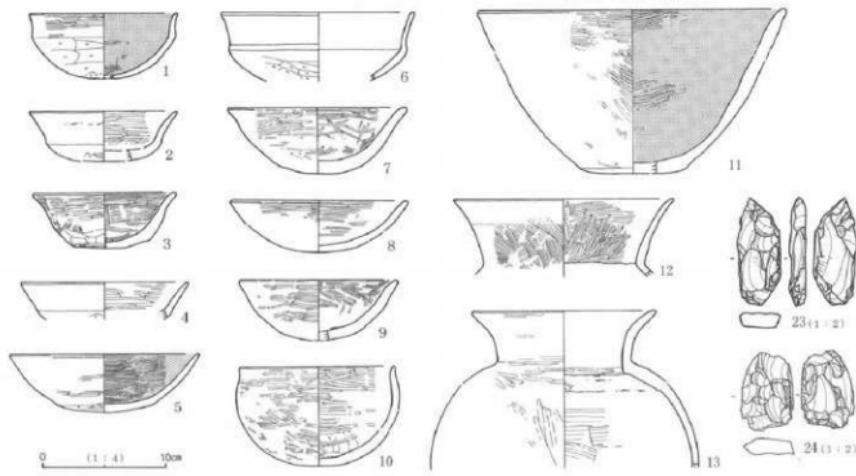
番号	器種	法量	底形・調査	残存・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器杯	(12.0) 5.3	内 ミガキ・黒色処理 外 口縁部ミガキ→底部ヘラケズリ	口縁部1/4残存(内外面摩耗) 内 5Y R7/4(浅赤) 外 10Y R6/3(浅黄赤)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む。	検出
2	土師器杯	(12.0) 4.0	内 横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/4(にぶい赤)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	III区
3	土師器杯	11.7 6.0 4.5	内 横位ナデ(ササラ状工具使用?)→横位ミ ガキ 外 底部・底部ヘラケズリ・口縁部横ナデ→横 位ミガキ	ほほ穴形 5Y R5/3(にぶい赤褐色)	1mm以下の白色粒子を多く含む。	
4	土師器杯	13.5 - 3.0	内 横ナデ→横位ミガキ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→ミガキ	口縁部1/4残存 10Y R8/3(浅黄赤)	1mm以下の赤色粒子・白色粒子を含む。	検出
5	土師器杯	(15.5) 7.8 4.7	内 横位ミガキ・黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ→口縁 部部分的に横位ミガキ	口縁部1/6残存 内 7.5Y R6/3-N2/0(にぶい 褐色) 外 7.5Y R6/4(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を含む。	検出
6	土師器杯	(15.8) - 5.6	内 横ナデ 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ	口縁部1/6残存 2.5Y R7/6(褐) 7.5Y R7/4(にぶい黄)	1mm以下の白色粒子・黒色粒子を少許含む。 胎土質粘土。 微細。	検出
7	土師器杯	14.6 5.3	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/4(にぶい褐)	白色粒子・黒色粒子を含む。	
8	土師器杯	(14.5) - 4.2	内 横位ミガキ 外 口縁部横ミガキ	口縁部3/4残存(外側磨耗) 10Y R5/3-S4(浅黄緑)	1mm以下の黒色粒子・白色粒子を含む。	I区
9	土師器杯	(13.0) - 4.9	内 ミガキ 外 ミガキ	口縁部1/3残存 10Y R5/6(赤) 5Y R5/6(赤褐色)	3mm以下の白色粒子・黒色粒子を多く含む。	II区
10	土師器杯	(12.7) - 5.0	内 ナデ→ミガキ 外 ヘラケズリ・口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/3残存(摩滅) 7.5Y R6/3(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・小石を含む。	
11	土師器鉢	(25.4) (16.5) 13.2	内 ミガキ→黒色無糊 外 口縁部横ナデ・削部と底部ヘラケズリ→ ミガキ	口縁部1/4残存 内 N2/0(黒) 外 10Y R7/3(にぶい黄緑)	2mm以下の白色粒子を含む。	III区
12	土師器甕	(18.0) - 5.3	内 口縁部・ハケメ→横位→斜位ミガキ・削部 ナデ 外 ハケメ→口縁上部横ナデ	口縁部1/6残存 7.5Y R6/3(にぶい褐) 10Y R7/3(にぶい黄緑)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子・黒色粒子を含む。	検出
13	土師器甕	(15.2) - <12.7>	内 口縁部横ナデ→わずかにミガキ・削部ナ デ 外 口縁部横ナデ→ミガキ	口縁部1/4残存 7.5Y R7/3(にぶい褐)	1mm以下の赤色粒子含む。	II区・検出
14	土師器甕	(20.3) 3.8 33.0	内 口縁部横ナデ→削部ナデ 外 口縁部横ナデ・横位ヘラケズリ	口縁部2/6残存 5Y R6/4(にぶい褐)	1mm以下の白色粒子・赤色粒子を含む。	II区
15	土師器甕	(17.4) - <19.6>	内 口縁部横ナデ・削部ヘラナデ 外 口縁部横ナデ・削部横位ヘラナデ→横 位ミガキ	口縁部1/4残存 2.5Y R6/4(にぶい褐)	赤色粒子・白色粒子・黒色粒子を含む。	IV区・検出
16	土師器甕	- 6.9 <9.9>	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	底面完形 2.5Y R6/3(にぶい褐)・2.5Y R 4/1(赤灰)	赤色粒子を含む。	I区・検出



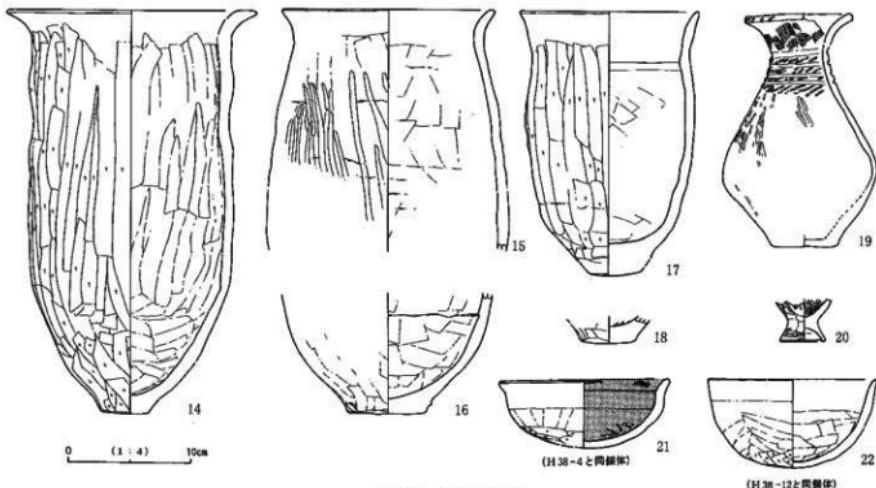
H 43 土器微痕

- 灰黄褐色土層(BYR4/2) 淡黃褐色土(10YR8/4) 砂細粒子・不定大ブロックを含む。
- 深褐色土層(10YR3/2) 滲透蓋入。

H 43号住居址（南より）



第59図 H 43号住居址



第60図 H43号住居址

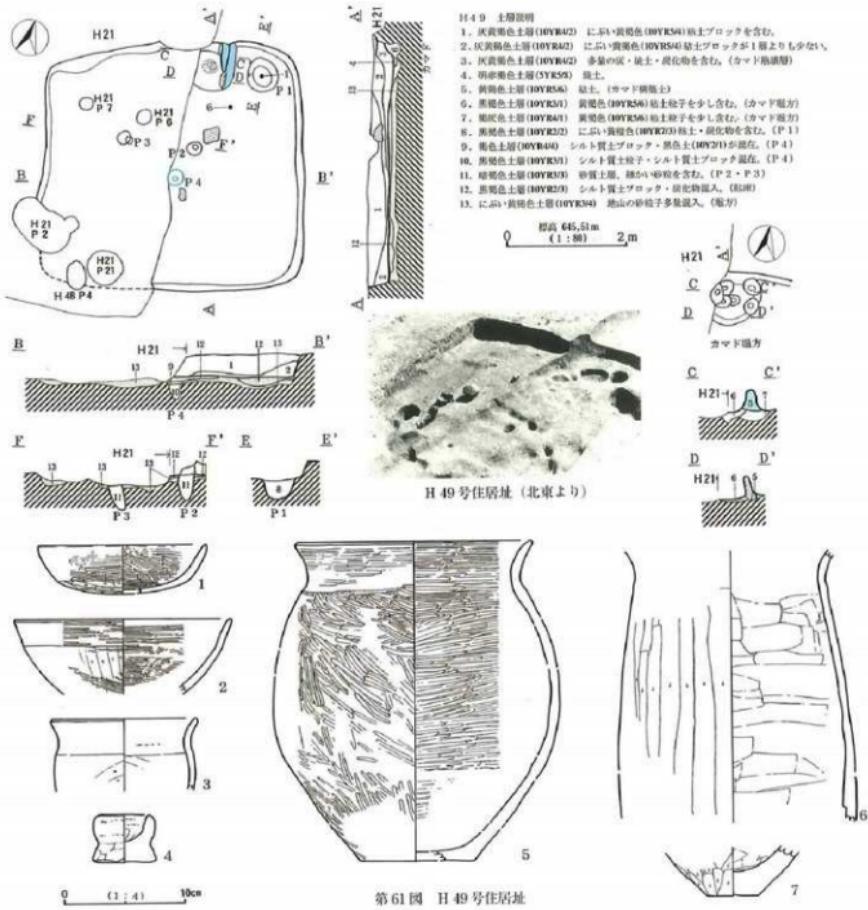
第36表 II 43号住居址出土遺物一覧表(2)

17	土師器 壺	14.7 4.3 21.5	内 外 側～底部へラテー→口縁部横ナデ 崩部、底部へラケツリ→口縁部横ナデ	口縁部2/3残存、底部完形 5Y R7/4(にせい型)	1mmの白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子を含む。	
18	土師器 壺	— 4.6 2.2	内 外 ナデ→一部ミガキ ナデ	底部完形 7.5Y R7/3(にせい型)	1mm以下の白色粒子・赤色粒 子を含む。	Ⅲ区
19	弥生土器 (小型)壺	(8.9) 5.4 41.8>	内 山縁部ハケナデ・ナデ→ミガキ(崩部は 不明) 外 口縁部ハケナデ・崩部横位ミガキ 「門形」の字蓋文と、縄文を施文として、4 条のヘラ横模走平行縞文を施す。	底部完形、口縁部1/3残存 7.5Y R7/4(にせい型) 7.5Y R8/3(残黄化)	級密。	
20	弥生土器 合付壺	(3.7) 3.4	内 外 壺部ハケナデ・台基ナデ 合付部ミガキ・その他のナデ 「コ」の字蓋文様あり。	底部1/3残存 5Y R5/2(灰陶)	1mm以下の白色粒子を含む。 級密。	Ⅲ区

## 39) H49号住居址(第61図、第37表、図版二十五・五十五・五十六)

7あ1グリットにあり、H21に切られH48を切る。南北387cm、東西404cm、壁残高40cmの方形を呈す。カマドは北壁中央にあり、西袖はH21に埋される。主軸方位はN-18°-Wを指す。主柱穴はP2とP3であろうか。カマドの東、南東隅に径48cm、深さ32cmの円形ピットP1があり、粘土・炭化物を含んでいる。床下中央には径24cm、深さ24cmを測るP4がある。

掲載遺物は土師器壺(1)・鉢(2)・小型甌(3)・丸胴甌(5)・長胴甌(6・7)・手握(4)がある。1の土師器壺は浅く底径が大きく、外縁を持って外傾する。内外面ミガキ調整。丸胴甌は内外面ミガキ調整。長胴甌は最大径は胴部であろうか。H21号住居址よりは古いが、これらも古墳時代後期の土器群であろう。



第 37 表 H49号住居址出土遺物一覧表

番号	器種	法量	成形・調整	残存量・色調	胎土・特徴	出土位置
1	土師器 杯	(14.0) (11.0) 4.0	内 ミガキ 底部ハラケズリ→ミガキ(外面磨耗)	口縁部1/4残存 7.5YR7/1(灰白)	1mm以下の赤色粒子含む。	P1
2	土師器 鉢	(18.0) c5.1>	内 横模様ミガキ 口縁部模様ナデ・胸部模様ナデ・底部ハラケズリ→ミ ガキ	口縁部1/8残存 5YR7/1(灰白)	1mmの赤色粒子・黒色粒子、 1mm以下の白色粒子少量含む。	I区
3	土師器 壺	(12.2) <5.0>	内 口縁部模様ナデ・胸部ナデ 外 口縁部模様ナデ・胸部ハラケズリ	口縁部1/4残存(外面磨耗) 2.5YR6/4(灰白)	2mm以下の赤色粒子を多量、 1mm以下の白色粒子・黒色 粒子含む。	II区

4	手程	(5.0) (5.2) 3.9	内 ナデ・ヘラナデ 外 ナデ	底部1/2残存 10Y R5/1(褐色)	1mm以下の白色粒子を多量 含む。	カマド
5	土断器 丸胴壺	19.6 (9.3) 26.3	内 横位ミガキ(下半はナゲ調整残る) 外 ミガキ	口縁部1/2残存 底部1/6残存 7.5Y R7/4(にぼい緑)	1mm以下の白色粒子を多量 1mm以下の赤色粒子を少量 含む。	H21 I区検出 H49 III区 IV区・東方
6	土師器 甕	— 22.2	内 口縁部横ナデ・胴部横位ナデ 外 口縁部横ナデ・胴部横位ヘラケズリ	胴部のみ1/2残存 5Y R6/3(にぼい緑)	小石含む。	
7	土師器 甕	(4.0) 4.0	内 ヘラナデ 外 ヘラケズリ	底部1/2残存 5Y R6/4(にぼい緑)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。	I区

## 40) H 54 号住居址 (第62・63・64図、第38表、図版二十六・五十六・五十七)

6 う 5 グリットにあり、II26・H27に切られる。南北591cm、東西602cm、壁残高34cm の方形を呈す。焼失家屋で多くの炭化材が残されていた。カマドは北壁中央にあり、主軸方位は N=6° ~ Wである。カマドは焚口は石で囲い、粘土を貼って構築され、煙道が長く伸びる。主柱穴は P 1 ~ P 4 で梢円形を呈し、短径で40~60cm、深さ52~76cm を測る。北東のカマド東には横円形の長径84cm、深さ20cm の粘土ブロック・炭化物を含むピットがある。塀方で南側中央に2カ所の落ち込みが検出された。(D 1・D 2)

掲載遺物は土師器杯(1~6)・鉢(7・8・10~12)・甕(21)・小型甕(11)・丸胴甕(9・15)・台付甕(13)・長胴甕(16~19)・弥生式土器(20)、黒羅石製石器(40)、黒石製凹石(42)、ガラス質黒色安山岩製剥片石器がある。

焼失家屋であるため土器セットが看取された。17の長胴甕はカマドの構築材として使用されており省いて、他はほぼ完形品で使用状態のまま残されていた。カマド付近での土器使用の様子が窺える。

土師器杯はいずれも内面ミガキ黒色処理される。器形は1が深く外縁を持って外傾、2は平底に近く底部が浅く、外縁をもって不明瞭な稜から屈曲をして外傾する。3・4は器形のゆがみが顕著である。4は5・6の平底に近く内稜・外縁を持って長く外傾する杯と似ている。甕は鉢形で多孔。長胴甕は胴部ヘラケズリとハケ調整があり、最大径は口徑にある。これらは古墳時代後期の土器群であろう。

第38表 H 54 号住居址出土遺物一覧表(1)

番号	器種	法基	成 形・調 整	残 存 量・色 虹	胎 土・特 徵	出土位置
1	土師器 杯	13.0 5.6	内 ミガキ・黒色処理 外 口縁部ミガキ・底部ヘラケズリ	口縁部5%残存(外面削落) 内 N50(黒) 外 10Y R8/5(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。	I区
2	土師器 杯	(12.6) (11.6) 3.6	内 横位ミガキ・黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部ヘラケズリ・ナデ	口縁部5%残存 内 N20(黒) 外 7.5Y R7/3(にぼい緑)	1mm以下の赤色粒子・黒色 粒子含む。	III区
3	土師器 杯	14.0 10.2 3.6	内 ミガキ・黒色処理 外 口縁部ミガキ・底部ヘラケズリ・ミガキ	完形 内 N20(黒) 外 10Y R8/3(浅黄緑)	1mm以下の白色粒子含む。	I区
4	土師器 杯	14.1 5.9 4.1	内 ミガキ・黒色処理 外 口縁部横ナデ・底部及び底部外周ヘラ ケズリ	口縁部5%残存 内 N20(BL) 外 2.5Y R7/1(淡赤緑)	5mm以下の赤色粒子・2mm 以下の黒色粒子・1mm以下 の白色粒子含む。	I区・表探
5	土師器 杯	15.4 8.1 5.2	内 横位ミガキ・黒色処理 外 横位ミガキ	ほぼ完形(外面削落) 内 N20(BL) 外 5Y R7/1(にぼい緑)	1mm以下の白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子含む。	
6	土師器 杯	16.2 7.7 4.4	内 ミガキ・黒色処理 外 ミガキ	完形 内 N20(黒) 外 7.5Y R7/3(にぼい緑)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子含む。	
7	七面器 鉢	(16.0) 6.0 7.2	内 ミガキ 外 LI縁部横ナデ・底部底部ヘラケズリ・ ミガキ	LI縁部30%残存・底部完形 (外面削落) 7.5Y R6/3(にぼい緑)	1mmの赤色粒子含む。1mm 以下の白色粒子少量含む。	
8	土師器 鉢	(15.2) 8.9	内 体部ナデ→口縁部横ナデ・黒色処理 外 体部ヘラケズリ→口縁部横ナデ	口縁部1/4残存 内 N20(黒) 外 5Y R8/4(淡緑)	1mm以下の赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子含む。	III区
9	七面器 小甕 丸胴甕	13.6 7.3 20.2	内 口縁部横ナデ→胴・底部ヘラナデ・黒 色処理 外 口縁部横ナデ・胴部・底部ヘラナデ	完形(削離) 内 N20(黒) 外 5Y R7/4(にぼい緑)	1mm以下の白色粒子・赤色 粒子を含む。 LI縁部に一束の弦線あり。	

